



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

JPN TAXI



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	31
排気ガスに対する注意	39
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	40
チャイルドシート	41
1-3. LPG ハイブリッドシステム	
LPG ハイブリッドシステムの	
特徴	59
LPG ハイブリッドシステムの	
注意	64
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	69

2 メーターの見方

2. メーターの見方	
警告灯／表示灯	72
計器類	76
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	79

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	92
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	94
スライドドア	98
バックドア	109
3-3. シートの調整	
フロントシート	114
ヘッドレスト	116
スロープユニット	119
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	149
インナーミラー	151
アウターミラー	152
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	154

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	158
荷物を積むときの注意	168

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	170
EV ドライブモード	175
トランスミッション	178
方向指示レバー	181
パーキングブレーキ	182

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	183
オートマチックハイビーム	188
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	193
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	195

4-4. 燃料補給のしかた

燃料補給口の開け方	197
-----------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....	203
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	209
LDA（レーンディパーチャー アラート／車線逸脱 警報）	221
先行車発進告知機能	227
クリアランスソナー	229
パーキングサポート ブレーキ（静止物）	239
運転を補助する装置	247

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	253
寒冷時の運転	255

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン	260
シートヒーター	269

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	271
・日報灯	272
・ルームランプ	272
・リヤ読書灯	272

5-3. 収納装備

収納装備一覧	274
・車検証固定バンド	275
・小物入れ	276
・ボトルホルダー	276
ラゲージルーム内装備	277

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	281
・サンバイザー	281
・バニティミラー	281
・アクセサリースOCKET	282
・アクセサリ コンセント	283
・充電用 USB 端子	290
・アシストグリップ/ シートバックアシスト ボード	292
・時計	293
・料金トレイ	293
サービスコネクター	294

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	298
内装の手入れ	302

6-2. 点検・整備項目

定期点検整備 (スロープユニット 装着車)	306
-----------------------------------	-----

6-3. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	308
ガレージジャッキ	311
ウォッシャー液の補充	312
タイヤについて	313
タイヤ空気圧について	317
エアコンフィルターの清掃	319
駆動用電池冷却用吸入口/ フィルターの清掃	321
キーの電池交換	325
ヒューズの点検・交換	328
電球 (バルブ) の交換	332

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	344
非常点滅灯 (ハザードランプ)	345
発炎筒	346
車両を緊急停止するには	348
水没・冠水したときは	349

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	351
警告灯がついたときは	357
警告メッセージが 表示されたときは	363
パンクしたときは (タイヤパンク応急 修理キット装着車)	369
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	381
LPG ハイブリッドシステムが 始動できないときは	393
補機バッテリーが あがったときは	394
オーバーヒートしたときは	401
スタックしたときは	406

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・オイル量
など)410

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧415

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目420

さくいん

こんなときは
(症状別さくいん)422

車から音が鳴ったときは
(音さくいん)425

アルファベット順さくいん426

五十音順さくいん427

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

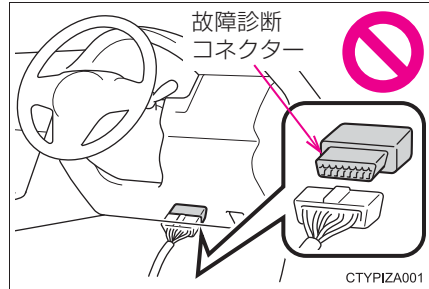
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数 / 電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ 前方カメラの画像情報

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

- 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- LPG ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



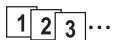
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



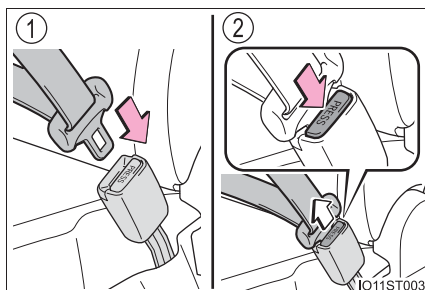
操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。



押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。



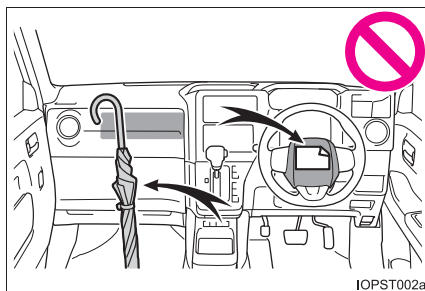
フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。



“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



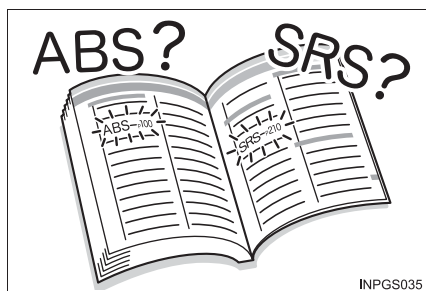
知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

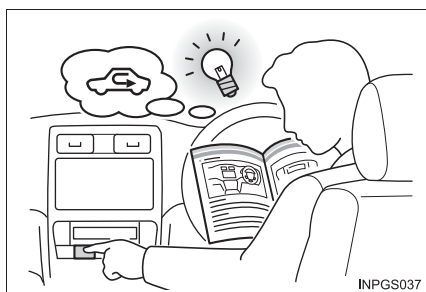
■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん427
- ・ アルファベット順
さくいん426



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



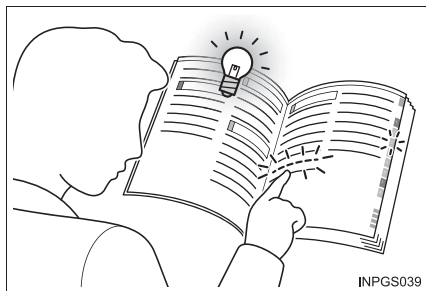
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)422
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)425



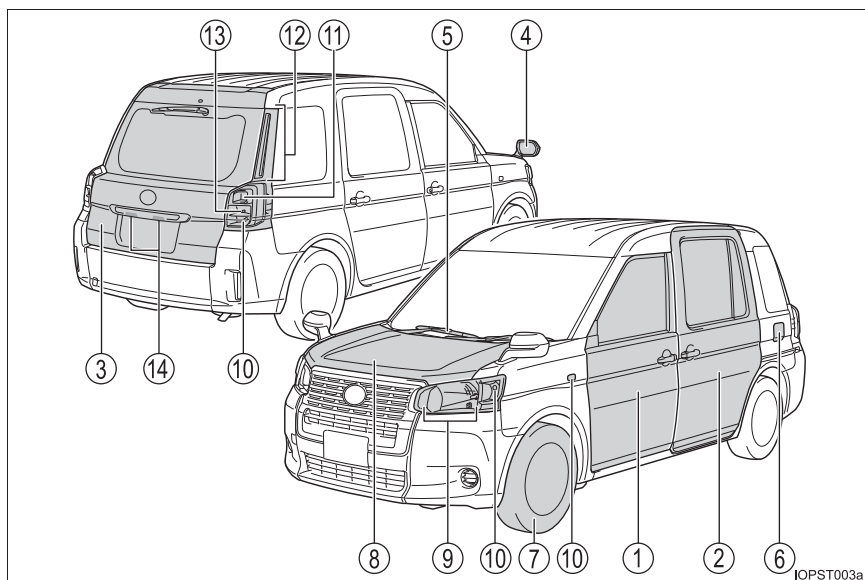
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。(→ P. 332)

- ① ドア P. 94
 - 施錠／解錠 P. 94, 95
 - ドアガラスの開閉 P. 154
 - 警告メッセージ P. 96
- ② スライドドア P. 98
 - 施錠／解錠 P. 98
 - ドアガラスの開閉 P. 154
 - 車内から開ける P. 99
 - 車外から開ける P. 99
 - 警告メッセージ P. 96
- ③ バックドア P. 109
 - 施錠／解錠 P. 109
 - 車外から開ける P. 109
 - 警告メッセージ P. 96

- ④ **アウターミラー**.....P. 152
 鏡面の角度調整.....P. 152
 曇りを取る（ミラーヒーター）★.....P. 262
- ⑤ **ワイパー**.....P. 193, 195
 冬季の注意.....P. 256
 凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★.....P. 262
- ⑥ **燃料補給口**.....P. 197
 補給（充てん）方法.....P. 198
 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 410
- ⑦ **タイヤ**.....P. 313
 サイズ・空気圧.....P. 413
 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 255
 点検・ローテーション.....P. 313
 パンク時の対処.....P. 369, 381
- ⑧ **ボンネット**.....P. 308
 開け方.....P. 308
 エンジンオイル.....P. 410
 オーバーヒート時の対処.....P. 401

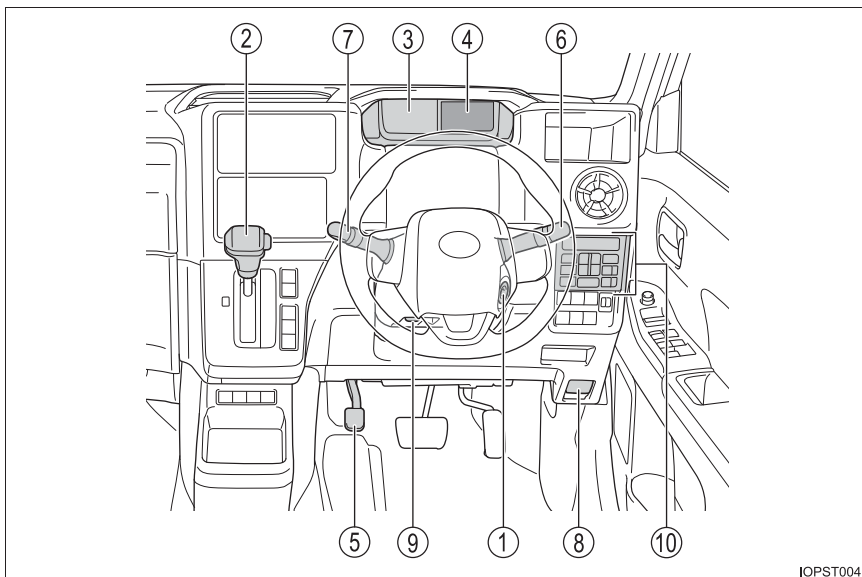
走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P. 332, ワット数：P. 413）

- ⑨ **ヘッドランプ・車幅灯**.....P. 183
- ⑩ **方向指示灯**.....P. 181
- ⑪ **尾灯・制動灯**.....P. 183
- ⑫ **尾灯**.....P. 183
- ⑬ **後退灯**
 シフトポジションを R にする.....P. 178
- ⑭ **番号灯**.....P. 183

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

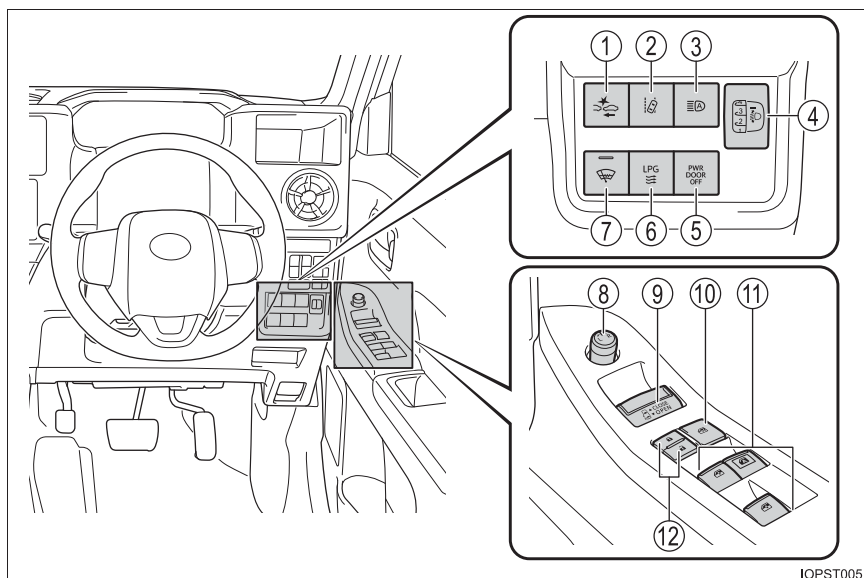


IOPST004

- ① **パワースイッチ**P. 170
 LPG ハイブリッドシステムの始動・位置の
 切りかえP. 170, 171
 LPG ハイブリッドシステムの緊急停止P. 348
 LPG ハイブリッドシステムが始動できないときの対処P. 393
 警告メッセージP. 363
- ② **シフトレバー**P. 178
 シフトポジションの切りかえP. 178
 けん引時の注意P. 351
 シフトレバーが動かないときの対処P. 179
- ③ **メーター**P. 76
 見方・明るさの調整P. 76, 86
 警告灯／表示灯P. 72
 警告灯点灯時の対処P. 357

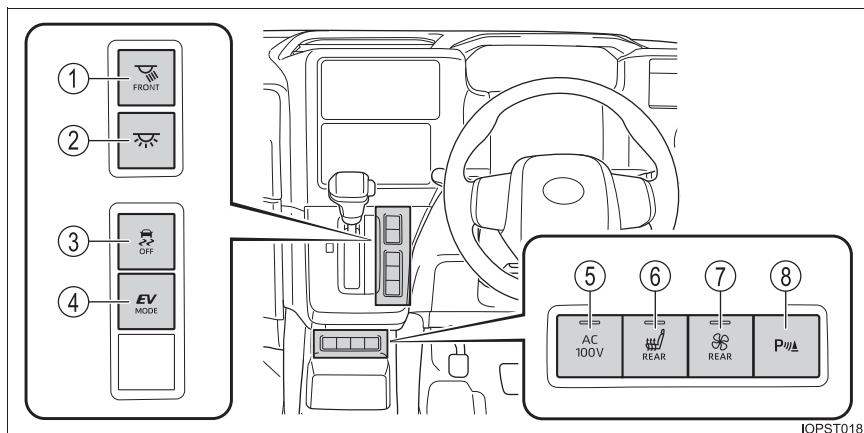
- ④ マルチインフォメーションディスプレイP. 79
 - 表示内容P. 79
 - エネルギーモニターP. 82
 - 警告メッセージ表示時の対処P. 363
- ⑤ パーキングブレーキP. 182
 - かける・解除するP. 182
 - 冬季の注意P. 256
 - 警告ブザー・警告メッセージP. 357, 363
- ⑥ 方向指示レバーP. 181
 - ランプスイッチP. 183
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯P. 183
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチ（フロント）P. 193
 - ワイパー&ウォッシャースイッチ（リヤ）P. 195
 - 使い方P. 193, 195
 - ウォッシャー液の補充P. 312
- ⑧ ボンネット解除レバーP. 308
- ⑨ ハンドル位置調整レバーP. 149
- ⑩ オートエアコンP. 260
 - 操作方法P. 260
 - リヤウインドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォグガー）P. 262

■ スイッチ類



IOPST005

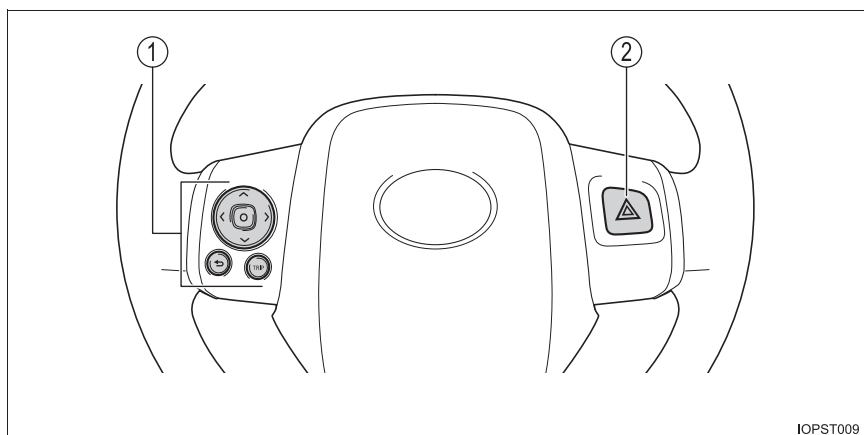
- ① PCS (プリクラッシュセーフティ) スイッチP. 213
- ② LDA (レーンディパーチャーアラート) スイッチP. 222
- ③ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 188
- ④ 手動光軸調整ダイヤル★P. 185
- ⑤ パワースライドドアメインスイッチ.....P. 98
- ⑥ LPG 燃料冷却スイッチP. 200
- ⑦ ウインドシールドデアイサースイッチ★.....P. 262
- ⑧ アウターミラースイッチP. 152
- ⑨ パワースライドドアスイッチ.....P. 99
- ⑩ ウインドウロックスイッチP. 154
- ⑪ パワーウインドウスイッチP. 154
- ⑫ ドアロックスイッチP. 95



IOPST018

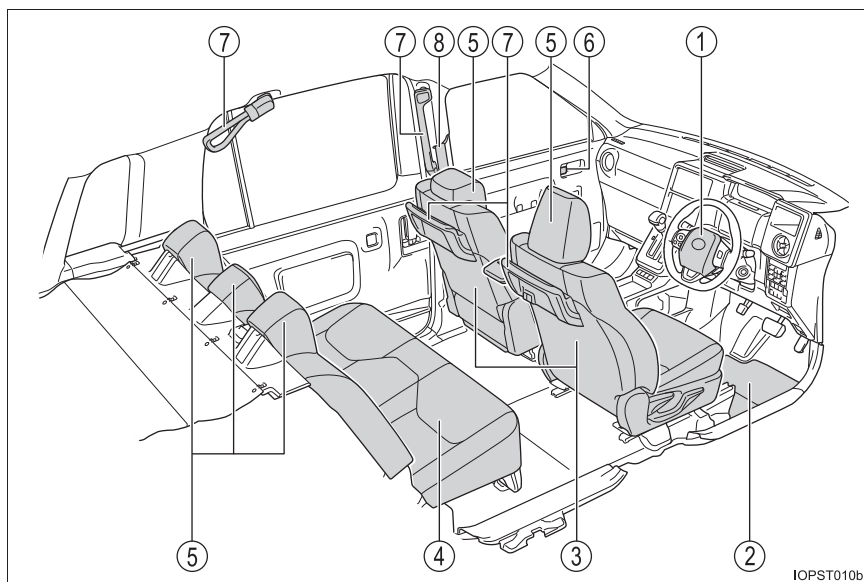
- ① 日報灯スイッチP. 272
- ② ルームランプスイッチP. 272
- ③ VSC OFF スイッチP. 248
- ④ EV ドライブモードスイッチP. 175
- ⑤ AC100V スイッチ★P. 283
- ⑥ リヤシートヒーターメインスイッチ★P. 269
- ⑦ 天井サーキュレーターメインスイッチ★P. 264
- ⑧ クリアランスソナースイッチ★P. 229

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- ① メーター操作スイッチ.....P. 80
- ② 非常点滅灯スイッチP. 345

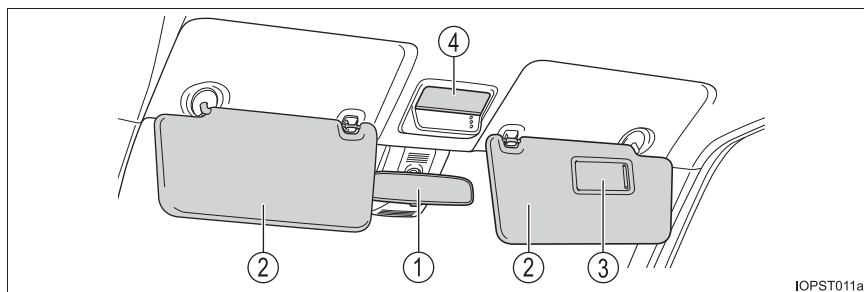
■ 室内



IOPST010b

- ① SRS エアバッグ P. 31
- ② フロアマット P. 22
- ③ フロントシート P. 114
- ④ リヤシート★ P. 128
- ⑤ ヘッドレスト P. 116
- ⑥ ロックレバー P. 95
- ⑦ アシストグリップ★／シートバックアシストボード P. 292
- ⑧ シートベルト P. 26

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



IOPST011a

- ① インナーミラー.....P. 151
- ② サンバイザー ※.....P. 281
- ③ バニティミラー.....P. 281
- ④ 日報灯.....P. 272

※： やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→ P. 44)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	31
排気ガスに対する注意	39
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	40
チャイルドシート	41
1-3. LPG ハイブリッドシステム	
LPG ハイブリッドシステムの	
特徴	59
LPG ハイブリッドシステムの	
注意	64
1-4. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	69

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

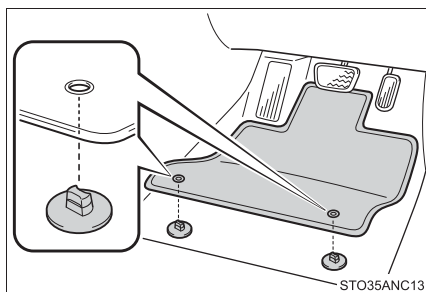
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

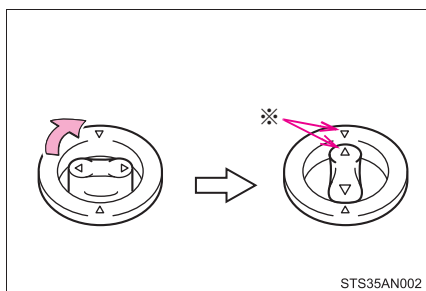
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

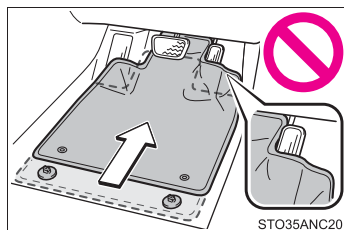
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- LPG ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



スロープユニット★

車いす、または人を乗せた車いすを車内に乗せるときは、スロープを使用してください。（→ P. 119）

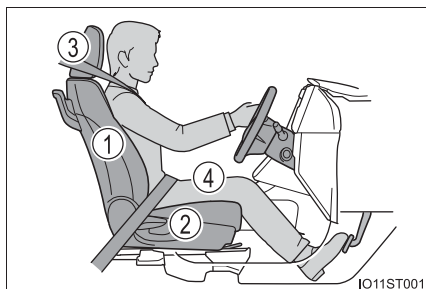
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 114）
- ② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 114）



- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 116）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 41）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・アウターミラーを正しく調整してください。（→ P. 151, 152）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

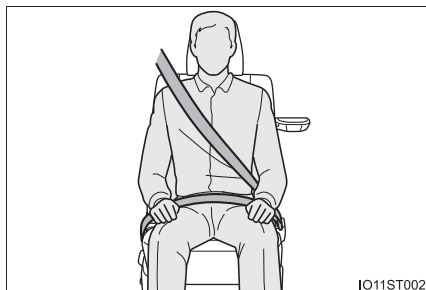
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

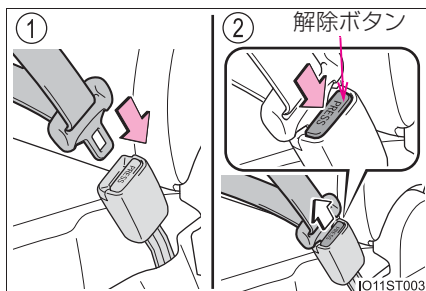
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



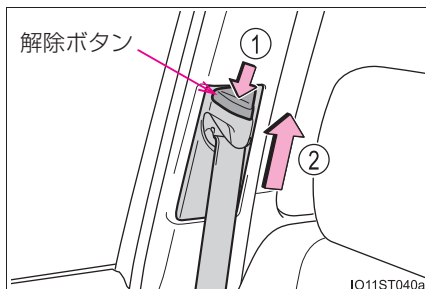
着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（運転席）

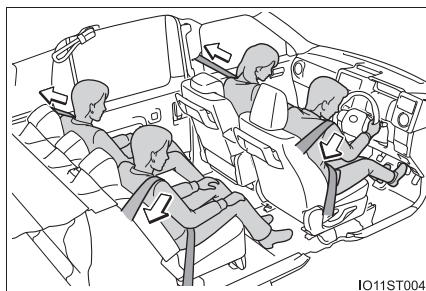
- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席★）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

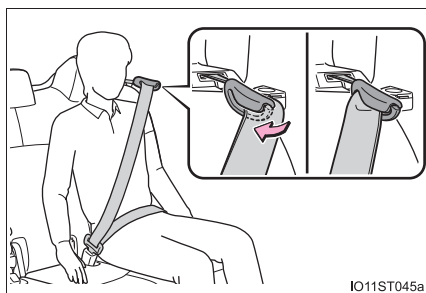
前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



シートベルトリーチャー（リヤ外側席★）

リヤ外側席のシートには、シートベルトを引き出しやすくするためにシートベルトリーチャーが付いています。シートベルトを使用するときはシートベルトリーチャーに通してください。

シートベルトがシートベルトリーチャーからはずれているときは、戻してご使用ください。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

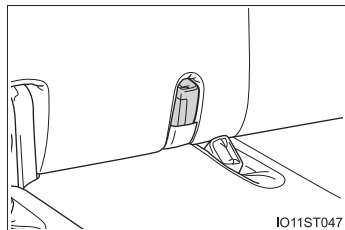
この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 41）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤ中央席★のシートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。

**■ シートベルトプリテンショナーについて（フロント席・リヤ外側席★）**

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ シートベルトリーチャーについて（リヤ外側席★）

シートベルトプリテンショナーが作動すると、シートベルトリーチャーも再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

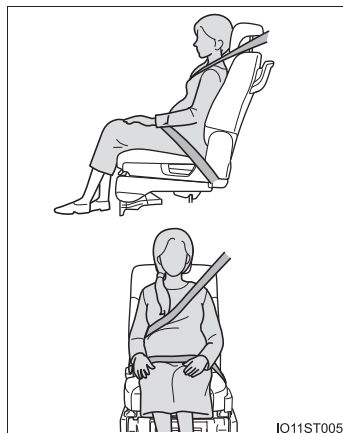
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- リヤシート装着車：お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→ P. 55

■ プリテンショナー付きシートベルトについて（フロント席・リヤ外側席★）

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

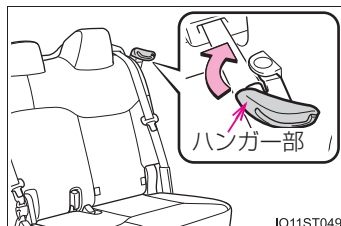
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

■ シートベルトリーチャー★の破損を防ぐために

- シートベルトリーチャーに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。
- シートカバーを脱着するときにシートベルトリーチャーと干渉する場合があります。シートベルトをシートベルトリーチャーからはずし、ハンガー部を車両後方に回転させて固定してから作業を行ってください。

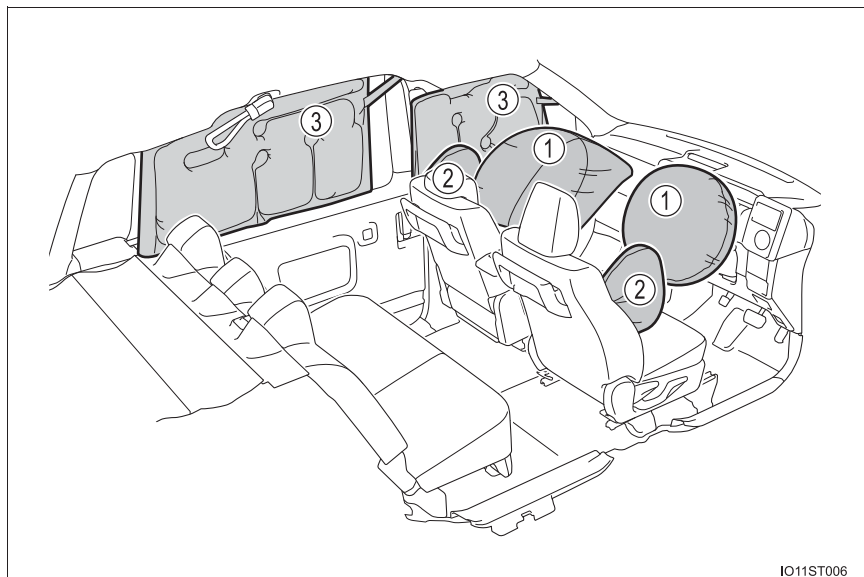


IO11ST049

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ② SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席★乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

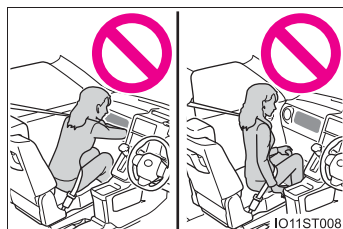
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

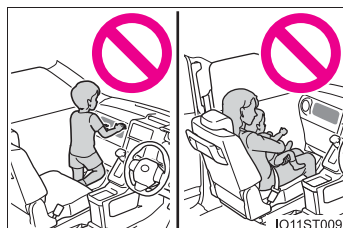
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
リヤシート装着車：お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 41)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告

■ SRS エアバッグについて

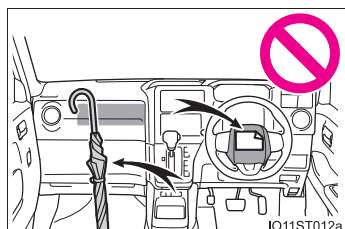
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



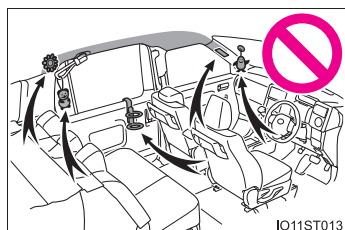
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→ P. 373）



 警告**■ SRS エアバッグについて**

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

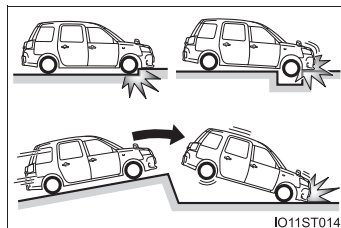
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

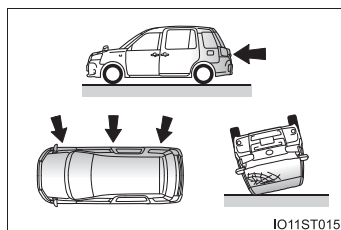
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

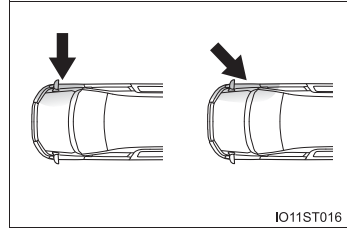
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

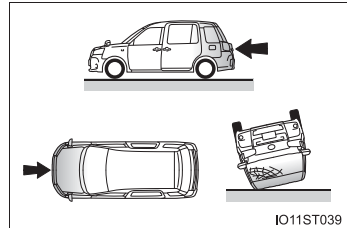
- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



IO11ST016

SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

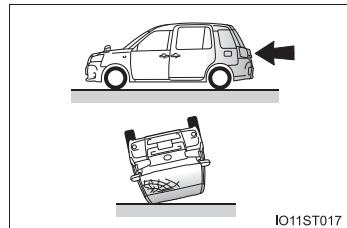
- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



IO11ST039

SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 横転

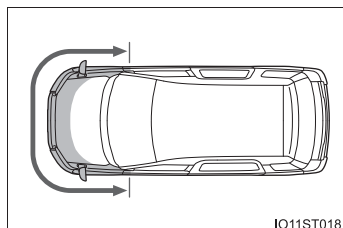


IO11ST017

■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

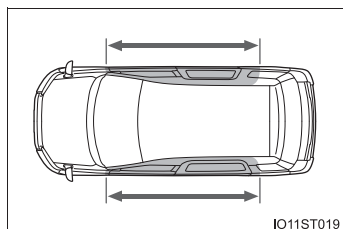
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



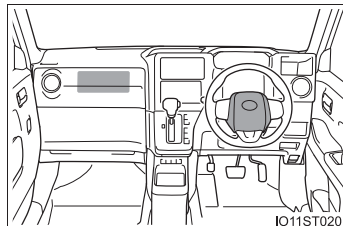
IO11ST018

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



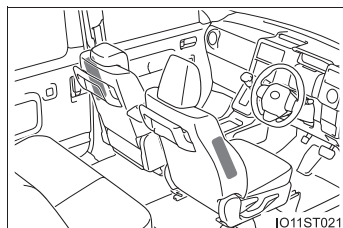
IO11ST019

- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



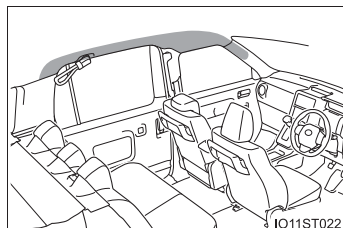
IO11ST020

- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



IO11ST021

- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



IO11ST022

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、LPG ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間 LPG ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、LPG ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 41)
- リヤシート装着車：運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 95)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 154)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 41 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。
リヤシート装着車：お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	41
チャイルドシートを使用するときは	43
シート位置別チャイルドシートの適合性について	46
チャイルドシートの取り付け方法	53
・ シートベルトで固定する	54
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する（リヤシート装着車）	56
・ トップテザーアンカレッジを使用する（リヤシート装着車）	57

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 46）

 警告**■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- リヤシート装着車：トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 46）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

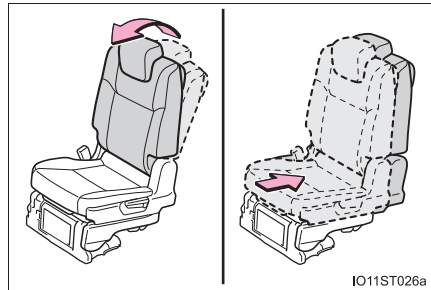
リヤシート非装着車：助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

リヤシート装着車：お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



● シートをいちばんうしろに下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

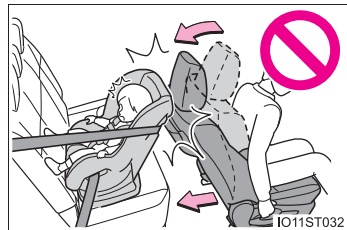


警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。
- リヤシート装着車：運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- リヤシート装着車：助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 47）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 51）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

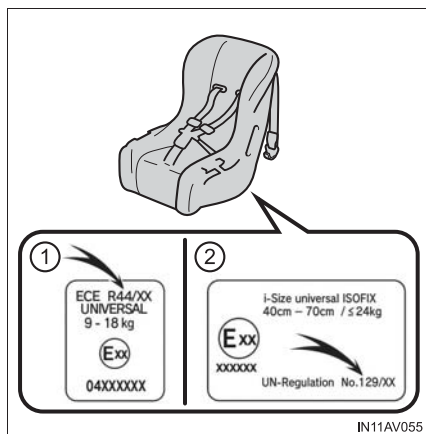
法規番号の表示例

① UN (ECE) R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN (ECE) R129 認可マーク※²

対象となるお子さまの身長
の範囲および使用可能な
体重が記載されています。



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

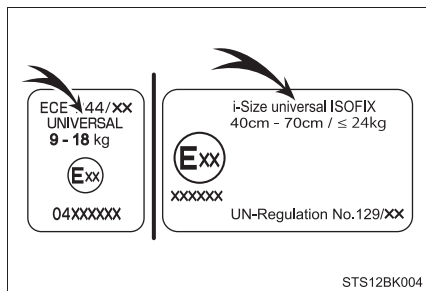
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

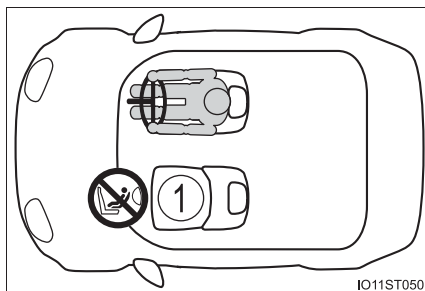
- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



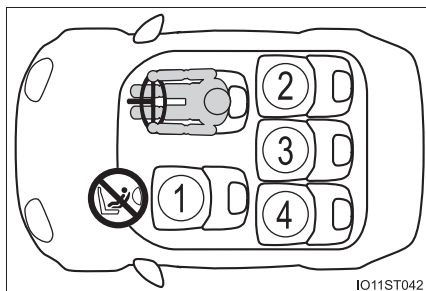
STS12BK004

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ リヤシート非装着車



▶ リヤシート装着車



① ※1, 2, 3	U ※4 L
②	U L ② ③ ④ ⑤
③ ※5	U L
④	U L ② ③ ④ ⑤



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 51）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-SizeチャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。

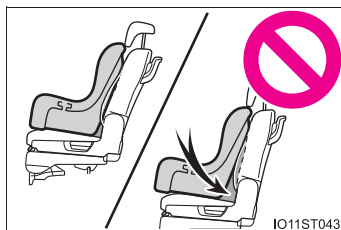


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹ シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※² 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

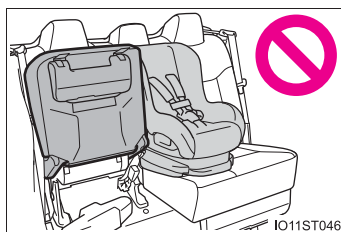


※³ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※⁴ チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

※⁵ クッション部を持ち上げた状態でチャイルドシートを取り付けしないでください。



■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2, R2X, R3	×	R1, R2, R2X, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

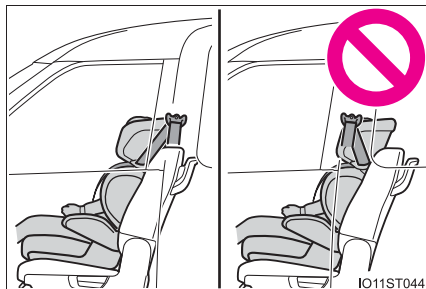
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量 グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
0、0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
I (9 ～ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
Ⅱ、Ⅲ (15 ～ 36kg)	トヨタ純正ジュニアシート	○	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

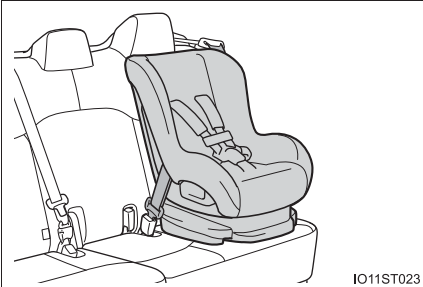
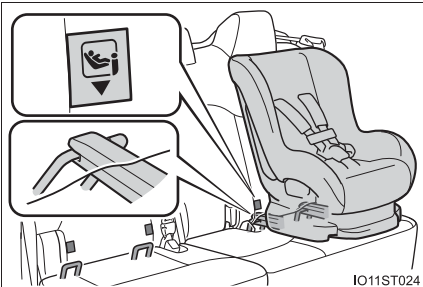
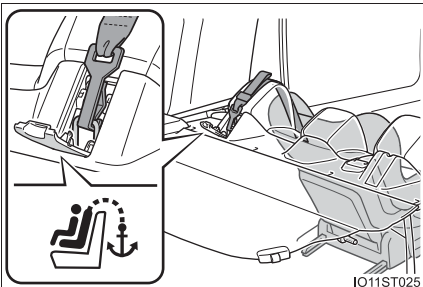
- リヤシート装着車：リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する	 IO11ST023	P. 54
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する (リヤシート装着車)	 IO11ST024	P. 56
テザーベルトを固定する (リヤシート装着車)	 IO11ST025	P. 57

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

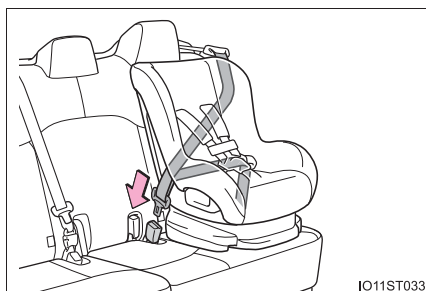
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 47, 47）

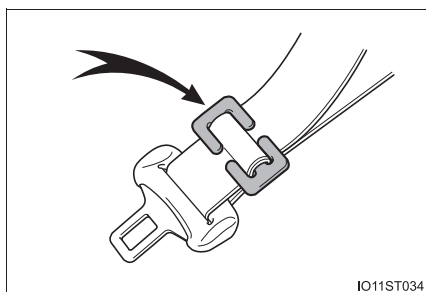
- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 43）

- 2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



- 4 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する（→ P. 55）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

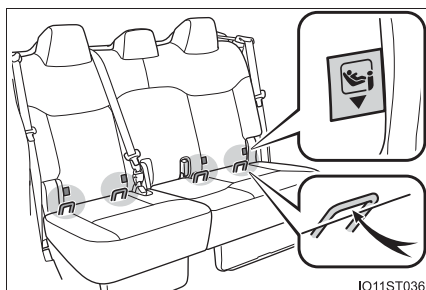
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する（リヤシート装着車）

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



IO11ST036

■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

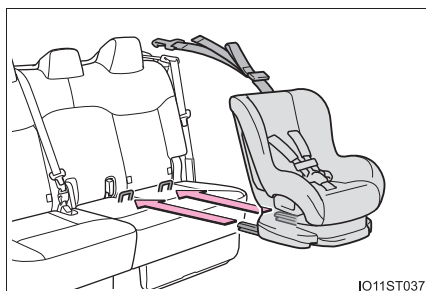
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 47, 47）

1 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



IO11ST037

2 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 55）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

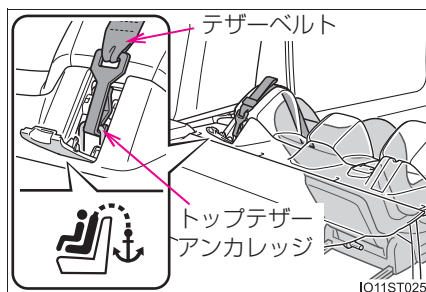
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する（リヤシート装着車）

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

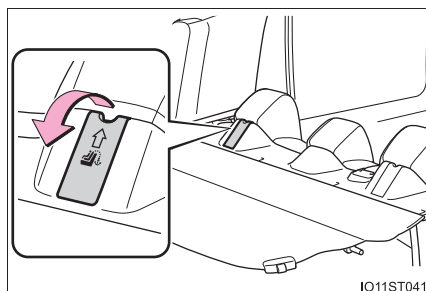
テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

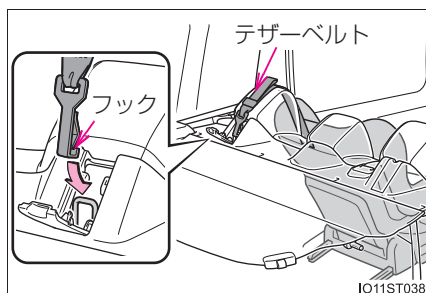
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 カバーを開ける



- 2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 55)



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

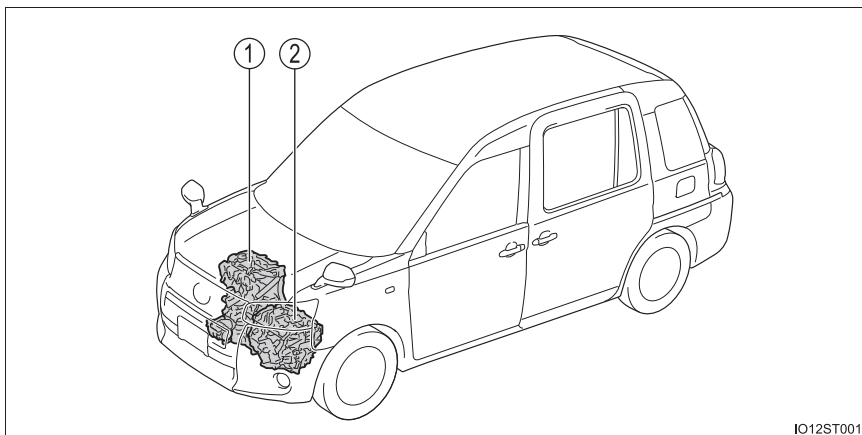
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

LPG ハイブリッドシステムの特徴

LPG ハイブリッドシステムは、電気モーターとLPG エンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



IO12ST001

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① LPG エンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はLPG エンジンを停止※します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もLPG エンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやLPG エンジン暖機中など、LPG エンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 61）

◆ 通常走行時

LPG エンジンと電気モーターを効率よく制御し、走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、LPG エンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

LPG エンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

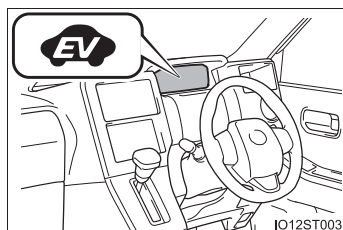
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

LPG エンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているとき、EV インジケーターが点灯します。



■LPG エンジンの自動停止について

車両状態に応じて、LPG エンジンは自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

- LPG エンジン暖機中
- 駆動用電池充電中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 駆動用電池冷却用吸入口のフィルターにほこりがつまっているとき
(→ P. 321)

※ 状況により、上記の他にも LPG エンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

LPG エンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、LPG ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 396

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

LPG エンジンの自動停止が行われないことがあります。

自動停止しない状態が2～3日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯して走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

LPG ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- LPGハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるフロントシート下部および駆動用電池からの音
- LPGハイブリッドシステム始動時および停止時にフロントシート下部から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- LPG エンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- LPG エンジンの始動・停止による振動
- LPG エンジン始動前の燃料循環時に後方から聞こえる燃料ポンプの作動音
- 助手席下部にある吸入口から聞こえるファンの音
- エンジンルーム付近から聞こえる燃料遮断弁の作動音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

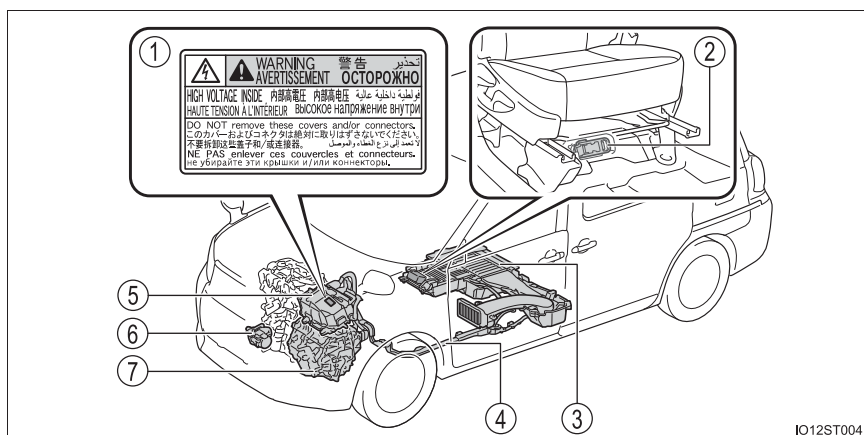
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■ カスタマイズ機能

EV インジケーターを点灯しないようにするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→ P. 415)

LPG ハイブリッドシステムの注意

LPG ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 520V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

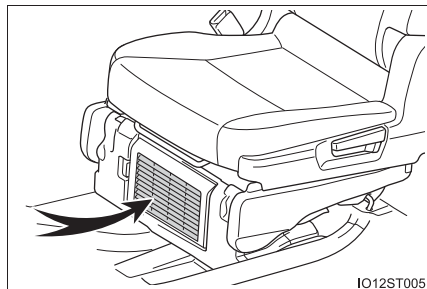


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① ラベル
- ⑤ パワーコントロールユニット
- ② サービスプラグ
- ⑥ エアコンコンプレッサー
- ③ 駆動用電池
- ⑦ 電気モーター
- ④ 高電圧ケーブル（オレンジ色）

駆動用電池冷却用吸入口

助手席下部には駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力が制限され、燃費低下の原因となります。



緊急停止システム

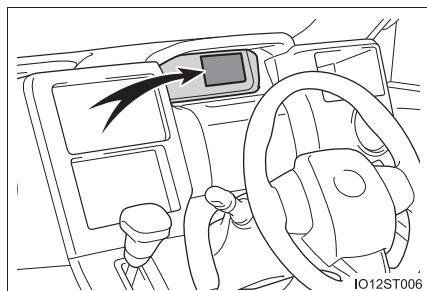
事故により衝撃を受けたときなどは、LPG ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、LPG ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

LPGハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



 知識**■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

LPG ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ ガス欠になったとき

ガス欠で LPG ハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 358）が消灯するまで補給（充てん）してから再始動してください。少量の補給（充てん）では始動できない場合があります。（補給＜充てん＞量は車両水平状態で、タンク容量の 16% 以上必要です。車両の傾きによって最少必要補給＜充てん＞量はかわります。傾いているときは、少し多めに補給＜充てん＞してください）

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■ 適合宣言

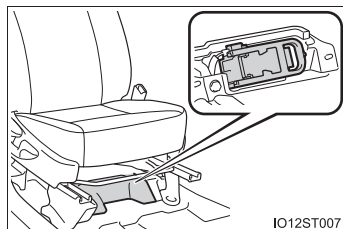
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

⚠ 警告

■ 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後は LPG ハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 351）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのまま LPG ハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

 警告**■ 駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

イモビライザーシステム

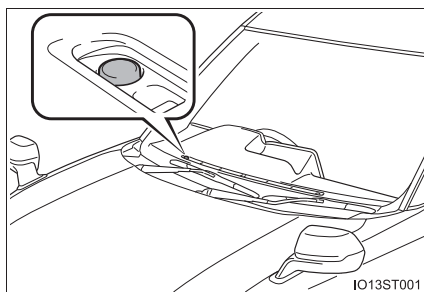
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではLPG ハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

キーをパワースイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインストルメントパネル上のセキュリティインジケータが点滅します。

登録されたキーをパワースイッチに挿し込むとシステムが解除され、セキュリティインジケータが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

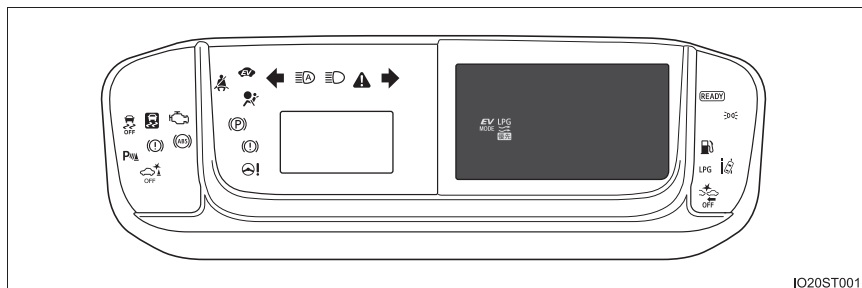
2

2. メーターの見方	
警告灯／表示灯	72
計器類	76
マルチインフォメーション ディスプレイ	79

警告灯／表示灯

メーター・オーバーヘッドコンソール内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯

システム異常などを警告します。

※1



(赤色)

ブレーキ警告灯
(→ P. 357)

※1



(黄色)

電子制御ブレーキ警告灯
(→ P. 357)

※2



充電警告灯 (→ P. 357)

※1



スリップ表示灯
(→ P. 358)

※2



油圧警告灯
(→ P. 357)



フロント席シートベルト非着用警告灯 (→ P. 358)

※1



エンジン警告灯
(→ P. 357)

※3



リヤ席シートベルト非着用警告灯★ (→ P. 358)

※1



SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
(→ P. 357)



燃料残量警告灯
(→ P. 358)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



LPG 表示灯 (→ P. 358)

※1



マスターウォーニング
(→ P. 359)

※1



ABS & ブレーキアシスト
警告灯 (→ P. 358)

※2



ペダル誤操作警告灯
(→ P. 359)

※1



パワーステアリング警告灯
(赤色 / 黄色)
(→ P. 359)

※1



PCS (プリクラッシュ
セーフティ) 警告灯
(→ P. 360)

(点滅
または
点灯)

※2



高水温警告灯
(→ P. 359)

※1



パーキングサポートブレー
キOFF表示灯★(→P. 360)

(点滅)

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはLPG ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※3 オーバーヘッドコンソールに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→ P. 181)		EV ドライブモード表示灯 (→ P. 175)
	ハイビーム表示灯 (→ P. 184)		PCS 警告灯 (→ P. 209)
	尾灯表示灯 (→ P. 183)		EV インジケーター (→ P. 61)
	パーキングブレーキ表示灯 (→ P. 182)		AHB (オートマチック ハイビーム) 表示灯 (→ P. 188)
	LDA 表示灯 (→ P. 222)		READY インジケーター (→ P. 170)
	クリアランスソナー表示灯★ (→ P. 229)		スリップ表示灯 (→ P. 248)
	パーキングサポートブレー キOFF表示灯★(→ P. 239)		LPG 燃料冷却表示灯 (→ P. 200)
	VSC OFF 表示灯 (→ P. 249)		LPG 燃料冷却優先表示灯 (→ P. 200)

※1 作動確認のためにパワースイッチを “ON” にすると点灯し、数秒後または LPG ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

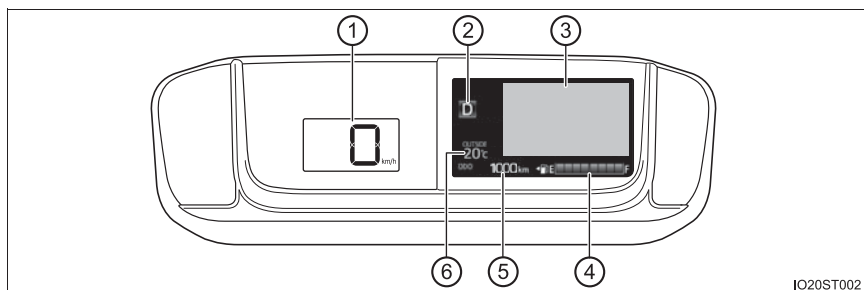
※4 システム作動時に点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告****■安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS やSRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



IO20ST002

① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。

(→ P. 178)

③ マルチインフォメーションディスプレイ

- ・ 走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 79)
- ・ システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。(→ P. 363)

④ 燃料計 ※

燃料残量を示します。

⑤ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑥ 外気温表示 ※

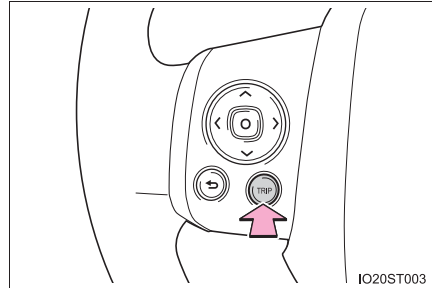
外気温度を -40℃～50℃の間で表示します。

※ シンプル画面を選択しているときは表示が移動します。(→ P. 82)

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。

車幅灯点灯時のメーターの明るさを調整できます。（→ P. 86）

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

トリップメーターがリセットされます。

■外気温表示について

● 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下） のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの設定を変更できます。（→ P. 415）

 注意**■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ LPG ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりにマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（→ P. 363）が表示されます。「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または、「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」と警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 401）

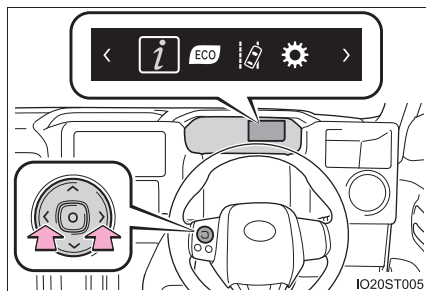
マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

メニューアイコンを選択して各項目を表示させます。

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



メーター操作スイッチの〈または、〉を押すごとにメニューアイコンが次のように選択できます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 80)



ECO

燃費の情報などを表示します。(→ P. 83)



LDA (レーンディパーチャーアラート) 作動表示

LDA (→ P. 221) の作動状況を表示します。



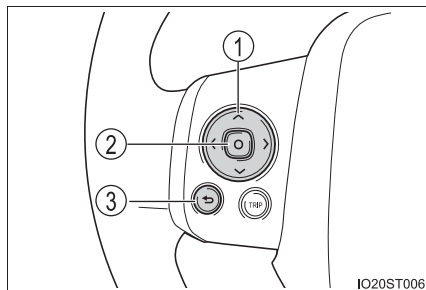
設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。(→ P. 86)

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① メニューの切り替え・ページの切り替え・カーソル移動
- ② 決定／設定
- ③ ひとつ前の画面に戻る



IO20ST006

ドライブインフォメーション

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの〈または〉を押して



を選択し、**▲**または**▼**を押します。

■ ドライブインフォメーション

平均燃費、走行時間、平均車速、EV 走行比率・EV 走行距離はオドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

オドメーター表示時：LPG ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。

トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーターA・Bそれぞれの記録を表示します。

トリップメーターをリセットすると、記録もリセットされます。(→ P. 77)

● AVG (平均燃費)

平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は参考として利用してください。

● AVG (平均車速)

平均車速を表示します。

● TOTAL (走行時間)

経過時間を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面で設定することで表示されるようになります。(→ P. 86)

● (EV 走行比率・EV 走行距離)

EV 走行比率と距離（電気モーターのみで走行している割合と距離）を表示します。

● (航続可能距離)

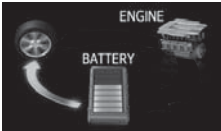
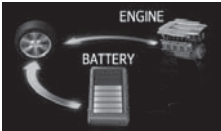
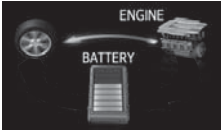
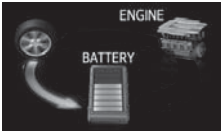
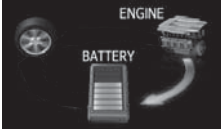
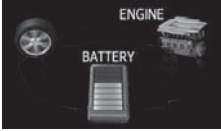
現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料補給量が少量（約 5L 以下）の場合、表示が更新されないことがあります。

燃料補給の際はパワースイッチを“LOCK” にしてください。万一、パワースイッチを“LOCK” にせず燃料補給した場合、表示が更新されないことがあります。

■ エネルギーモニター画面

LPG ハイブリッドシステムの作動状況を確認できます。

電気のエネルギーで走行しているとき	
燃料と電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
燃料のエネルギーで走行しているとき	
駆動用電池に充電しているとき	
	
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない 多い 

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ シンプル画面

時計、外気温、燃料計を拡大した画面を表示します。

ECO

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの〈または〉を押して

を選択し、またはを押します。

■ 表示される内容

● エコジャッジ／ハイブリッドシステムインジケーター

エコジャッジ：

エコ運転の状況を判定し表示します。

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



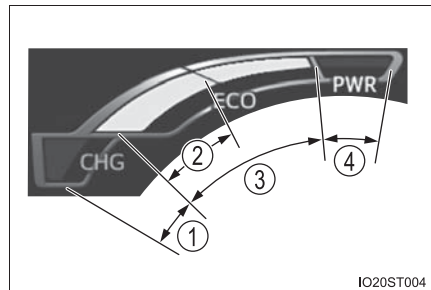
ハイブリッドシステムインジケーター：

① チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア

LPG エンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。



LPG エンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

- ・インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。
- ・チャージエリアは、回生 ※ 状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

● エコウォレット／ハイブリッドシステムインジケーター

エコウォレット：

燃料価格を入力すると、走行距離に応じて消費した燃料の金額を表示します。また、任意の燃費を入力すると、実際に走行した燃費との差が、お得金額として表示されます。

消費した燃料価格の表示や燃費の比較をすることができます。

①消費金額

消費金額を表示します。

オドメーターとトリップメーターのどちらかを表示しているかによって、表示が異なります。

- ・ オドメーター表示時：LPG ハイブリッドシステムを始動してからの金額を表示します。
- ・ トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの金額を表示します。トリップメーター A・B それぞれの金額を表示します。

トリップメーターをリセットすると、金額もリセットされます。(→ P. 77)

②比較燃費

設定画面で、比較したい任意の燃費数値を入力します。(→ P. 87)

ハイブリッドシステムインジケーター：

→ P. 83

● エコウォレット履歴

エコウォレットの履歴を表示します。

- ・ エコウォレットで比較燃費を入力するとお得金額の履歴を表示し、入力しなければ消費金額の履歴を表示します。
今月、過去 3ヶ月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。
- ・ グラフに加え数字も表示します。



● 燃費履歴

月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去 3ヶ月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。

● 燃費ランキング

過去の燃費のベスト 3 と現在の順位を表示します。

- ・ オドメーター表示時：LPG ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。
- ・ トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。(リセットを行うたびにランキングが追加されます)

順位は 100 位までを表示し、以降はランク外として表示されます。

LPG ハイブリッドシステムを始動してからの走行距離が短い場合、燃費ランキングは更新されない場合があります。

● 5 分毎燃費／瞬間燃費

LPG ハイブリッドシステムを始動してからの燃費履歴を 5 分刻みで表示します。瞬間燃費を同時に表示し、30 分前までの燃費と比較することができます。

■ 履歴の消去

エコウォレット履歴・燃費履歴・燃費ランキングを消去することができます。

- 1 消去したい履歴画面を表示しているときにメーター操作スイッチの  を押し続けると、履歴リセット画面を表示します。
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して「はい」を選択し、 を押すと、履歴が消去されます。

■ 燃費時間の切りかえ

燃費時間を 5 分刻み、または 1 分刻みで表示することができます。

- 1 5分毎燃費／瞬間燃費画面を表示しているときにメーター操作スイッチの  を押し続けると、燃費時間画面を表示します。
- 2 メーター操作スイッチの  または  で項目を選択し、 を押します。

走行支援機能情報

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）使用時に表示されます。（→ P. 221）

設定

■ 設定を変更できる機能

マルチインフォメーションディスプレイで次の設定を変更することができます。（→ P. 415）

- LDA（→ P. 225）
- パーキングサポートブレーキ（静止物）★（→ P. 239）
- クリアランスソナー★（→ P. 229）
- 先行車発進告知機能（→ P. 227）
- 夜間調光
車幅灯点灯時のメーターの明るさを調整できます。
- メーターセッティング
 - ・ EV インジケーター
EV インジケーター表示の ON/OFF 切りかえができます。
 - ・ ドライブインフォメーション
ドライブインフォ画面の 1 行目と 2 行目に表示させる項目を選択できます。
 - ・ エコウォレット
燃料価格の設定・比較燃費の設定ができます。（→ P. 87）
 - ・ 日付
日付、時計、メンテナンス日の設定ができます。（→ P. 87）
メンテナンス日を設定すると、設定日にオープニング画面でお知らせします。
 - ・ 操作ガイド表示
メニューアイコン表示の ON / OFF 切りかえができます。
 - ・ 走行結果表示
走行結果表示（→ P. 89）の ON / OFF 切りかえができます。
 - ・ 初期化
メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコウォレットの設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で「エコウォレット」を選択し、 $\odot$ を押す。
- 2 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で「燃料価格」または、「比較燃費」を選択し、 $\odot$ を押す。
- 3 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で数値を設定し、 $\odot$ を押す

■ 日付の設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で「日時」を選択し、 $\odot$ を押す。
- 2 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で「日付」を選択し、 $\odot$ を押す
- 3 メーター操作スイッチの $\blacktriangleleft$ または $\blacktriangleright$ で年／月／日を選択し、 $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で数値を設定し、 $\odot$ を押す

■ 時計の設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で「日時」を選択し、 $\odot$ を押す
- 2 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で「時計」を選択し、 $\odot$ を押す
- 3 メーター操作スイッチの $\blacktriangleleft$ または $\blacktriangleright$ で AM・PM / 時 / 分を選択し、 $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で AM / PM を選択、もしくは数値を設定し、 $\odot$ を押す

■ メンテナンス日の設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で「日時」を選択し、 $\odot$ を押す。
- 2 メーター操作スイッチの $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で「メンテナンス 1」 / 「メンテナンス 2」 / 「メンテナンス 3」 / 「メンテナンス 4」 / 「メンテナンス 5」を選択し、 $\odot$ を押す
- 3 メーター操作スイッチの $\blacktriangleleft$ または $\blacktriangleright$ で年／月／日を選択し、 $\blacktriangle$ または $\blacktriangledown$ で数値を設定し、 $\odot$ を押す。

 知識

■ オープニング画面の表示について

パワースイッチを“ON”にすると、マルチインフォメーションディスプレイにオープニング画面が表示されます。

■ 駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の充電量は LPG ハイブリッドシステムによって自動制御されています。

そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・LPG エンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（レベル 8）まで到達しないことがあります。異常ではありません。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき（LDA 設定と調光設定を除く）

■ エコジャッジについて

走行条件や環境によって評価点は変化します。そのため、燃費とリンクしない場合があります。

■ エコウォレットについて

- 消費金額・お得金額は目安として利用してください。
- 燃料補給のしかた・走行条件・環境などによって、実際に燃料補給したときの金額と画面に表示される金額に差が出る場合があります。
- 消費金額・お得金額は、エコジャッジの評価点とはリンクしない場合があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

次のデータはリセットされます。

- 時計
- 燃費ランキング（4 位以下）
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速
- EV 走行比率・EV 走行距離
- 走行時間

■液晶ディスプレイについて

→ P. 77

■燃費ランキングの割り込み表示について

トリップメーターをリセットするか、LPG ハイブリッドシステムを停止したときに燃費がベスト 3 までに入っていた場合、燃費ランキング画面が割り込み表示し、ランクインした順位が 3 回点減します。

■今回の走行結果表示について

LPG ハイブリッドシステムを停止すると、LPG ハイブリッドシステムを始動したときからの走行データを一覧で表示します。
ドアをロックすると画面は消えます。

走行結果が表示されているあいだに、いずれかのドアを開けても、開いているドアの表示は行われません。

今回の走行	
走行距離	100.0 km
走行時間	2 h 30 m
燃費	12.3 km/L
お得	¥ 741

IQ20ST011

■燃料補給をしたときは

燃料補給後にパワースイッチを “ON” にすると、自動で燃料価格入力画面（→ P. 87）が表示されます。

 警告**■エコジャッジについて**

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

- 安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、走行中は画面を見続けしないでください。
- LPG ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にLPG ハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

各部の操作**3**

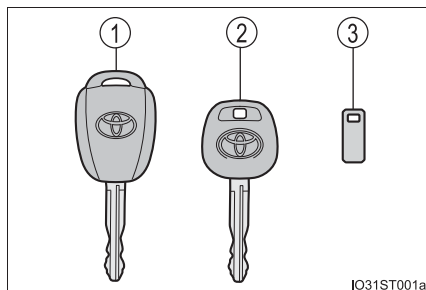
3-1. キー	
キー	92
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	94
スライドドア	98
バックドア	109
3-3. シートの調整	
フロントシート	114
ヘッドレスト	116
スロープユニット	119
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	149
インナーミラー	151
アウターミラー	152
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	154

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

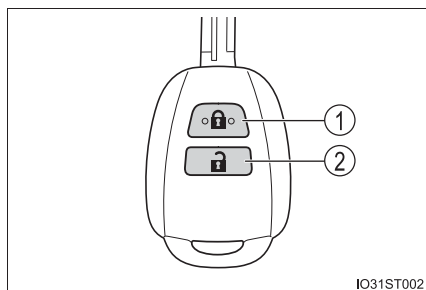
- ① キー（ワイヤレス機能装着）
・ ワイヤレス機能の作動
- ② キー（ワイヤレス機能非装着）
- ③ キーナンバープレート



IO31ST001a

ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠（→ P. 94）
- ② ドアの解錠（→ P. 94）



IO31ST002

知識

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ ワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった

■ 電池の交換方法

→ P. 325

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

■ キー取り扱いの注意

ワイヤレスドアロックリモコンは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・ 必ず日本国内でご使用下さい。

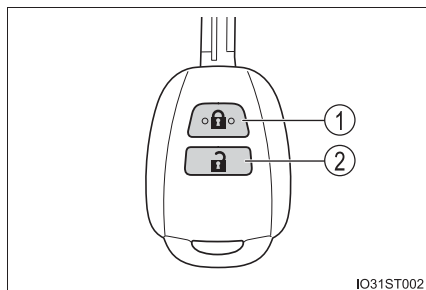
ドア

ワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外からの解錠／施錠

◆ ワイヤレスリモコン

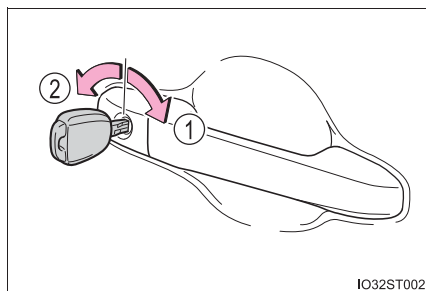
- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



IO31ST002

◆ キー（運転席）

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



IO32ST002

知識

■ 作動の合図

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

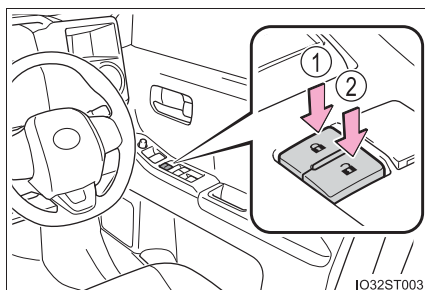
■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- キーを使ってドアの施錠・解錠ができます。
- キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 325）

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

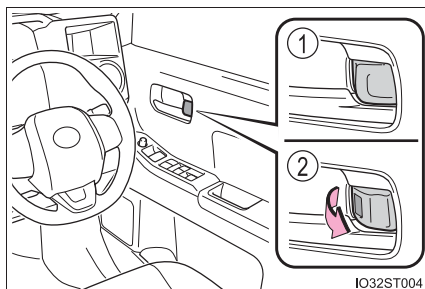
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

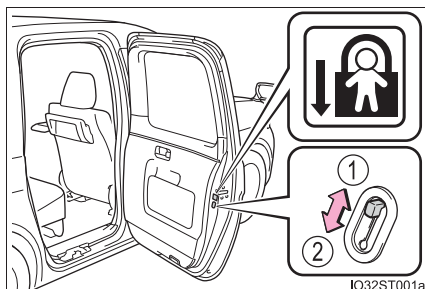
キーがパワースイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、右側リヤドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内から右側リヤドアを開けられないようにできます。



 知識**■ マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは**

いずれかのドアが確実に閉まっていません。各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。全ドアを確実に閉めてください。

■ ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき
- ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■ カスタマイズ機能

ワイヤレス機能を非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 415)

 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- リヤシート装着車：お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→ P. 95）を使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 94

◆ キー（運転席）

→ P. 94

車内からの解錠・施錠

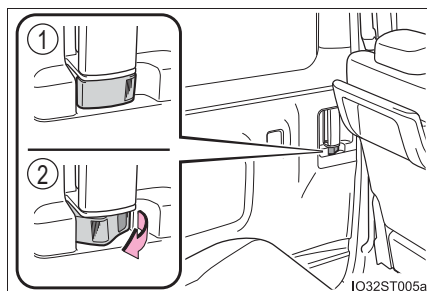
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 95

◆ ロックレバー

① 施錠

② 解錠



パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

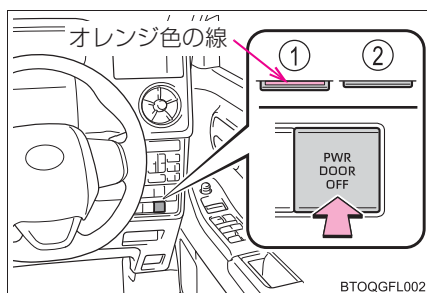
① ON※

パワースライドドアをパワースライドドアスイッチまたは、車外のスライドドアハンドルの操作により、電動で開閉できます。

※ ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色の線が現れます。

② OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。



スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 98）が ON のとき、次の方法でスライドドアを自動開閉できます。

◆ スライドドアハンドル

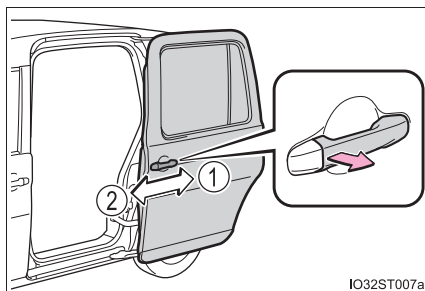
ドアハンドルを引いて開閉する

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

- ① 開く
- ② 閉じる

ドアハンドルを引くとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。

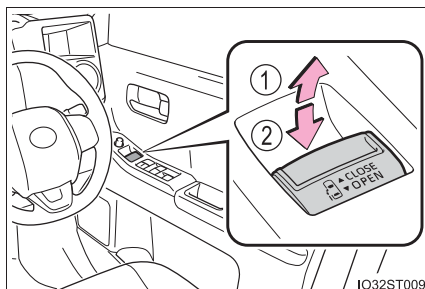
また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを引くと自動開閉作動が停止します。



◆ パワースライドドアスイッチ

- ① 開ける
- ② 閉める

スイッチを操作しているあいだ開閉します。（安全のため、自動で全開、全閉しません）

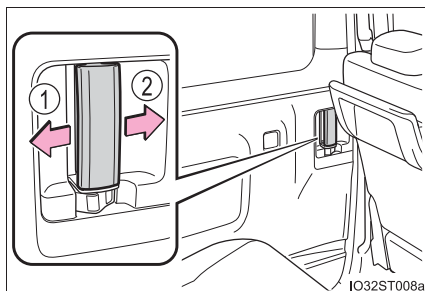


スライドドアの手動開閉

◆ インサイドドアハンドル

- ① 開く
- ② 閉じる

ドアハンドルを操作するとドアが手動で開閉できます。



 知識

■ 作動の合図（パワースライドドア使用时）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 燃料補給口のフタが開いているとき

燃料補給口のフタが開いていると、スライドドアはわずかにしか開きません（ストッパー位置で停止します）。ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、いったんスライドドアを全閉にしてから、燃料補給口のフタを閉じ再度スライドドアを開けてください。

■ イージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- パワースイッチが“LOCK”になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーが施錠側のときを除く）

■ パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、電動で開閉できます。

- スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）
- 燃料補給口のフタが閉じている
- 上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。（閉作動を除く）
 - ・ シフトレバーが P のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき

■ スライドドアを手動で開けるときの条件

次の条件をすべて満たしているときに、手動で開閉できます。

- スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）
- 燃料補給口のフタが閉じている
- 車速が 3km/h 以下（閉作動を除く）

■ パワースライドドアの作動について

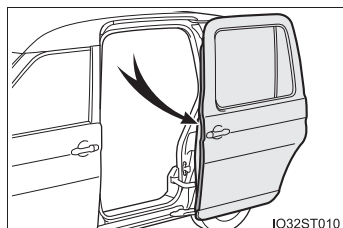
- パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、車外のスライドドアハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、手動でのみ開閉できます。
- 燃料補給口のフタが開いているときに、自動でパワースライドドアを開けようとするとブザーが鳴り作動しません。
- パワースライドドア開閉中に燃料補給口のフタを開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。
- パワースライドドア開閉中に車内のスライドドアハンドルを操作すると、パワースライドドアの作動が停止します。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、約 10cm 反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、次のように作動します
逆方向に動く：
・ 車外のスライドドアハンドルを引く
開方向に動く：
・ パワースライドドアスイッチを OPEN 側に引き続ける
閉方向に動く：
・ パワースライドドアスイッチを CLOSE 側に押し続ける
- スライドドアが全開状態のときに車内のスライドドアハンドルでロックを解除し、スライドドアを手動で閉めようとすると、自動で閉作動する場合があります。自動閉作動中はブザー音が断続的に鳴ります。
自動閉作動中に人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、作動を停止し、手動操作に切りかわる場合があります。再びパワースライドドアを使用するには、スライドドアのドアハンドルを操作して手動で一度全閉にしてください。

■補機バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期化を行ってください。スライドドアのドアハンドルを操作して手動で一度全閉にすることで初期化できます。

■挟み込み防止機構

パワースライドドアの前端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは約10cm 反転作動したあとに停止します。



■予約ロック機能について

スライドドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、スライドドア以外のすべてのドアが施錠され、スライドドアが閉まると同時にスライドドアも施錠されます。

- 1 スライドドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 スライドドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う (→ P. 94)

すべてのドアが閉まり施錠されると、非常点滅灯の点滅で知らせます。

予約ロック機能を解除するには、キーの解除ボタンを押してください。

- 予約ドアロック操作をしてスライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機構が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。
- 予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、ワイヤレスリモコンを車内にもどすと、車内にワイヤレスリモコンが閉じ込められることがあります。予約ロック機能を使用するときは、必ずワイヤレスリモコンを携帯した状態で行ってください。
- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは

→ P. 96

■自動洗車機を使うとき

→ P. 298

■ カスタマイズ機能

スライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 415)

⚠ 警告

■ 走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■ お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ スライドドアの操作にあたって

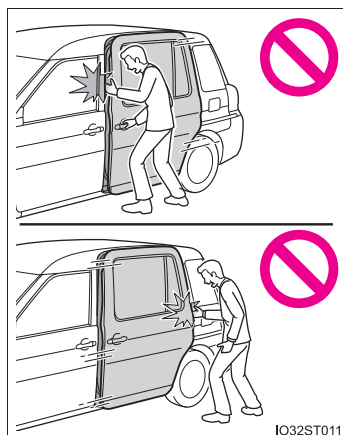
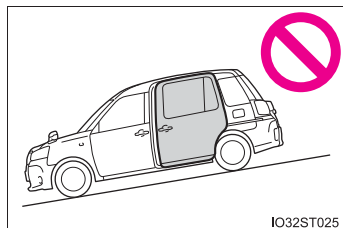
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

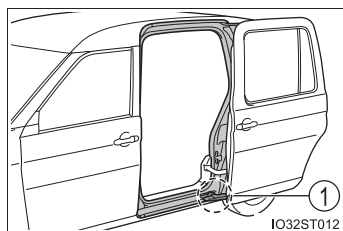
- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・腕・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。

！警告

- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります
- スライドドアがストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアにあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でスライドドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



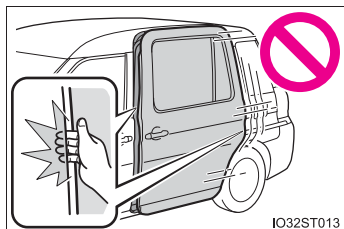
- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に（①）の部分には十分注意してください。



⚠ 警告

■ イージークローザーについて

- スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



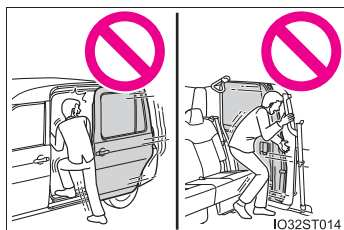
IO32ST013

- イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

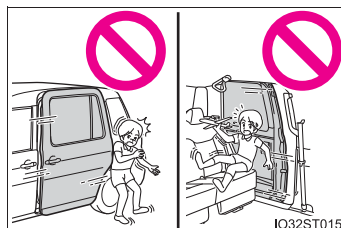


IO32ST014

- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ LPG ハイブリッドシステム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、パワースイッチを“ON” にしたり LPG ハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき
- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告**■ 挟み込み防止機能（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）**

次のことを必ずお守りください。

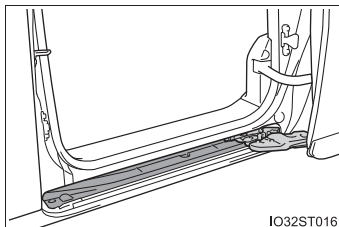
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

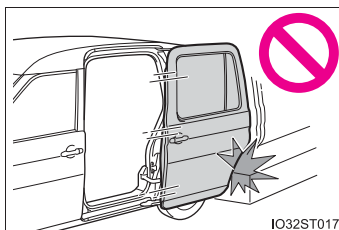
注意**■ スライドドアについて**

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

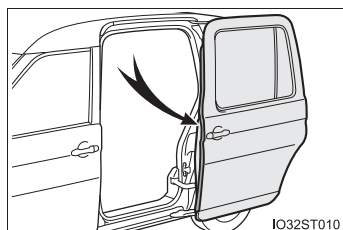


 注意**■ イージークローザーについて**

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

車外からの施錠／解錠

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 94

◆ キー

→ P. 94

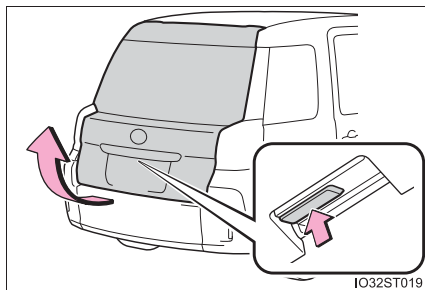
車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 95

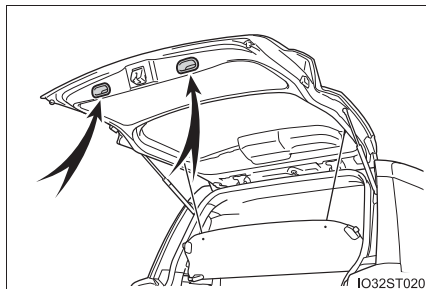
バックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

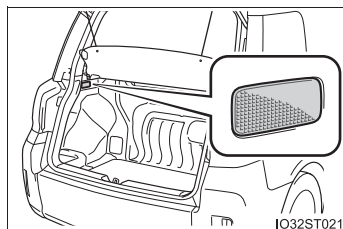


バックドアを閉めるとき

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

 **知識****■ラゲージルームランプ**

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

**■マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは**

→ P. 96

 警告**■ 走行する前に**

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

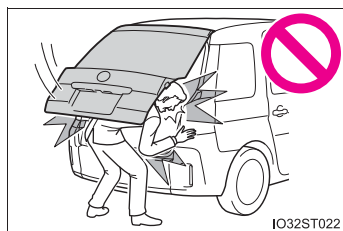
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

- 強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

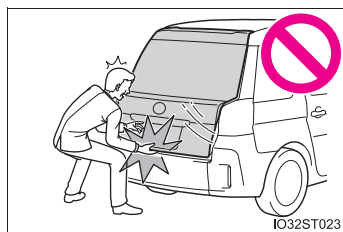
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



IO32ST022

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



IO32ST023

- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。

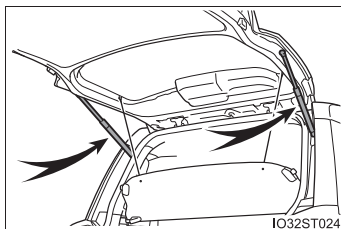
手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

 注意**■ ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整（運転席のみ）
- ④ 腰部位置調整（ランバーサポート）（運転席のみ）



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

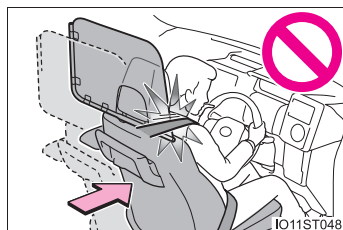
- 腕などがハンドル周辺にあたっけがをしないように注意してください。
- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害および、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

 注意**■ フロントシート後部にタクシー用品を取り付けたときは**

シートベルトと干渉しないようにシートを調整してください。タクシー用品がシートベルトと干渉すると、シートベルトが損傷するおそれがあります。



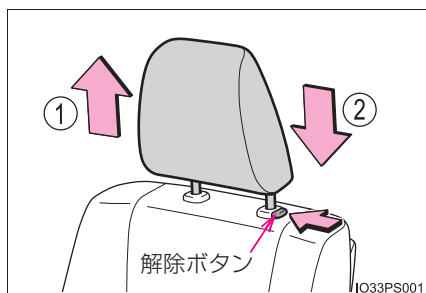
ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

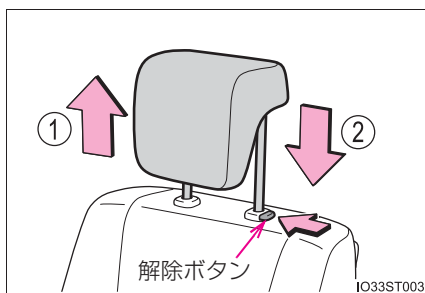
リヤシート装着車：リヤ席に装備されているヘッドレストはシート一体式のため、調整できません。

上下調整するには

▶ 運転席



▶ 助手席



① 上げる

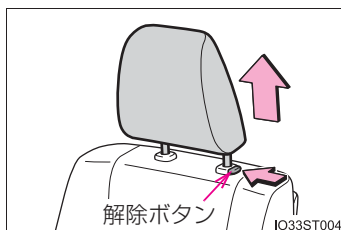
② 下げる※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

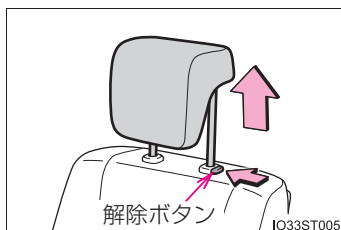
 知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引 ▶ 運転席
き上げます



▶ 助手席



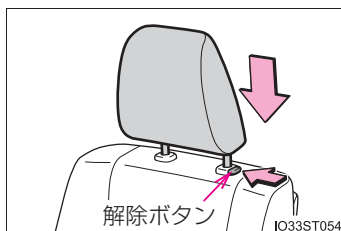
3

各部の
操作

■ヘッドレストを取り付けるとき

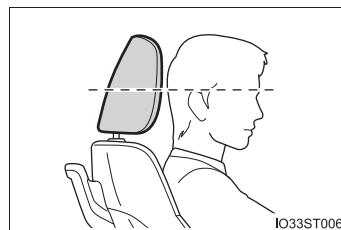
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、
ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



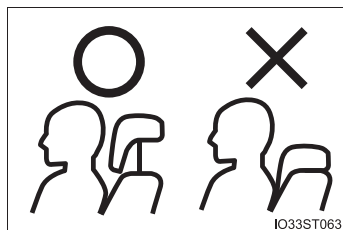
■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん
上のあたりになるよう調整してください。



■ 助手席のヘッドレストの使用について（上下調整式ヘッドレスト）

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から、“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

**⚠ 警告****■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

スロープユニット★

車いす、または人を乗せた車いすを、スロープ上を移動して車内に乗せることができます。

操作はすべて介助の方※が行ってください。

※ 介助の方とは、車いす利用者以外の方が対象となります。

⚠ 警告

■ スロープを使用するときは

- スロープを落としたり、ぶつけたりしないでください。スロープが当たってけがをしたり、スロープが損傷したりするおそれがあります。
- スロープユニットは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車には使わないでください。また、車いすを乗せる・降ろす以外の目的で使用しないでください。

スロープを使用して車いすを車内に乗せるには

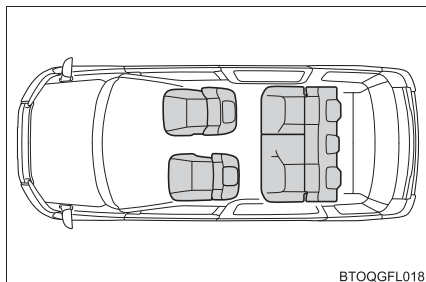
- 車いす乗車スペースを確保する (→ P. 127)
- スロープをセットする (→ P. 130)
- 車いすを固定する (→ P. 137)
- シートベルトを着用する (→ P. 142)
- スロープを収納する (→ P. 144)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内レイアウト

▶ 車いすを乗せないとき

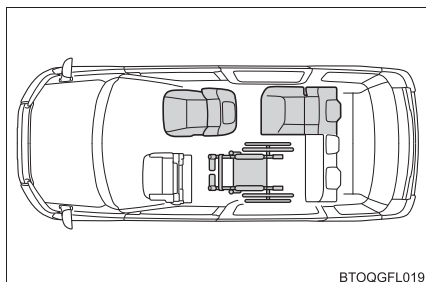
乗車定員 5 名（運転者含む）



BTOQGFL018

▶ 車いすを乗せるとき

乗車定員 3 名（運転者含む）
（2 名 + 車いす 1 名）

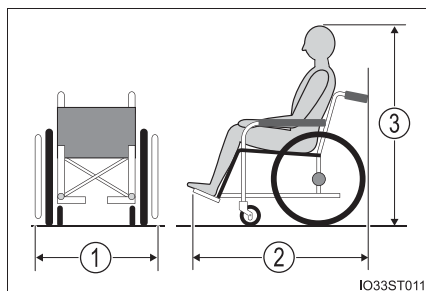


BTOQGFL019

乗車可能な車いすについて

- 車いすのフレーム形状によっては、車いす固定装置のフックが正しくかけられない場合があります（→ P. 137）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 車いすのアームレスト下側にカバーなどがある場合、シートベルトを正しく着用できない場合があります（→ P. 142）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 乗車可能な車いすのサイズは、次のとおりです。乗降口の高さは、車いすの座面と乗車される方の体格に配慮してください。

- ① 幅：700mm 以下
- ② 長さ※：1200mm 以下
- ③ 高さ：1300mm 以下



※ 長さは、フットレストの先端から介助ハンドル後端までの距離です。ご利用者のつま先からの距離ではありません。

- 標準的な車いすのサイズ（JIS 規格：幅 700mm、長さ 1200mm、高さ 1200mm）以内であれば乗車が可能です。
- 乗車可能な車いすのサイズであっても、車いすの形状や回転性能によっては乗車できないことがあります。
- リクライニング機構付き車いすの場合、リクライニング状態で乗車可能なサイズ内であれば乗車が可能です。
- スロープの耐荷重は 300kg です。スロープに乗り入れる「車いす + 車いす乗車の方 + 手荷物 + 介助の方」の合計重量が 300kg 以下であることを確認してください。
- 車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

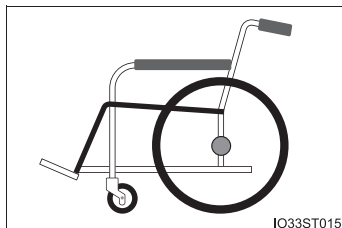
 知識

■ 車いすについて

本書では車いすについて、次のように定義しています。

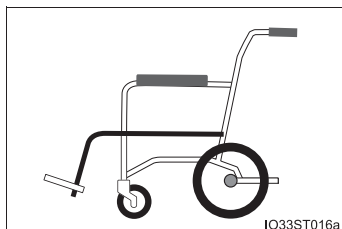
▶ 大径タイヤの車いす

ご乗車の方が操作する自走用車いす



▶ 小径タイヤの車いす

介助の方が操作する介助用車いす

 警告

■ 損傷を防ぐために

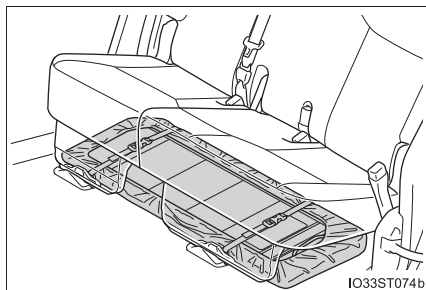
スロープの耐荷重 300kg をこえないようにしてください。スロープが損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

スロープユニットについて

■ スロープの収納位置について

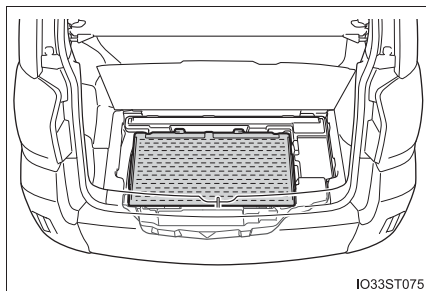
▶ スロープ No.1

リヤシートの下に収納されています。



▶ スロープ No.2

ラゲージルーム内のデッキボード下に収納されています。



■ スロープ No.1、スロープ No.2 について

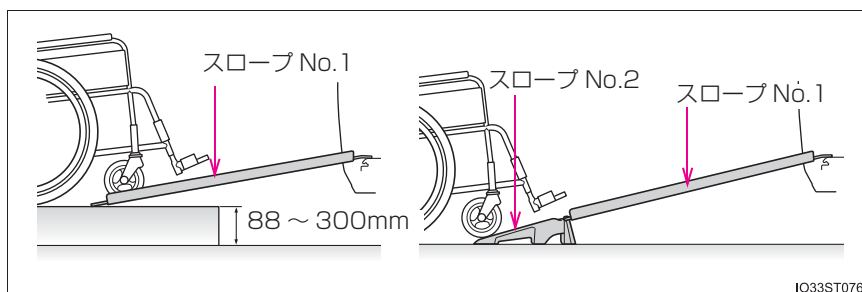
スロープを設置する際、歩道の有無や高さに対応するため、スロープユニットが 2 分割になっています。歩道（高さ 88 ～ 300mm）がある場所で設置するときはスロープ No.1 のみを使用し、歩道が無い場所や歩道の高さが 88mm 未満の場所で設置するときは、スロープ No.1 ・ No.2 の両方を使用します。

必要なスロープが設置できるスペース ※ を確保してください。

※ スロープの長さ

スロープ No.1 : 1100mm

スロープ No.1 + No.2 : 1464mm



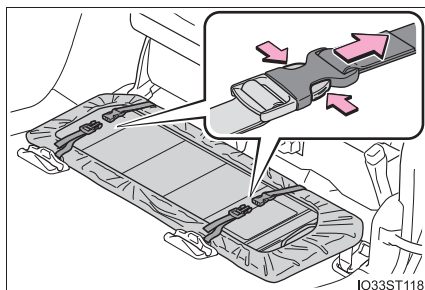
スロープユニットを使用する前に

■ お車を使用する前に

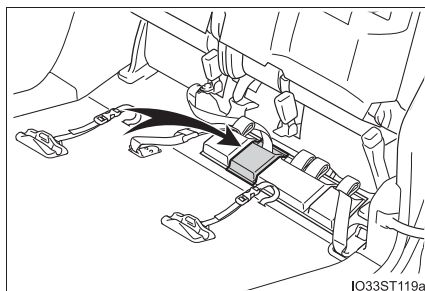
リヤシートのクッション部をたたみ（→ P. 128）、次の準備をおこなってください。

スロープユニットの使用後にもとにもどす必要はありません。

1 スロープ No.1 を取りはずす



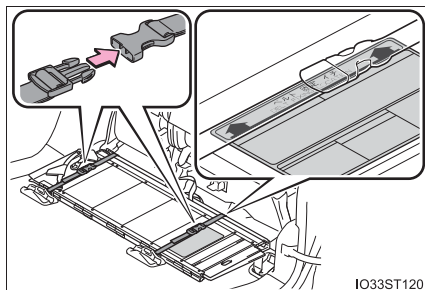
2 シートベルト延長用ベルト（灰色）のテープを切り、リヤシート下のポケットに収納する



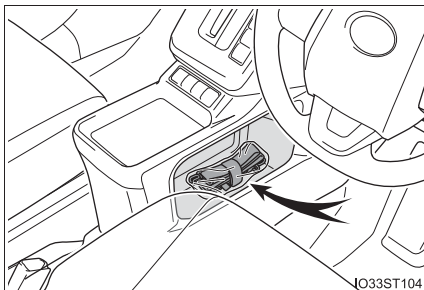
3 スロープ No.1 のカバーをはずして固定する

スロープのラベルにある線にバンドを合わせてください。

カバーは、ラゲージルームに収納してください。



- 4 スロープ収納ベルトをコンソール（運転席側）の小物入れ（→ P. 276）から出して、ラゲジルームに収納する



■ スロープユニットを使用するときは

- 使用する前にベルト類の点検をし、ベルトにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- 作業を行うときは、安全で平坦な場所に停車し、シフトレバーを P の位置にし、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 周囲の安全に配慮し、作業中は非常点滅灯を点滅させ、運転席ドア、右側リヤドアは開けたままにしないでください。
- 車両周辺および下側に人や突起物がないことを確認してください。

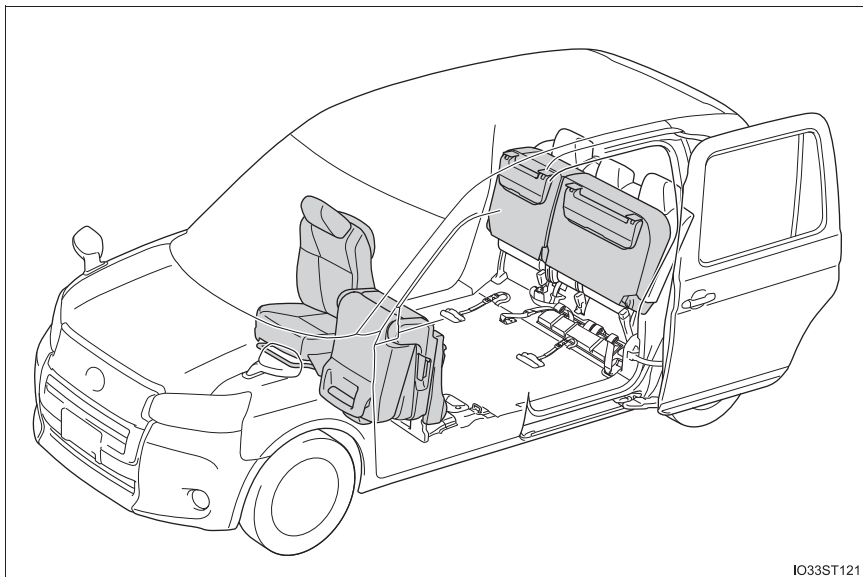
警告

■ 車両の駐車場所について

- 安全で平坦な場所で駐車してください。
狭い所や不整地、傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。
- 可燃物付近に駐車しないでください。
車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。

車いす乗車スペースを確保する

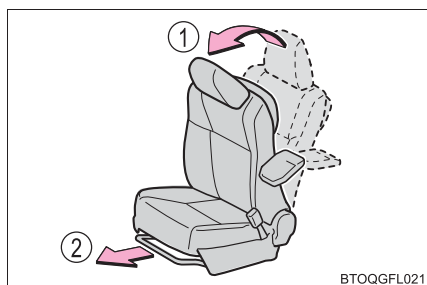
各シートを操作し、車いすを乗せるのに必要なスペースを確保します。



IO33ST121

1 運転席の位置を調整する (→ P. 114)

- ① 背もたれをいちばん前に倒す
ロックがかからない位置まで倒します。
- ② シートをいちばん前にする
ロックがかからない位置までスライドします。

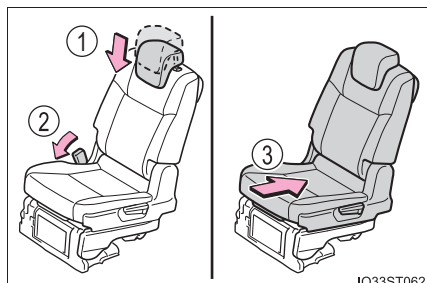


BTOQGFL021

2 料金トレイをはずす(→ P. 293)

3 助手席の位置を調整する

- ① ヘッドレストを下げる
(→ P. 116)
- ② バックルを下げる
- ③ シートをいちばんうしろに下げる (→ P. 114)

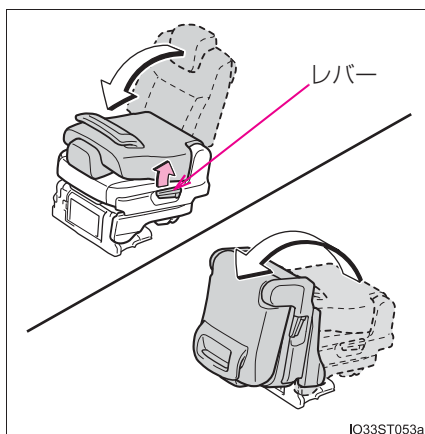


IO33ST062

4 リクライニングレバーを引いて 助手席をタンブルする

リクライニングレバーを引くと、背もたれが前方に倒れ、シートが起き上がります。

助手席をタンブルしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。



IO33ST053a

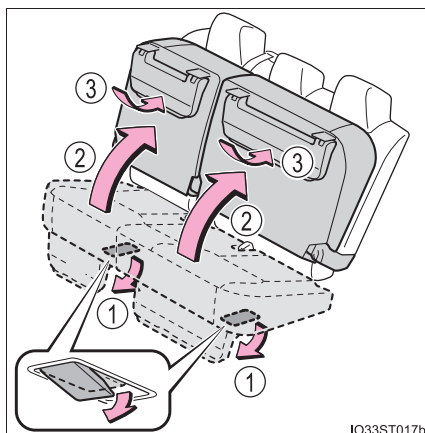
5 リヤシートのクッション部をたたむ

① ロック解除レバーを下方に引く

② クッション部の前端を持ち上げる

引っかかりがないことを確認して、ロック解除レバーを引きながら持ち上げてください。

クッション部を持ち上げたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。



IO33ST017b

③ シート前脚をたたむ

！警告**■シートを操作するときは**

次のことをお守りください。

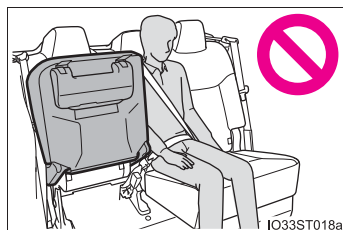
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーをPの位置にし、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートを操作しないでください。
- シートを操作したあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- シートに人が乗っている状態でシートを調整しないでください。

■リヤシートのクッション部を持ち上げたときは

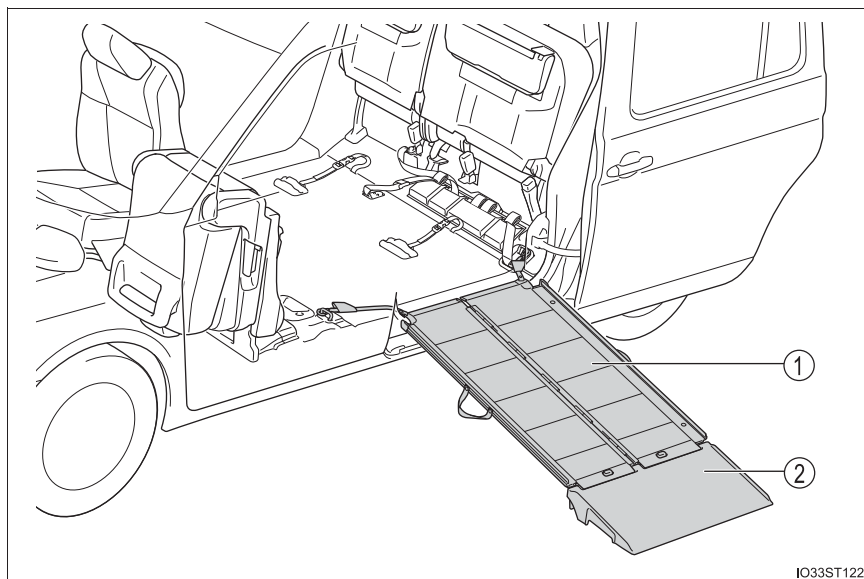
走行するときは、リヤシートのクッション部を持ち上げた状態で中央のシートに座らないでください。

事故のときにクッション部が体を十分に支えきれず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



スロープをセットする

車いすを乗せるのに必要なスロープを車体に組み付けます。



I033ST122

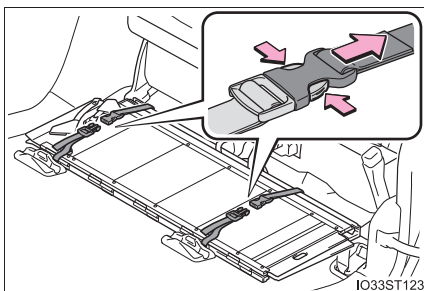
① スロープ No.1

② スロープ No.2

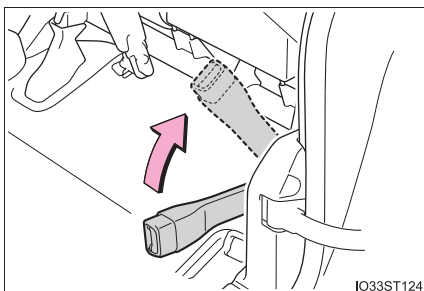
■ スロープをセットするには

▶ 歩道の高さが 88mm 以上の場合

- 1 バンドをはずしてスロープの固定をはずす



- 2 車いす乗員用バックルを上げる

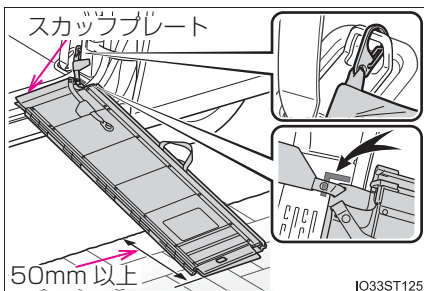


- 3 スロープNo.1のアタッチメントがついているほうの端を車両のスカッププレートにかけ、スロープNo.1の固定ベルトを車体うしろ側の固定箇所固定する

スロープ No.1 のアタッチメントがついていないほうの端を歩道にのせる

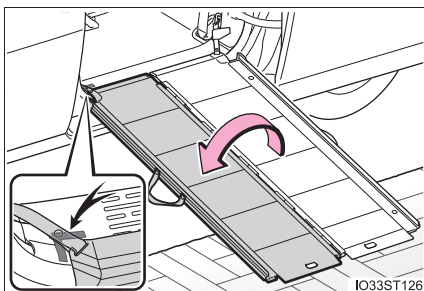
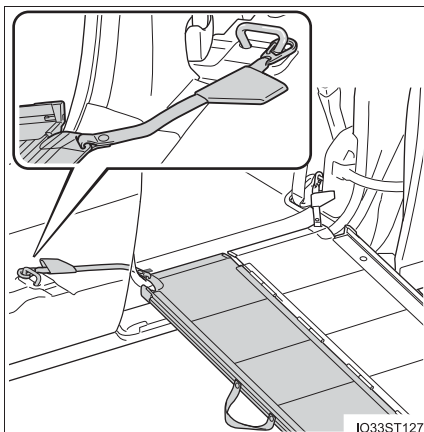
スロープの角をスカッププレートの黄色い線に合わせる

歩道にスロープの端が 50mm 以上かかっていることを確認する

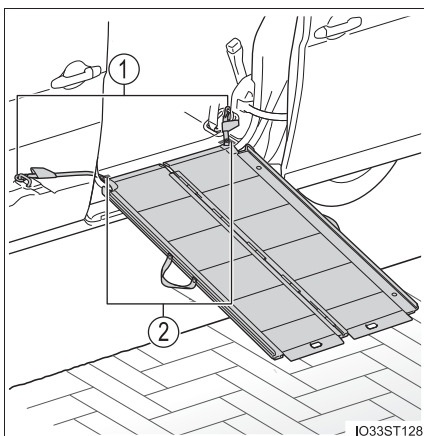


4 スロープ No.1 を開く

スロープの角をスカッフプレートの黄色い線に合わせる

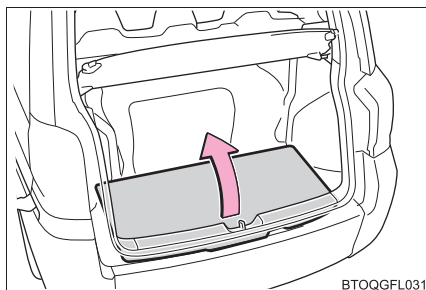
**5** スロープNo.1の固定ベルトを車体前側の固定箇所固定する**6** 次のことを確認する

- ① スロープNo.1の固定ベルトが確実にロックされているか
- ② スロープNo.1の角がスカッフプレートの黄色い線に合っているか



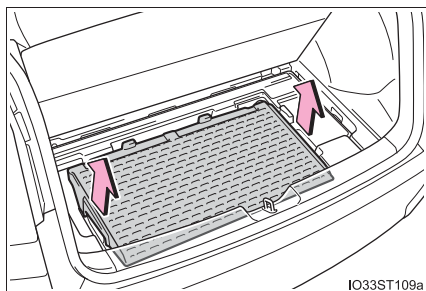
▶ 歩道の高さが 88mm 未満の場合

- 1 バックドアを開け、デッキボードを起こす



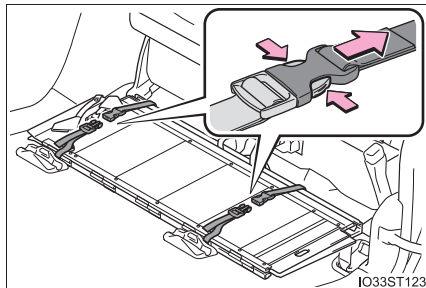
BTOQGFL031

- 2 スロープ No.2 を取り出す



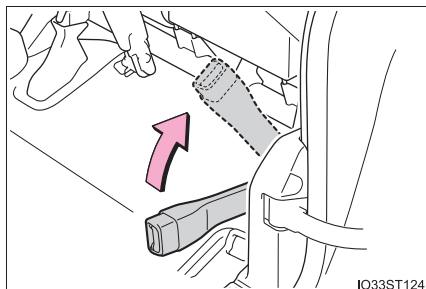
IO33ST109a

- 3 バンドをはずしてスロープの固定をはずす



IO33ST123

- 4 車いす乗員用バックルを上げる



IO33ST124

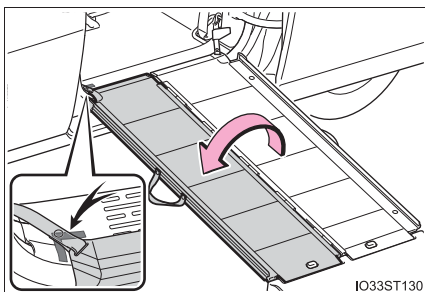
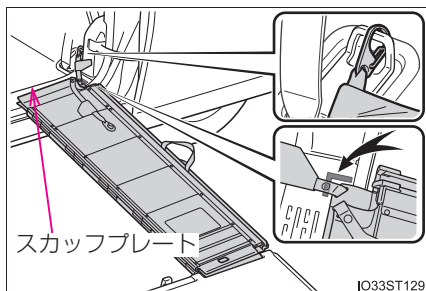
- 5 スロープNo.1のアタッチメントがついているほうの端を車両のスカッフプレートにかけ、スロープNo.1の固定ベルトを車体うしろ側の固定箇所固定する

スロープNo.1のアタッチメントがついていないほうの端をスロープNo.2の上にのせる

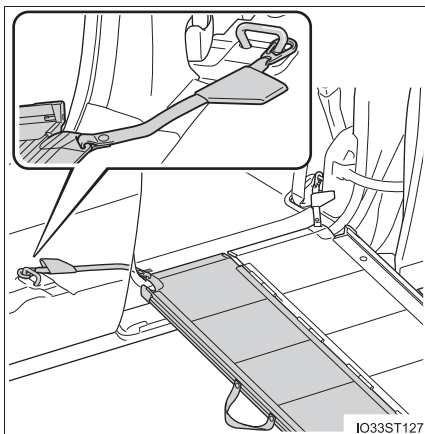
スロープの角をスカッフプレートの黄色い線に合わせる

- 6 スロープNo.1を開く

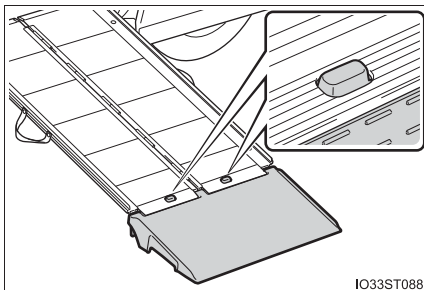
スロープの角をスカッフプレートの黄色い線に合わせる



- 7 スロープNo.1の固定ベルトを車体前側の固定箇所固定する

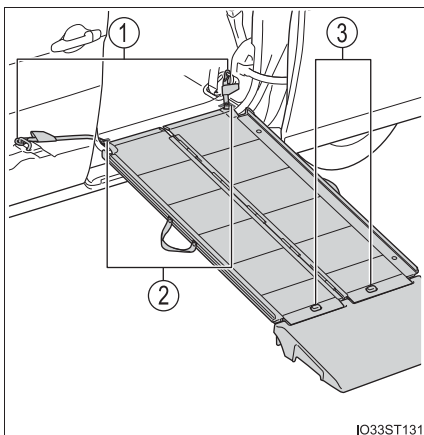


- 8 スロープNo.2の突起とスロープNo.1の穴を合わせる



- 9 次のことを確認する

- ① スロープNo.1の固定ベルトが確実にロックされているか
- ② スロープNo.1の角がスカッププレートの黄色い線に合っているか
- ③ スロープ No.2 の突起がスロープNo.1の穴に入っているか

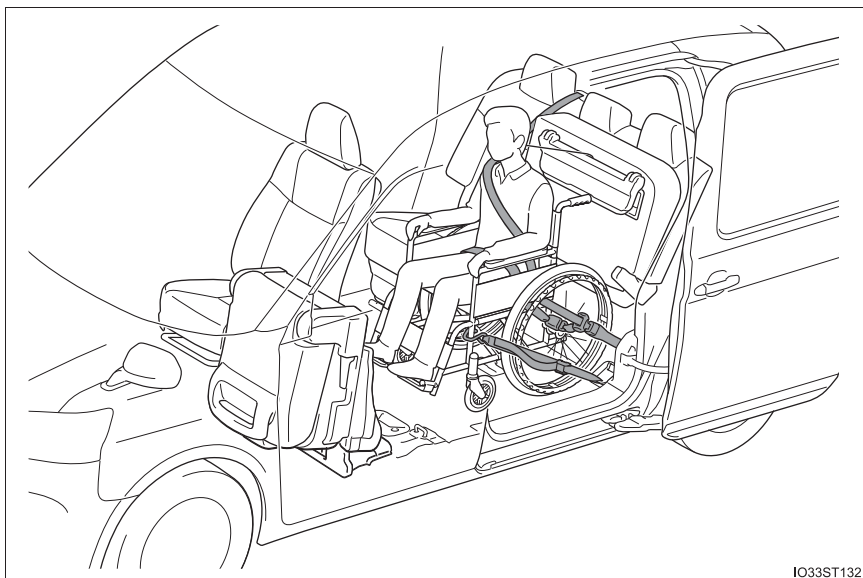


 警告**■ スロープを使用するときは**

- スロープをセットしたあと、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものがあたるなどによりスロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落したりするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。
- 乗降は、必ず介助の方が安全に十分注意しながら行ってください。
- 車いすを車両に乗せるときは、必ず車いすが前向き状態で乗せてください。
- 乗降中はハンドルをしっかり持ち、スロープの途中で手を離したり、車いすを放置したりしないでください。
- スロープ表面がぬれている状態で車いすをスロープに乗り入れないでください。スロープ表面がぬれているとすべりやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから使用してください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。スロープが風にあおられてけがをするおそれがあり危険です。
- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通ってください。
中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
傾斜したスロープは車いすがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。車いすの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。
- スロープをセットしたまま車を移動させないでください。スロープが損傷したり、スロープが車外の人やものに当たったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車いすを固定する

スロープを使って車いすを車内に乗せ、固定ベルトで車いすを固定します。

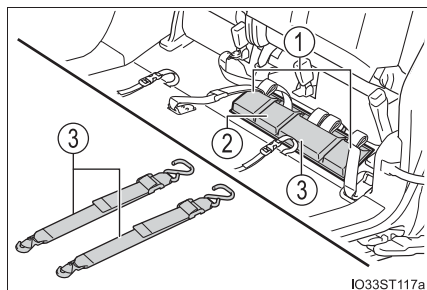


IO33ST132

■ ベルト類の収納位置について

- ① うしろ側固定ベルト（緑色）
- ② シートベルト延長用ベルト（灰色）
- ③ 前側固定ベルト（青色）

※ 前側固定ベルト（青色）は、小径タイヤの車いすを 4 点固定する際に使用します。小径タイヤの車いすをのせる場合は、前側固定ベルト（青色）を取り出しておきます。



IO33ST117a

■ 車いすを固定するには

- 1 スロープを使って車いすを車内に乗せ、車いすを反時計回りに 90° 回転させる

車いすの左手側タイヤが車いす乗員用バックルのすぐ内側にくるように位置を調整してください。

車いすとシートや車いす固定ベルトのアタッチメントが干渉する場合は、干渉しないように車いすの位置を調整してください。

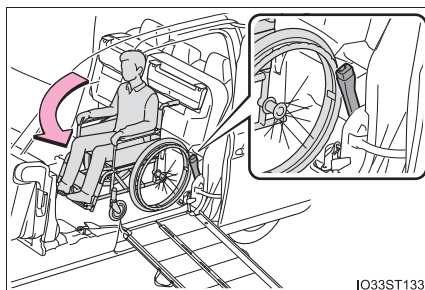
電動車いすの場合、バッテリーがシートクッションに干渉するときは、バッテリーを取りはずしてください。

▶ 大径タイヤの車いす

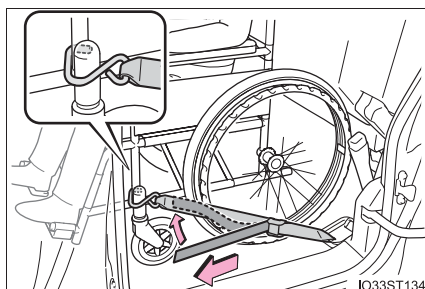
- 2 車いす固定ベルトのうしろ側固定ベルト（緑色）を使って、助手席側のうしろ側固定部と車いすを固定する

固定ベルトがドアに挟まれないように端をマジックテープで留めてください。

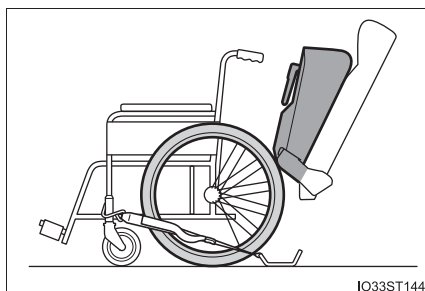
車いす固定ベルトを引っ張るときは、車いすを車両後方に押し、車いすのタイヤをシートクッションに押しつけてから固定する



IO33ST133

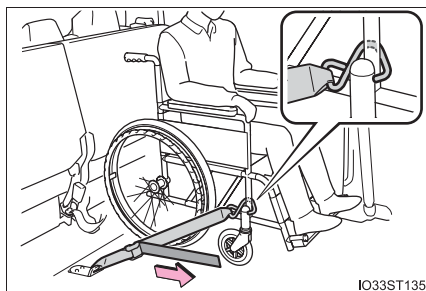


IO33ST134

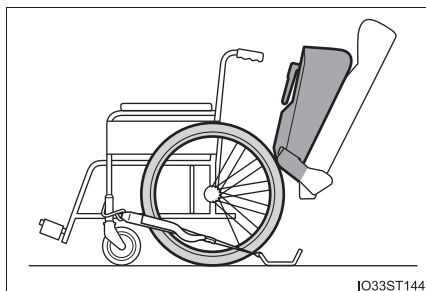


IO33ST144

- 3 車いす固定ベルトのうしろ側固定ベルト（緑色）を使って、運転席側のうしろ側固定部と車いすを固定する



車いす固定ベルトを引っ張るときは、車いすを車両後方に押し、車いすのタイヤをシートクッションに押しつけてから固定する

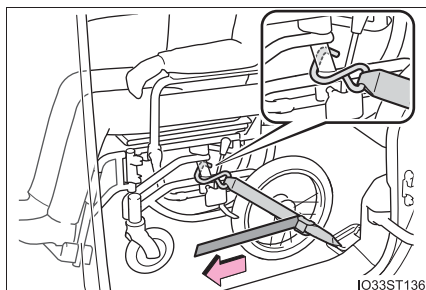


- 4 車いす本体のタイヤのロックをかける

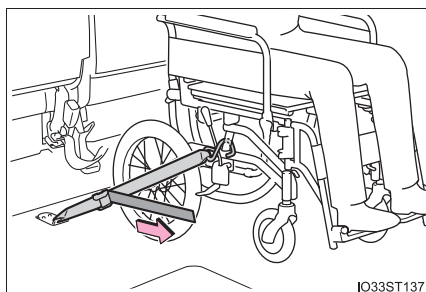
▶ 小径タイヤの車いす

- 2** 車いす固定ベルトのうしろ側固定ベルト（緑色）を使って、助手席側のうしろ側固定部と車いすを固定する

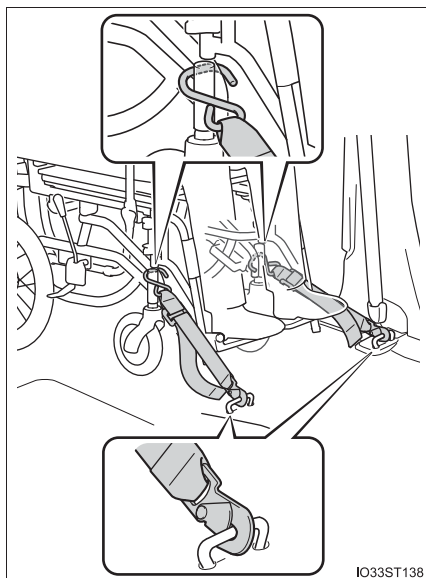
固定ベルトがドアに挟まらないようにしてください。



- 3** 車いす固定ベルトのうしろ側固定ベルト（緑色）を使って、運転席側のうしろ側固定部と車いすを固定する



- 4** 車いす固定ベルトの前側固定ベルト（青色）を使って、前側固定部と車いすを固定する



- 5** 車いす本体のタイヤのロックをかける

知識

■ リヤシートのクッション部をもとにもどすときは

シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認してください。

警告

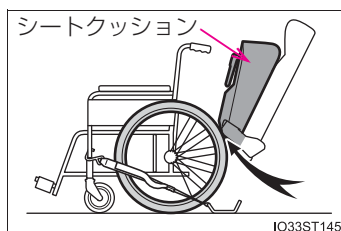
■ 車いすを固定するときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車いすのタイヤとシートクッションが、しっかり当たっていることを確認してください。

また、タイヤが当たる前に車いすのハンドグリップが当たる場合は、車いす固定ベルトの前側固定ベルト（青色）を使って 4 点固定で固定してください。



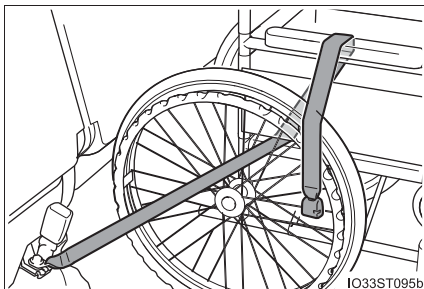
- 車いすを固定したときは、車いす固定ベルトにたるみ、ゆるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。
- 車いすを固定したときは、車いすのブレーキを両輪とも確実にかけてください。車いすのブレーキをかけずに走行すると、走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ シートを操作するときは

運転席を元に戻すときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

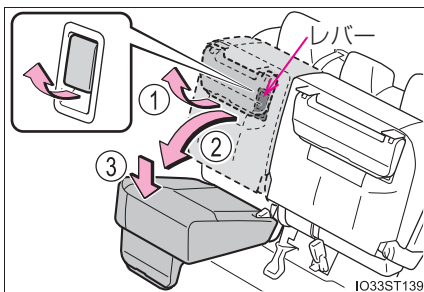
シートベルトを着用する

- 1 シートベルト延長用ベルト（灰色）（→ P. 137）を車いすの右手側アームレストにかける



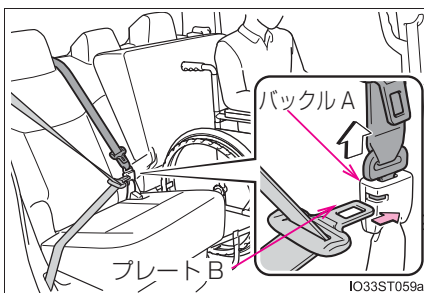
- 2 運転席側リヤシートのクッション部をもとにもどす

- ① シート前脚をおこす
- ② クッションを手で押さえてレバーを引き、レバーを引きながらクッションをおろす
- ③ クッション部の前端を押さえ、シートを固定する



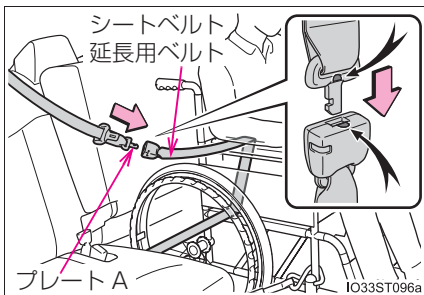
クッション部をおろすときは、シート前脚でものを挟み込んでいないことを確認してください。

- 3 プレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する



- 4 シートベルト延長用ベルト（灰色）のバックルにプレート A を“カチッ”と音がするまで挿し込む

黄色いシールがある側を合わせてください。

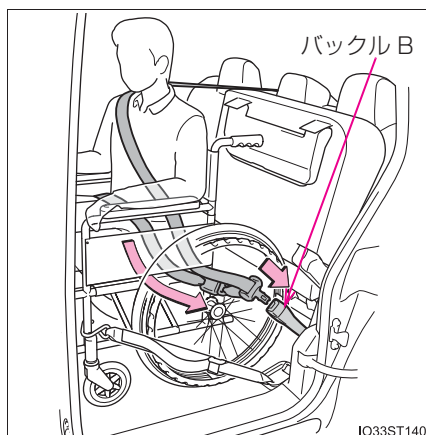


- 5 プレート B を車いすの左手側アームレストの下側および車いすのスポークのあいだを通し、バックル B に“カチッ”と音がするまで挿し込む

- ・ 肩部ベルトは肩に十分かけ、首にかかったり肩からはずれないようにしてください。肩からのベルトずれが気になるときは、リルーターを使用してください。

(→ P. 146)

- ・ 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。



- ・ シートベルトにねじれがないようにしてください。
- ・ シートベルト装着後に、シートベルトおよび車いす固定ベルトにたるみ、ゆがみがないことを確認してください。

警告

■シートベルトを着用するときは

- シートベルトの着用は必ず介助の方が行い、正しく着用されていることを確認してください。

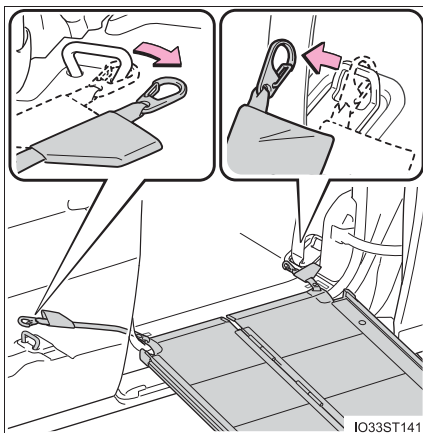
シートベルトは正しく着用しないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは必ずアームレストの下側およびスポークのあいだを通してください。

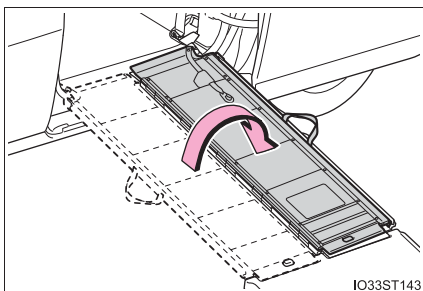
シートベルトがアームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スロープを収納する**■ スロープ No.1 をたたむ**

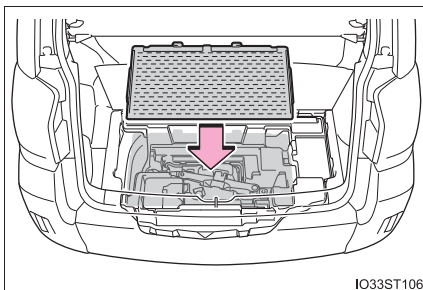
- 1** スロープ No.1 の固定ベルトを車体の固定箇所からはずす



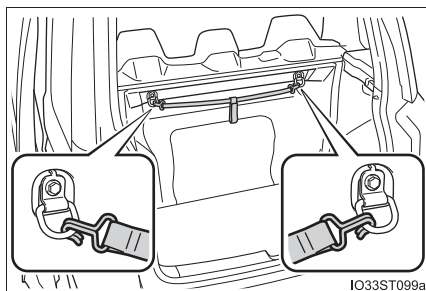
- 2** スロープ No.1 を折りたたむ



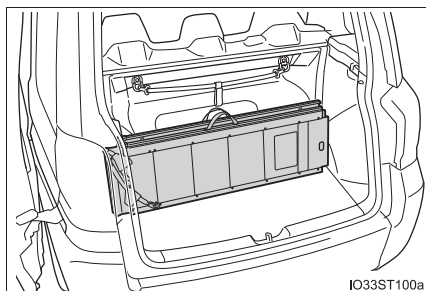
- 3** 歩道の高さが 88mm 未満の場合：スロープ No.2 をラゲージルーム内のデッキボード下に収納する



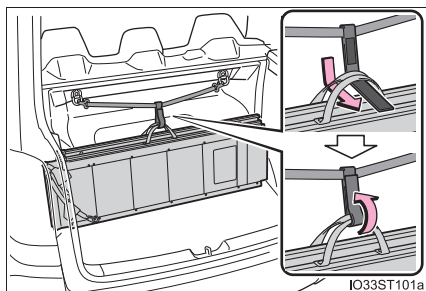
- 4 スロープ収納ベルト
(→P. 126)のフックをラゲージルーム内のフックに引っ掛ける



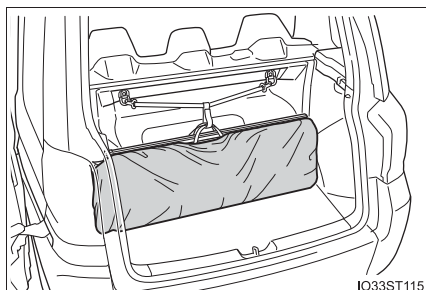
- 5 スロープNo.1をラゲージルーム内に立てかける



- 6 スロープ No.1 の取っ手にスロープ収納ベルトを通して留める



- 7 スロープNo.1にカバーをかける

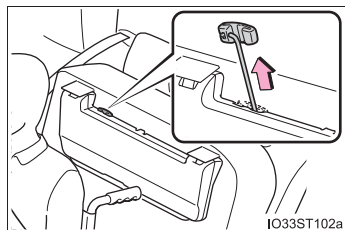


 知識

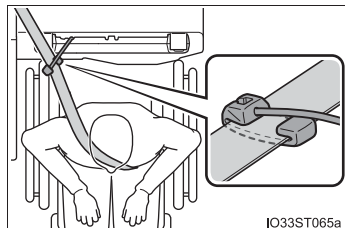
■ リルーターについて

シートベルトを装着した際に、肩からのベルトずれが気になるときは、リルーターを装着してください。リルーターはリヤシート前脚の裏側に収納されています。

1 リルーターを取り出す



2 リルーターにシートベルトを通す



■ スロープの手入れについて

水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ってください。

■ ベルト類の手入れについて

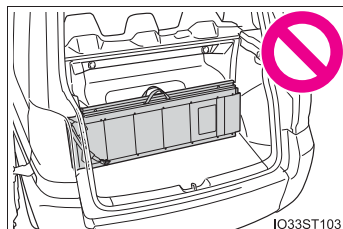
中性洗剤またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ってください。

ベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 注意

■ スロープ No.1 をラゲージルームに収納するときは

- 必ずフックに引っ掛けて収納してください。(→ P. 145)



- スロープ No.1 のラゲージルームへの収納は、車いすで乗車しているときのみに行ってください。車いすを固定していないときは、リヤシートの下に収納してください。

車いすの固定を解除・車内から降ろす

車内に乗せて、固定したときと逆の手順で行います。

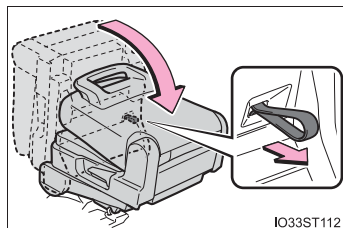
📖 知識

■ リヤシートのクッション部をもとにもどすときは

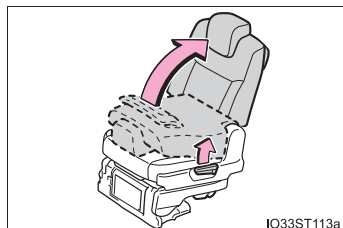
シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認してください。

■ 助手席をもとにもどすときは

- 1 ストラップを引いてシートを回転させる



- 2 リクライニングレバーを引いて背もたれをもどす



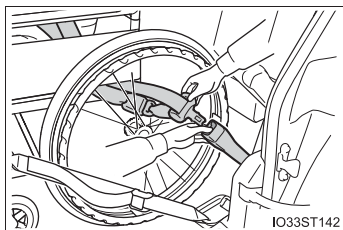
助手席をもどしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

警告**■ 車いすを降ろすときは**

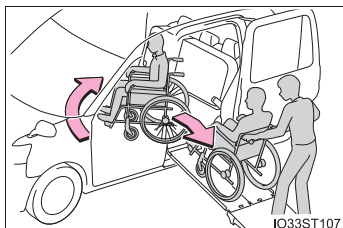
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

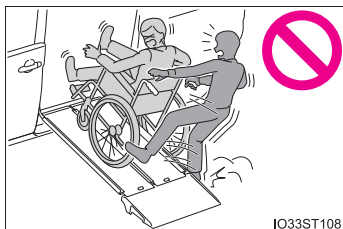
- シートベルトをはずすときは、プレート B をしっかり手で持ってはずしてください。手で持てはずさないでシートベルトが勢いよくもどり、プレート B が顔などに当たる場合があります。



- 車いすを車両から降ろすときは、車いすを車内で時計回りに 90° 回転させ、車いすとスロープを平行にしてから、車いすがうしろ向き状態で降ろしてください。



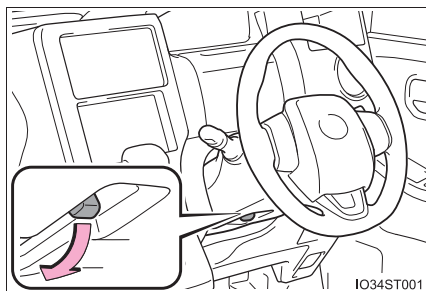
- 車いすを車両から降ろすときは、車いすのハンドルをしっかり持ち、後方にも注意しながら降ろしてください。



ハンドル

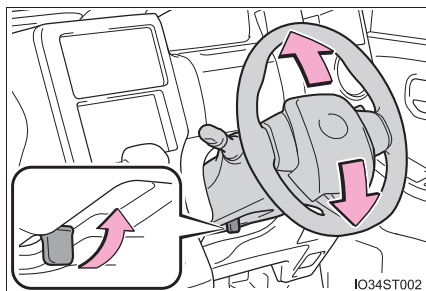
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



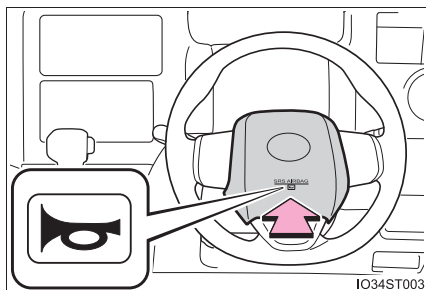
- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

**警告****■ 走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

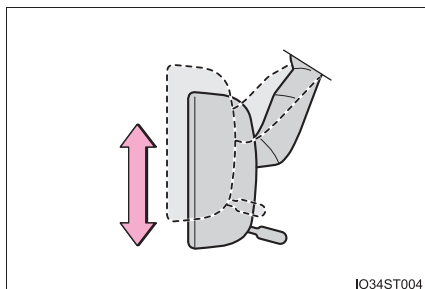
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

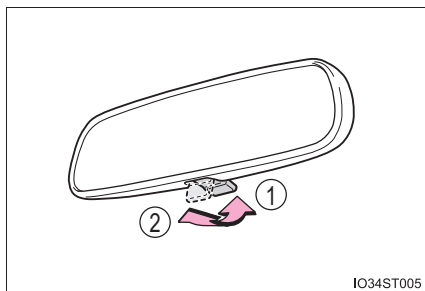
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

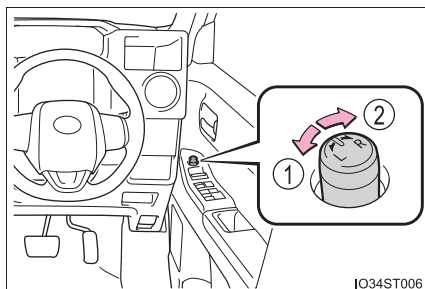
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アウターミラー

調整のしかた

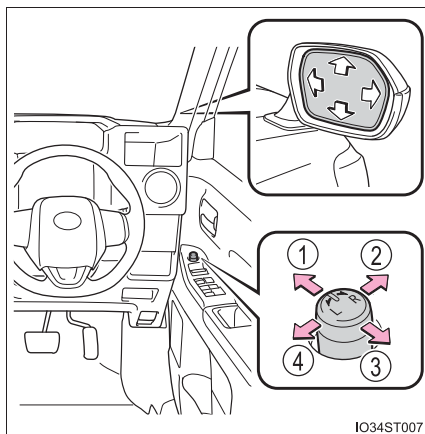
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 262）

 警告**■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- 走行前に必ず、運転席および助手席側のミラーを正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

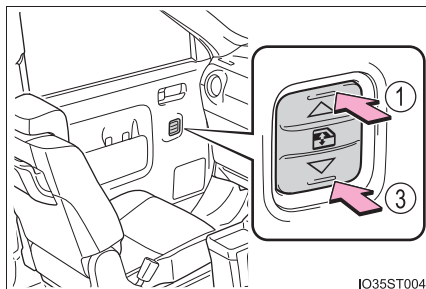
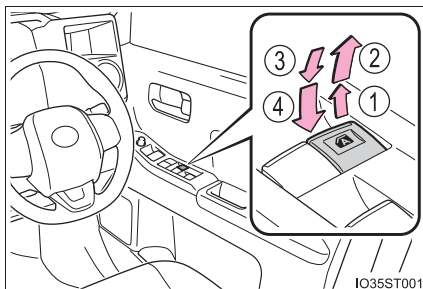
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

▶ 運転席

▶ 助手席・リヤ左側席



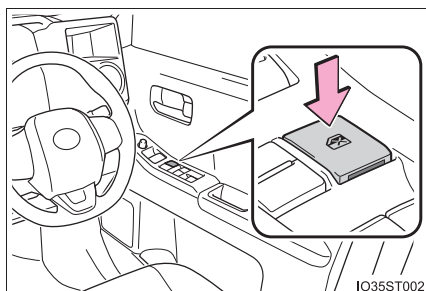
- ① 閉める
- ② 自動全閉（運転席）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（運転席）※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ LPG ハイブリッドシステム停止後の作動（運転席のみ）

パワースイッチを“ACC” または“LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき（運転席のみ）

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、パワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを“ON” の状態で、挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① パワースイッチを“ON” にする
- ② パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- ③ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- ④ パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- ⑤ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- ⑥ 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

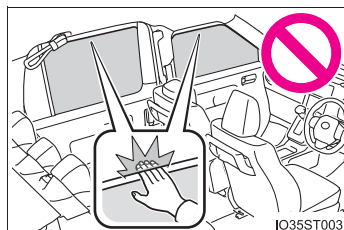
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 154)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはパワースイッチを“LOCK”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能（運転席のみ）

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	158
荷物を積むときの注意	168

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	170
EV ドライブモード	175
トランスミッション	178
方向指示レバー	181
パーキングブレーキ	182

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	183
オートマチックハイビーム ...	188
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	193
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	195

4-4. 燃料補給のしかた

燃料補給口の開け方	197
-----------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	203
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	209
LDA（レーンディパーチャー アラート／車線逸脱 警報）	221
先行車発進告知機能	227
クリアランスソナー	229
パーキングサポート ブレーキ（静止物）	239
運転を補助する装置	247

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	253
寒冷時の運転	255

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

LPG ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 170

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 178)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 182)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→ P. 178)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 182)、シフトレバーを P にする (→ P. 178)
- 3 パワースイッチを “LOCK ” にして LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

[※]輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 停車するときは

シフトレバーが N では、LPG エンジンが回転していても、駆動用電池は充電されません。

N レンジで一定時間停車すると、駆動用電池の残量が低下し、走行不能となるおそれがあります。

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 247)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常の LPG 車と同様の心がけが必要です。(→ P. 253)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 冷間時の短距離走行について

冷間時に、短距離走行などで LPG エンジンの暖機が完了する前に LPG ハイブリッドシステムを停止すると、LPG エンジン内に発生した水分がエンジンオイルに混入することがあります。

この水分は暖機後の走行で徐々に蒸発するので、性能への影響はありません。

■ LPG ハイブリッドシステム出力の抑制について (ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、LPG ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 359)

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にLPGハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にLPGハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 348を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 178)
- 走行中はハンドル・シート・アウターミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、LPGハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、LPG ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、または LPG ハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ず LPG ハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故や LPG ハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■床下に衝撃を受けたとき

走行中、車両床下に強い衝撃を受けたときは思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。ただちに安全な場所に停車し、LPG ハイブリッドシステムを停止して車両下部に損傷が無いか確認してください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、LPG ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 369, 381 を参照してください。

 注意**■ 冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでの LPG エンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- LPG エンジン・トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
- LPG ハイブリッドシステムの異常

急発進の抑制（ドライブスタートコントロール）

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、LPG ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- ・ R に切りかえたとき ※
- ・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

 知識**■ ドライブスタートコントロールについて**

TRC の作動を停止（→ P. 248）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→ P. 248）

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席★（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ トノカバー★
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

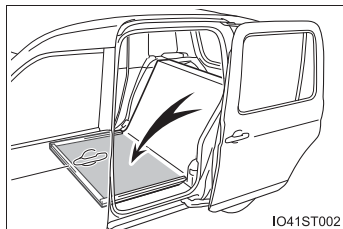
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告**■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

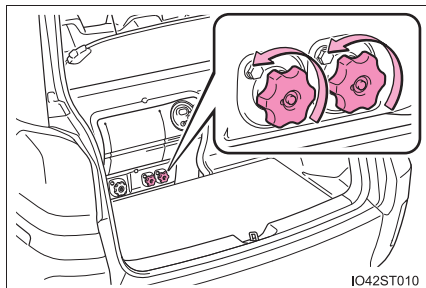
- リヤシート非装着車：デッキボード（→ P. 277）に 80kg をこえる荷物を置いたり、過度の負荷をかけないでください。デッキボードが破損し、けがをするおそれがあります。
- リヤシート非装着車：フロアボードに 120kg をこえる荷物を置いたり、過度の負荷をかけないでください。フロアボードが破損し、けがをするおそれがあります。



パワー（イグニッション）スイッチ

LPG ハイブリッドシステムを始動する前に

- 1 燃料取り出しバルブのカバーとインナーカバーをはずす（→ P. 198）
- 2 燃料取り出しバルブ（メインバルブ、リターンバルブ）をゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く



- 3 燃料取り出しバルブのカバーとインナーカバーを取り付ける

LPG ハイブリッドシステムの始動のしかた

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 4 パワースイッチを“START”の位置にまわす

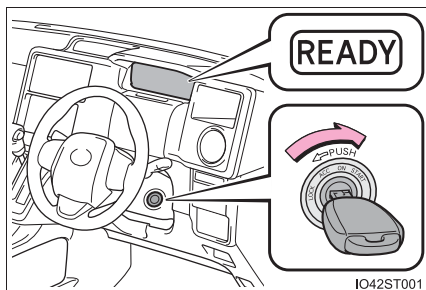
READY インジケーターが点灯すれば、LPG ハイブリッドシステムは正常に作動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

LPG表示灯が点滅することがありますが、異常ではありませんので消灯するまでお待ちください。

- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。



LPG ハイブリッドシステム停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 182）シフトレバーを P の位置にする
- 3 パワースイッチを “ACC” または、“LOCK” の位置にまわす（→ P. 171）

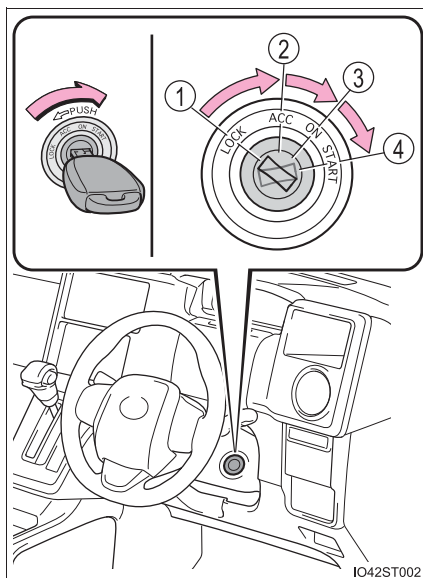
パワースイッチの位置の切りかえ

- ① “LOCK”（OFF）
 - ・ キーを抜き挿しできます。（シフトレバーが P のとき、キーを抜き挿しできます）
 - ・ ステアリングロックがかかります。
- ② “ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
- ③ “ON”

すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”

LPG ハイブリッドシステムが始動できます。



LPG ハイブリッドシステムが始動できないときは

燃料過流防止弁が作動していることがあります。次のことを行ってください。

- 1 燃料取り出しバルブのカバーとインナーカバーをはずす (→ P. 198)
- 2 左側のメインバルブを右にいっぱいまでまわして締めてから、再度メインバルブを左に $1/3 \sim 1/2$ まわす

右側のリターンバルブは開けたままにしておいてください。

- 3 LPG ハイブリッドシステムを始動する

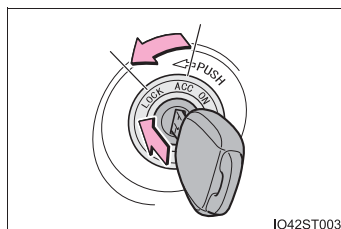
LPG ハイブリッドシステムが始動したら、左側のメインバルブを左にいっぱいまでまわして開けます。

LPG ハイブリッドシステムが始動しない場合の対処法は P. 393 を参照してください。

知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 62

■外気温が低いときは

LPG ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

- LPG ハイブリッドシステム始動時、パワー スイッチを “ ON ” にして、LPG 表示灯が点滅したときは

→ P. 358

- 走行中、LPG 表示灯が点滅したときは

→ P. 267, 358

- 万一、READY インジケーターが点灯しないときは

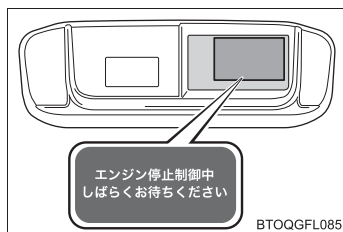
正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

- LPG エンジンの始動性の悪化を防ぐために

寒冷時に短距離走行などでLPGエンジンの暖機が完了する前にLPGハイブリッドシステムを停止すると、点火プラグに排気ガス中の水分が付いて、LPG エンジンの始動性が悪くなることがあります。

寒冷時にLPGエンジンの暖機が完了する前にLPGハイブリッドシステムを停止する場合は、約3分半程度LPGハイブリッドシステムの作動を継続させてから停止してください。

また、LPG ハイブリッドシステムを停止しても、LPG エンジンがしばらくの間作動し続けることがあります。システムの正常な作動であり故障ではありません。LPG エンジン作動中は、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン停止制御中 しばらくお待ちください」が表示されます。



- LPG ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります (→ P. 69)。トヨタ販売店へご連絡ください。

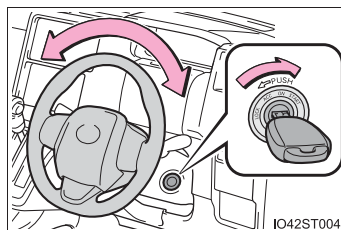
- シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。LPG ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にすると LPG ハイブリッドシステムを始動することができない場合があります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時はPレンジに入れてください」が表示されます。

- LPG ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 65

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、パワー スイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、パワースイッチが“ACC” または“LOCK” のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

⚠ 警告

■LPG ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はパワースイッチを“LOCK” にしないでください。

緊急時、走行中にLPG ハイブリッドシステムを停止したい場合には“ACC” にしてください。ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にLPG ハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあります。(→ P. 348)

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

LPG ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを“ACC” または“ON” にしたまま長時間放置しないでください。

■LPG ハイブリッドシステムを始動するとき

もしLPG ハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

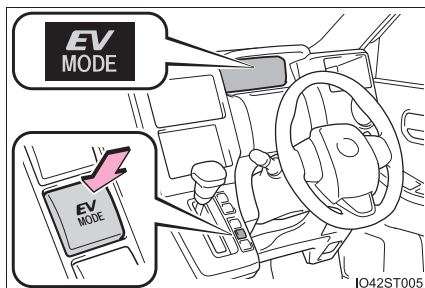
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードのON／OFFを切りかえる

EV ドライブモードになると、マルチインフォメーションディスプレイに EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（LPG エンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



 知識**■EV ドライブモードの切りかえについて**

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- LPG ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- LPG ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃を下まわるとような低温下に長時間駐車したあとなど
- LPG エンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 82）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■LPG エンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

LPG エンジンが冷えているときに LPG ハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のため LPG エンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

LPG ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、LPG エンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（LPG エンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 82）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 燃費について

LPG ハイブリッドシステムは、通常走行（LPG エンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「EV モードに現在切りかえできません」と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「EV モードが解除されました」と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

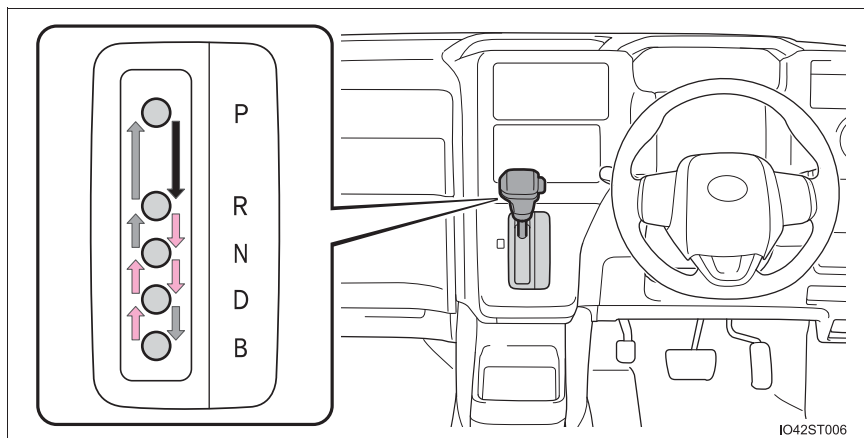
⚠ 警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



← パワースイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーボタンを押したまま操作します。

← シフトレバーボタンを押したまま操作します。

P から他ポジションへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車または LPG ハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	坂道や急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 167

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■ シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

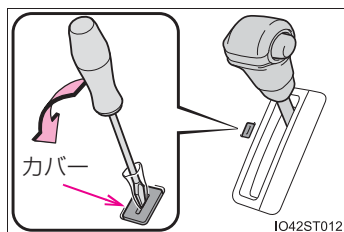
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 パワースイッチを“LOCK”にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 カバーをはずす

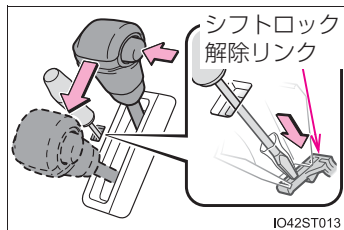
マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの工具の先端に、布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除リンクを押す

解除リンクを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



 警告**■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジnbrレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除リンクを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除リンクを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、LPG エンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

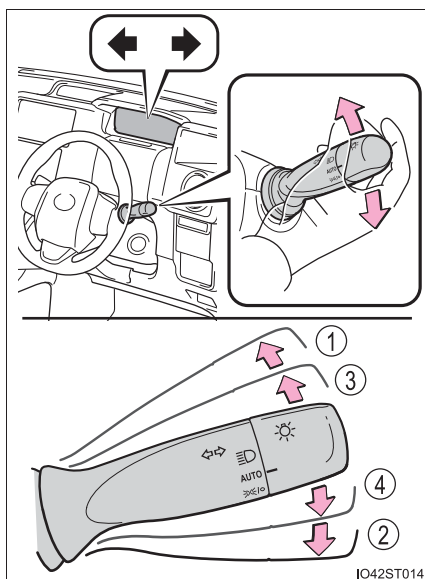
操作のしかた

- ① 左折
- ② 右折
- ③ 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

- ④ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

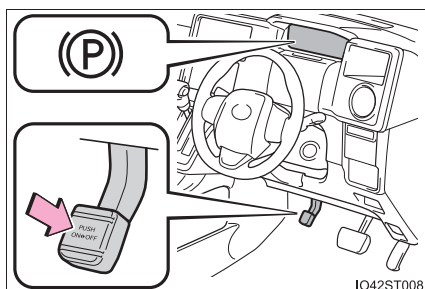
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

- 駐車するとき
→ P. 158
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 256
- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 361

⚠ 注意

■ 走行前の注意

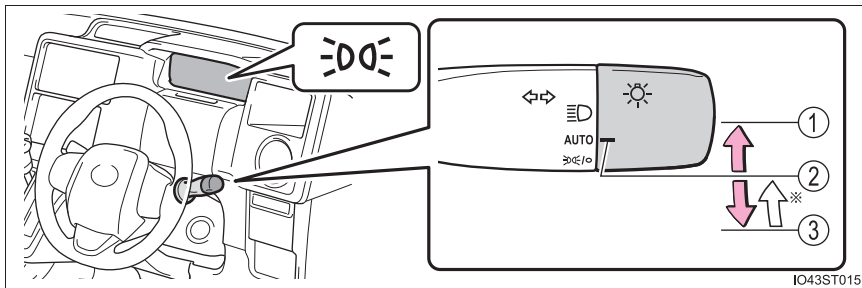
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO ※ ¹	LED デイライト非装着車： ヘッドランプ・スモールランプが消灯 LED デイライト装着車： LED デイライト (→ P. 185) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※¹ 操作するたびに、② AUTO による点灯状態と③  による点灯状態が切りかわります。

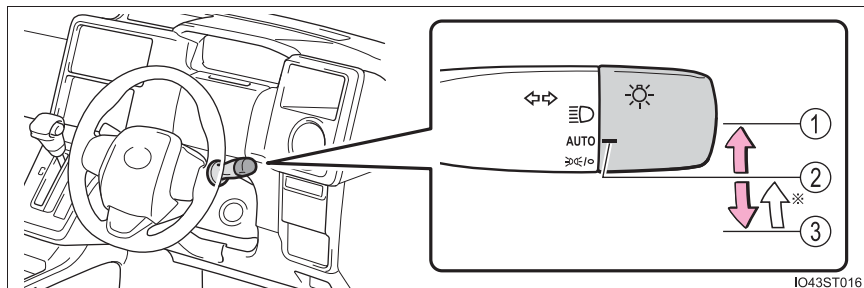
※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTO による点灯状態に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

消灯のしかた

☀ スイッチを③  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に①  か③  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ 	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト★ (→ P. 185) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

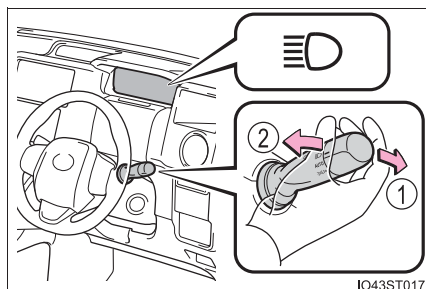
ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

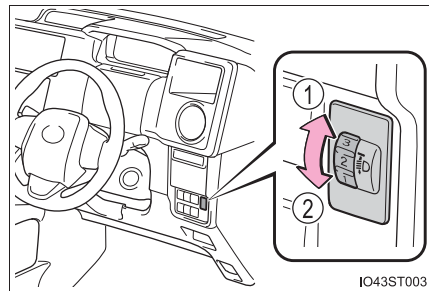


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員 ※	なし	0
全乗員 ※	なし	1
全乗員 ※	ラゲージルーム満載時	1.5
運転者	ラゲージルーム満載時	リヤシート非装着車：3
		リヤシート装着車：3.5

※ リヤシート装着車のみ

知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ LED デイライト★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、LPG ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）

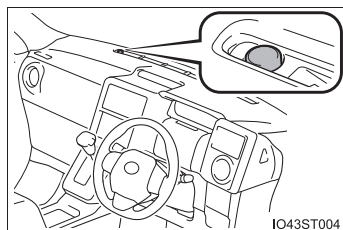
■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ライトセンサー★

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを“ACC”または“LOCK”にしてフロントドア、リヤドア、スライドドアのいずれかを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または  の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイに「ライトが点灯しています」が表示されます。

■オートレベリングシステム (LED ヘッドランプ装着車)

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが“LOCK”の状態ではヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを“ON”にすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 415)

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

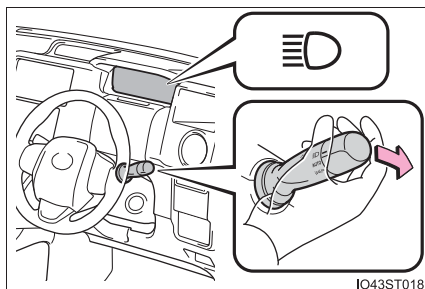
LPG ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

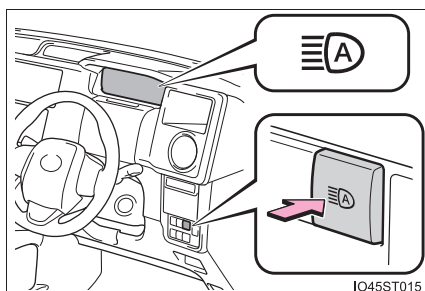
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチを AUTO ★または  にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

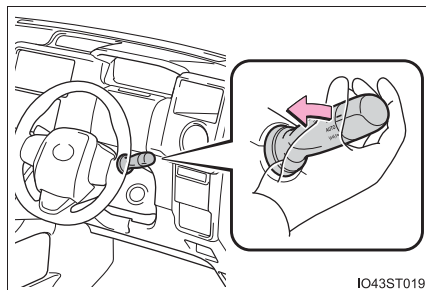
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

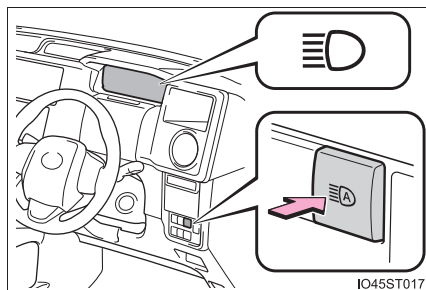


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ オートマチックハイビームについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・ 前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・ 前方センサーの温度が非常に高いとき
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに「AHB 起動のためにはハイビーム操作が必要です」が表示されたときは

ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームスイッチを押してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ 安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

 注意**■オートマチックハイビームを正しく作動させるために**

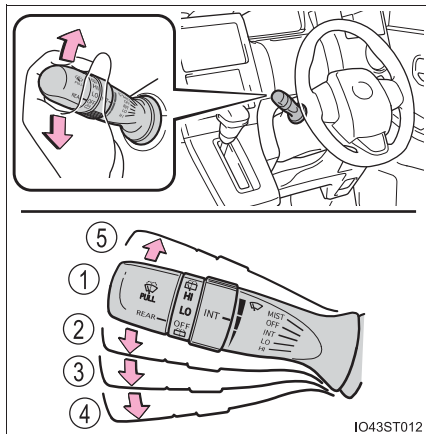
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

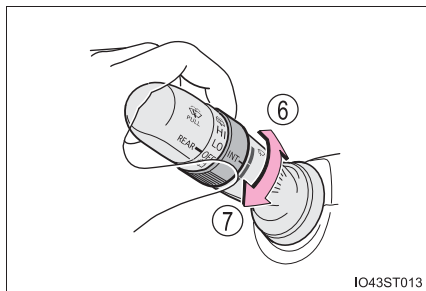
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ① OFF 停止
- ② INT 間欠作動
- ③ LO 低速作動
- ④ HI 高速作動
- ⑤ MIST 一時作動



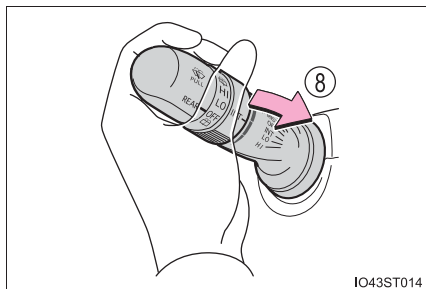
間欠作動を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



- ⑧  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

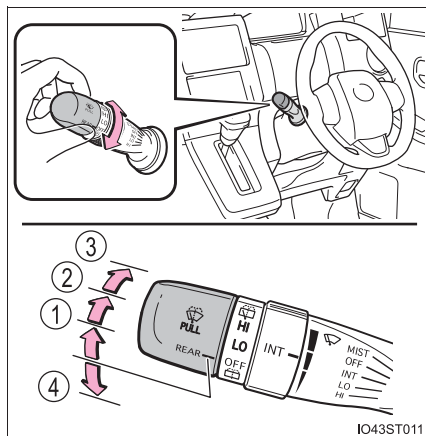
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のように REAR スイッチを操作すると、リヤワイパーまたは、ウォッシャーが作動します。

- ① LO 間欠作動
- ② HI 通常作動
- ③  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ④  ウォッシャー液を出す



IO43ST011

知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

燃料補給口の開け方

補給（充てん）する前に

ドアとドアガラスを閉めて、パワースイッチを“LOCK”にしてください。

知識

■ 燃料の種類

LP オートガス

■ スライドドアが全開にならない状況

燃料補給口のフタが開いていると、スライドドアはわずかにしか開きません。
(→ P. 100)

パワースライドドア開閉中に燃料補給口のフタを開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。

警告

■ 補給（充てん）について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- LP オートガス補給（充てん）は、スタンドの係員におまかせください。また LP オートガス補給（充てん）時は、スタンド指定の場所以外で火気を取り扱わないでください。引火するおそれがあり危険です。
- 指定燃料は LP オートガスです。指定以外の燃料を補給（充てん）しないでください。

注意

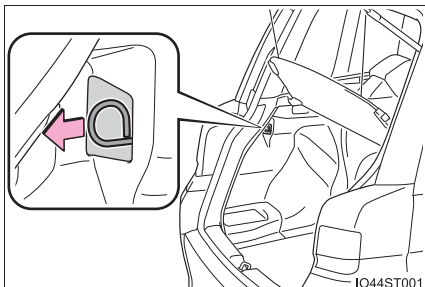
■ 補給（充てん）するときは

車両に入っている燃料のプロパン率と、スタンドの燃料のプロパン率が異なると補給（充てん）しにくくなることがあります。例えば、プロパン率 100%の燃料が入っている車両に、プロパン率 30%の燃料を補給（充てん）しようとすると、補給（充てん）できないことがあります。

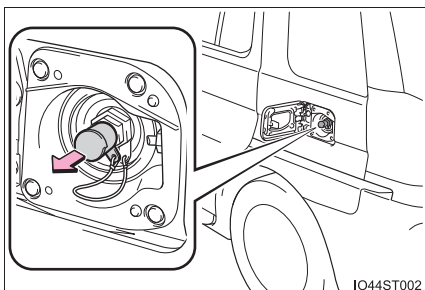
いつも同じスタンド（同じプロパン率）で補給（充てん）することをおすすめします。

燃料を補給するときは

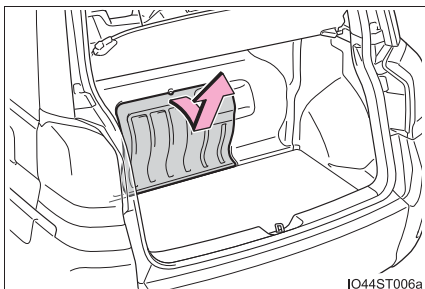
- 1 バックドアを開け (→ P. 109)、
レバーを引いて燃料補給口のフ
タを開ける



- 2 燃料補給口のビニールキャッ
プをはずす

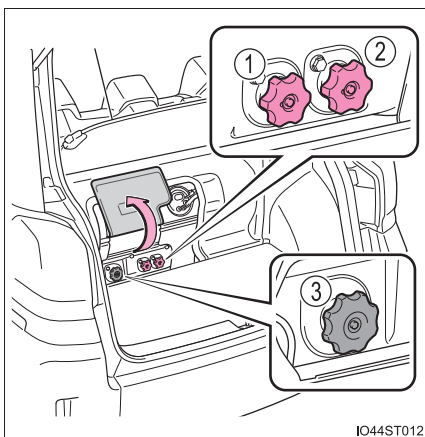


- 3 カバーをはずす

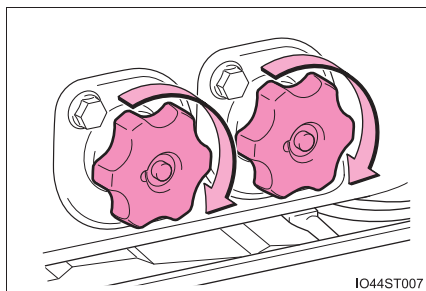


- 4 インナーカバーを上げる

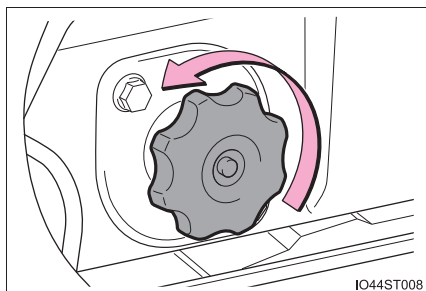
- ① 燃料取り出しバルブ(メインバ
ルブ)
- ② 燃料取り出しバルブ(リター
ンバルブ)
- ③ 燃料充てんバルブ



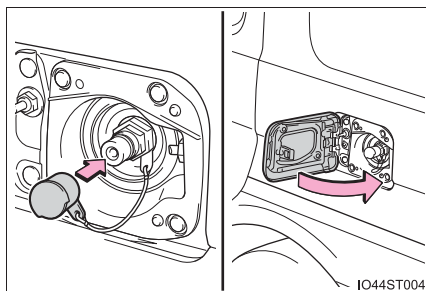
- 5 燃料取り出しバルブ（メインバルブ、リターンバルブ）を右にいっぱいまでまわして締める



- 6 燃料充てんバルブを左にいっぱいまでまわして開く



- 7 LP オートガス充てんガンを実際にセットし注入する
- 8 燃料充てんバルブを右いっぱいまでまわして締める
- 9 メインバルブ、リターンバルブをゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く
- 10 燃料取り出しバルブのカバーとインナーカバーを取り付ける
- 11 LP オートガス充てんガンははずし、補給口にビニールキャップを付けて燃料補給口のフタを閉める



知識

■ LPG 燃料冷却システムについて

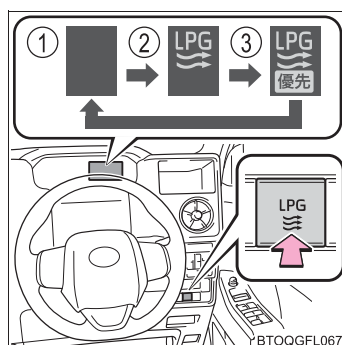
LPG 燃料冷却システムは、LPG エンジンから燃料タンクにもどる燃料を冷却しタンク内燃料温度の上昇を抑制することで、タンク内圧の上昇を抑制します。これにより、スタンドでの燃料補給（充てん）をしやすくします。燃料冷却にはエアコンの冷媒を利用しており、エアコンが作動しているときに燃料冷却システムが作動します。

LPG 燃料冷却システムを作動させるには、エアコンを作動させ、LPG 燃料冷却スイッチを押します。

LPG 燃料冷却スイッチを押すごとに、次のようにモードが切りかわります。

LPG 燃料冷却スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに現在のモードが表示されます。

- ① オフ（システム停止）
- ② ノーマル（通常作動）
- ③ 優先（優先作動）



下表を参考に LPG 燃料冷却システムのモードを使い分けてください。

モード	作動内容
オフ （システム停止）	燃料冷却が必要な時以外は、オフ（システム停止）を選択し、LPG 燃料冷却システムが停止した状態を推奨します。
ノーマル （通常作動）	燃料冷却が必要な場合の通常モードです。 燃費と空調を優先させて、必要な時に必要な分だけ燃料を冷却します。
優先 （優先作動）	ノーマル（通常作動）で補給（充てん）できない場合に使用してください。 LPG 燃料冷却システムを優先するため、エアコンのききや燃費が悪化することがあります。

■ LPG 燃料冷却システムを使用するときは

LPG 燃料冷却システムを使用するときは下図を参考に使用してください。

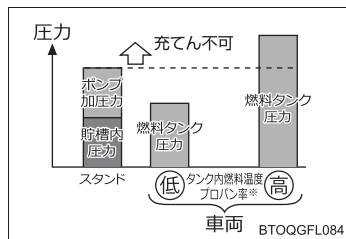
季節	使用タイミング
夏期 (気温 25℃以上)	常時 LPG 燃料冷却システムを作動させてください。
春・秋期 (気温 10～25℃)	燃料補給(充てん)前に LPG 燃料冷却システムを作動させておいてください。 LPG 燃料冷却システム作動後、およそ 3 時間以内に補給(充てん)できるようになります。
冬期 (気温 10℃以下)	常時 LPG 燃料冷却システムを作動させてください。

■ エアコンの点検について

エアコンが故障していたり、冷媒が不足していたりすると、燃料冷却不足となり燃料補給できなくなる場合があるため、定期的にエアコンを点検してください。

■ LPG ガス補給(充てん)のしくみ

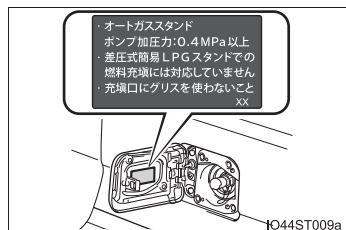
スタンドの補給(充てん)装置のポンプ加圧力と、車両の燃料タンク圧力の関係は右図のようになります。



※ LPG 燃料中に含まれるプロパン成分の割合をプロパン率といいます。

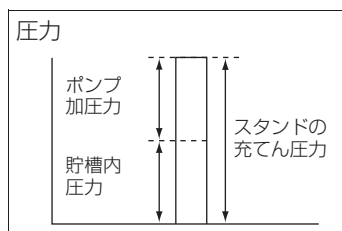
■ 補給(充てん)できるスタンドの条件

ポンプ加圧力が 0.4MPa 以上のスタンドで補給(充てん)できます。補給(充てん)の際は、スタンドにご確認ください。
なお、差圧式簡易 LPG スタンドでの補給(充てん)には対応していません。



■ ポンプ加圧力とは

スタンドの補給（充てん）装置のポンプ加圧力のことです。



■ 燃料タンク容量（参考値）

52L

保安基準により、タンク容量の 80%が最大補給（充てん）量となります。

■ 燃料の補給（充てん）について

LPG ハイブリッド車も、燃料がなければ走行できません。燃料が少なくなる前に、早めに補給（充てん）してください。燃料残量警告灯（→ P. 358）が点灯したら、すみやかに燃料を補給（充てん）してください。

■ 燃料タンクの所有者表示について

LP オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、車両の所有者とタンクの所有者が異なる場合は、タンクには所有者表示が義務付けられています。

■ 燃料タンクの検査について

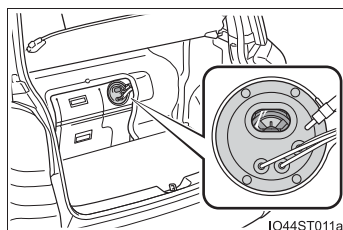
LP オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、タンクおよびバルブには定期的な検査が義務付けられています。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ 燃料計について

燃料計はラゲージルーム内にあります。外周の数字がタンク内の燃料容量を%表示で表します。

燃料計はメーター内にもあります。

（→P. 76）



■ 燃料補給口のフタ閉め忘れ防止について

READY インジケーターが点灯しているときに燃料補給口のフタが開く、または燃料補給口のフタが開いた状態で LPG ハイブリッドシステムを始動すると、マルチインフォメーションディスプレイに「LPG 充填口開検知 安全な場所に停車して閉じてください」が表示され、警告ブザーが鳴ります。

走行中の場合は安全な場所に停車して、燃料補給口のフタを閉めてください。また、LPG ハイブリッドシステムを始動する場合は燃料補給口のフタを閉めてください。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 209

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 221

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 188

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 227

警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムの認識性能・制御性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ 前方カメラの画像情報

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

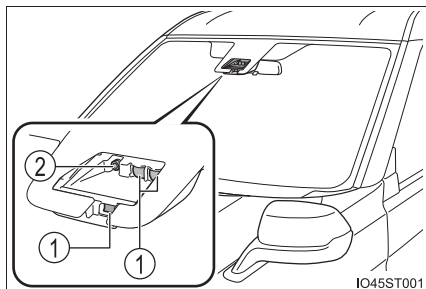
なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ・ トヨタが訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウィンドウガラス上部にある2種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 前方カメラ



警告

■ 前方センサーについて

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞき込まないでください。

レーザー等級ラベル

**INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT**

レーザー説明ラベル

**Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm**

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW
パルス持続時間：33 ns
波長：905 nm
発散角（水平 × 垂直）：28° × 12°

警告

■ 前方センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

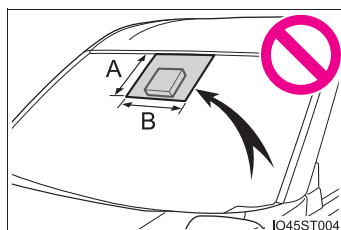
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

● フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

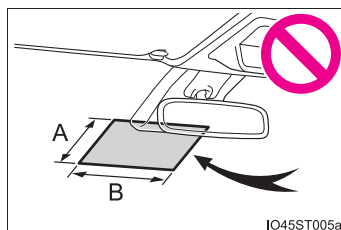
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



● フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A：前方センサー下端から下約 10cm まで

B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



● 冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点灯します。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（→ P. 262）

 注意

- 前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る
水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。
- 前方センサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず
に交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- インナーミラーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

 知識

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

● 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・ 汚れや付着物を取り除く。 ・ 前方センサー周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 262）
炎天下や極寒の環境など、前方センサー周囲の温度などが作動条件外の時	炎天下での駐車時など、前方センサーが高温のときは、エアコンでセンサー周囲の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方センサーが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方センサーが低温のときは、エアコンで前方センサー周囲の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方センサーの視界がさえぎられないようにする

● 周囲の環境（暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できない状況）が改善されたり、しばらく走行したりしても PCS 警告灯や警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 209）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 213）

システムの作動対象

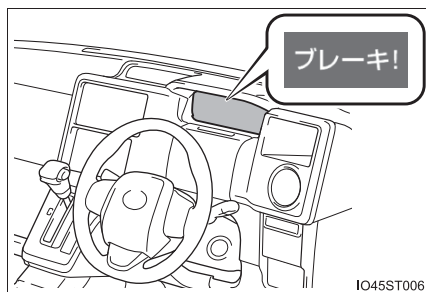
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴ってブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 216
- ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 218

- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告**■プリクラッシュブレーキについて**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。
- 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保してください。
 - ・ 車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
 - ・ 減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 215）
 - ・ プリクラッシュセーフティを OFF にする（→ P. 213）

 警告**■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引してもらうとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、LPG ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき（→ P. 313, 318）
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

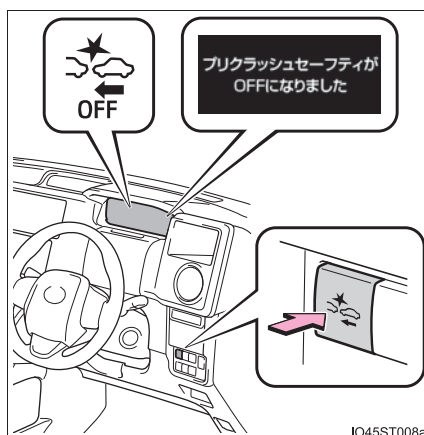
■ プリクラッシュセーフティを OFF にする

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

LPG ハイブリッドシステムを始動するたび、プリクラッシュセーフティは ON になります。

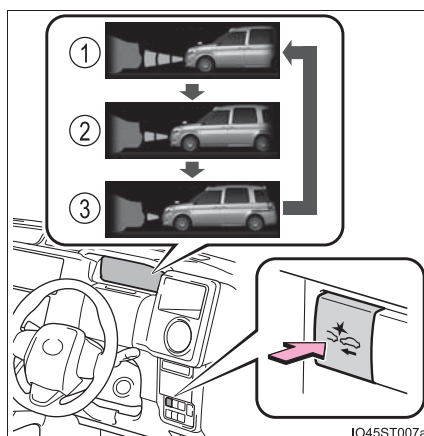


■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

PCS スイッチを押すとマルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

変更した作動タイミングはパワースイッチを “LOCK” にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF の状態から ON にすると「中間」に戻ります。

- ① 早い
- ② 中間
初期設定
- ③ 遅い



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 140km/h	約 15km/h 以上
歩行者	約 15 ～ 65km/h	約 15km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 80km/h	約 30km/h 以上
歩行者	約 30 ～ 65km/h	約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 80km/h	約 10km/h 以上
歩行者	約 10 ～ 65km/h	約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。(→ P. 218)

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■ ブリクラッシュブレーキの作動解除

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

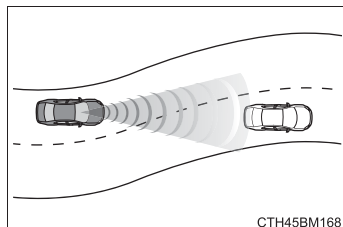
- アクセルペダルを強く踏み込む ※
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

※ 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してブリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

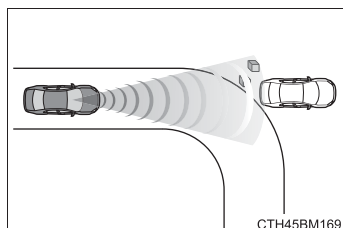
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

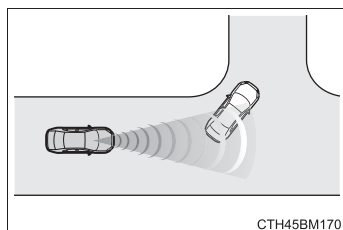
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



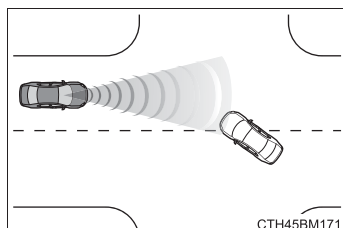
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

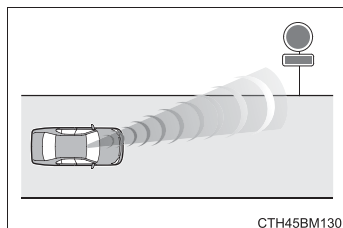


- ・ 右左折時に作動対象とすれ違ったとき
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

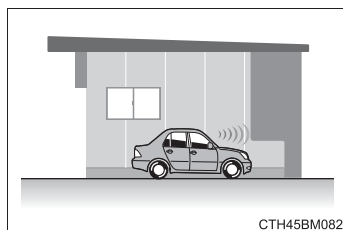


- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

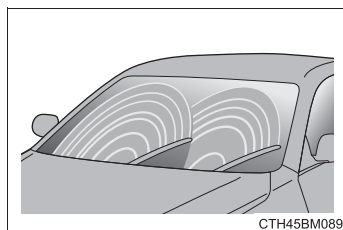
- ・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・自車の前方に光を反射する物（マンホール・反射材など）・段差・突起物があるとき
- ・センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



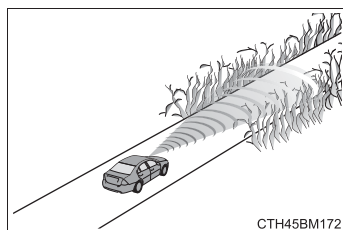
- ・前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき



- ・フロントウィンドウガラスが雨滴などで覆われているとき



- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・洗車機を使用するとき
- ・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

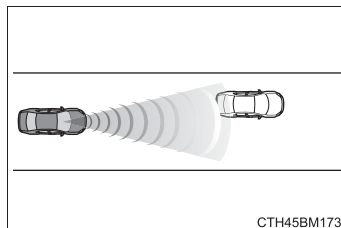


- ・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

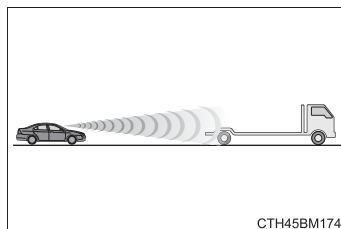
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



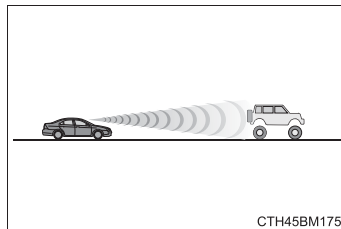
CTH45BM173

- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両が自転車・オートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

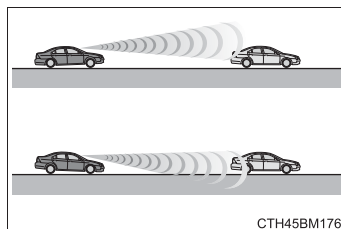


CTH45BM174

- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 歩行者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
 - ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
 - ・ 過度な高速走行をしているとき
 - ・ きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 作動対象がレーザー波を反射しにくい状態のとき
 - ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの磨耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

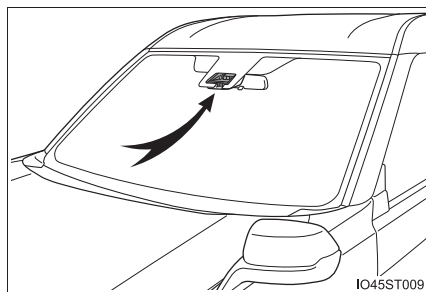
- VSC の作動を停止（→ P. 249）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のため プリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中に、フロントウィンドウガラス上部の前方センサーを利用して白（黄）線を認識し、走行中の車線から車両が逸脱したとシステムが判断した場合に、ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に警告します。

前方センサー

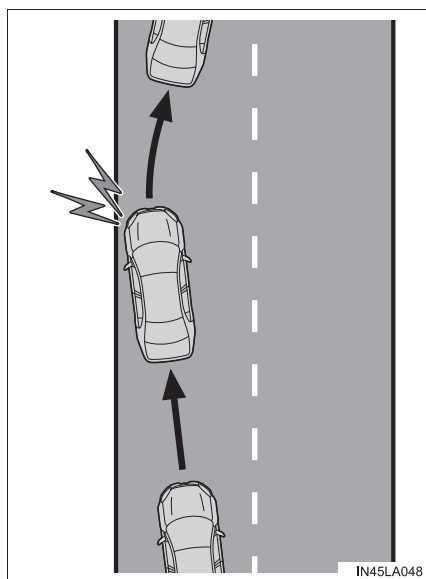


LDA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



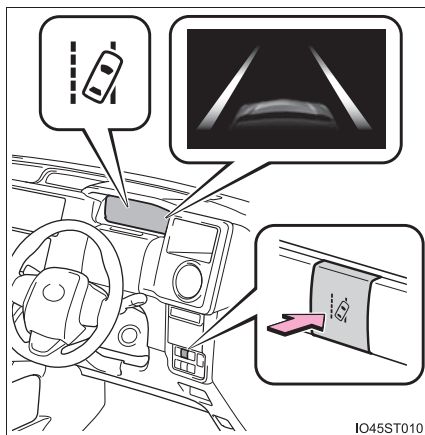
設定のしかた

LDAを使用するにはLDAスイッチを押す

メーター内の LDA 表示灯が点灯します。

OFFにするには、再度スイッチを押します。

いったんLDAをON / OFFすると、次回LPGハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



作動条件

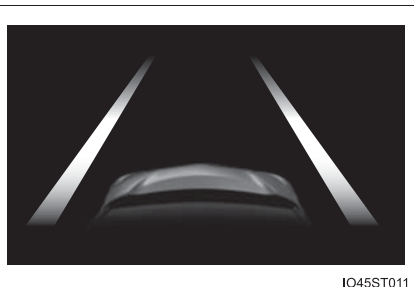
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 直線路またはゆるいカーブ（半径約 150m 以上）を走行しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示

両側の白線表示内側が白いとき：

左右の白（黄）線が認識されていることを示しています。

車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が黄色で点滅、および表示内の車両の位置が逸脱している方向に移動します。

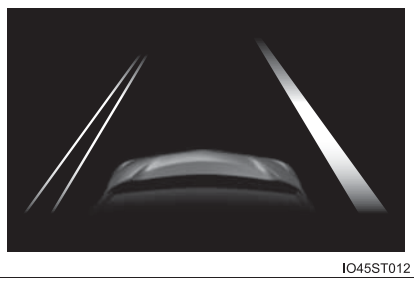


IO45ST011

片側の白線表示内側が白いとき：

左右いずれか一方の白（黄）線が認識されていることを示しています。

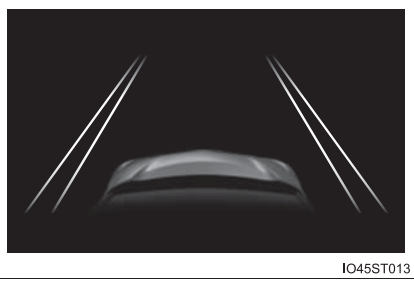
認識されている側の白（黄）線から車両が逸脱した場合、その白線表示が黄色で点滅します。



IO45ST012

両側の白線表示内側が黒いとき：

白（黄）線が認識されていないまたは LDA が一時的に解除されていることを示しています。



IO45ST013

 知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 作動条件以外の車速になったとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき
- 車線逸脱警報吹鳴直後
車線逸脱警報が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■車線逸脱警報について

オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、警報音が聞き取りづらくなる場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動しないことがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 204）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないことがあります。故障ではありません。

- 料金所や検札所の手前や交差点などを走行するとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線がかすれていたり、道路鈑や置き石などのとき
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

冬用タイヤなど、タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LDA の警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→ P. 363）表示された画面の指示に従ってください。

また、警告メッセージは表示されても通常の走行に支障はありません。

■車線逸脱警報ブザーの感度調整について

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 86）により、LDA 警報感度を変更することができます。

 警告**■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 誤操作を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF してください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 工事によって規制された車線や仮設の車線を走行するとき

 注意**■ LDA の故障や誤作動を防ぐために**

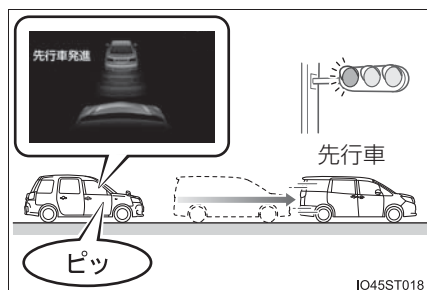
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。サスペンション部品の交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けしないでください。

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

シフトレバーがP・R以外で、ブレーキペダルを踏んで停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があります

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検知できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの  画面（→ P. 86）で、先行車発進告知機能に関する次の設定を変更することができます。

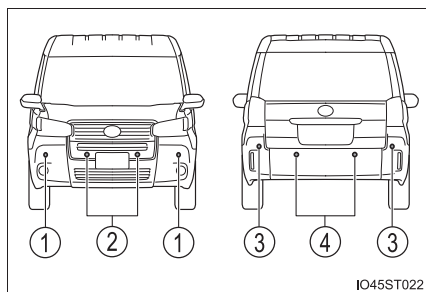
- 先行車発進告知機能の ON / OFF
- 先行車発進告知機能の告知タイミング

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と壁などの静止物とのおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

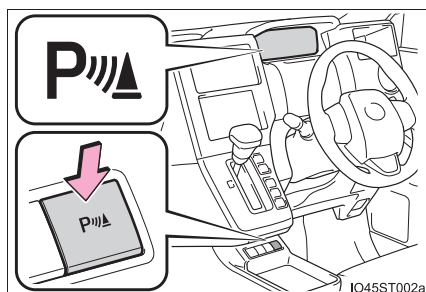
- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ リヤセンターセンサー



クリアランスソナースイッチ

ON / OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーは ON になり、クリアランスソナー表示灯が点灯します。
OFF するには再びスイッチを押します。

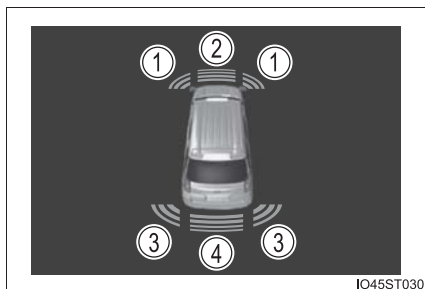


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② フロントセンターセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ リヤセンターセンサー作動表示



距離表示の見方

マルチインフォメーションディスプレイ		静止物までのおおよその距離		
		フロントセンサー	リヤセンサー	コーナーセンサー
 (点灯)	遠い ↑ ↓ 近い	100cm ~ 60cm	150cm ~ 60cm	—
 (点灯)		60cm ~ 45cm		
 (点灯)		45cm ~ 35cm		
 (点滅)		35cm 以下		

■ ブザー動作と静止物までの距離

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が 35cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 静止物を車両の前後で同時に検知したとき

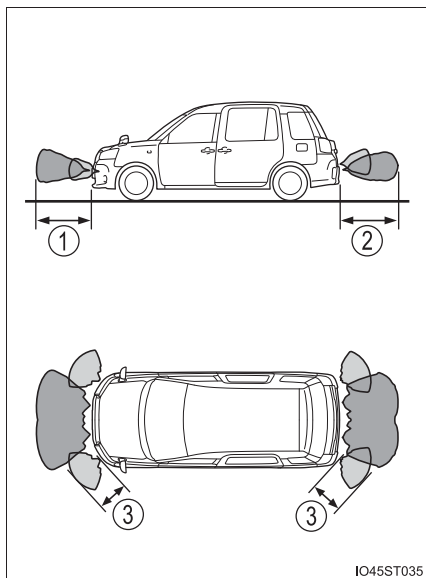
- フロント側、またはリヤ側で静止物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに静止物を検知すると、ブザー音は「ピピピピピピ ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で静止物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に静止物を検知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」をくり返します。

静止物を検知できる範囲

- ① 約 100cm
- ② 約 150cm
- ③ 約 60cm

検知できる範囲は右図のとおりです。
ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



IO45ST035

 知識

■ 作動条件

- フロントセンターセンサー：
 - ・ パワースイッチが“ON” のとき
 - ・ シフトレバーが P・R 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
 - ・ パワースイッチが“ON” のとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき (シフトレバーが R にあるときは除く)
- リヤコーナーセンサー・リヤセンターセンサー：
 - ・ パワースイッチが“ON” のとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、静止物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。
- エアコン使用時は、ファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

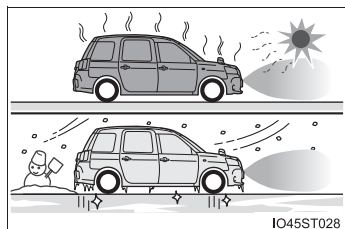
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時

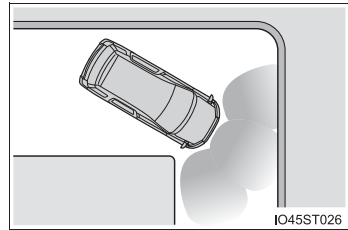


- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

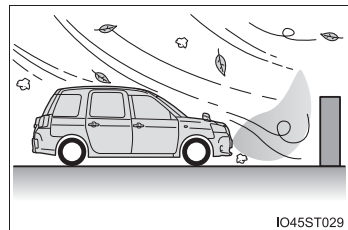
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

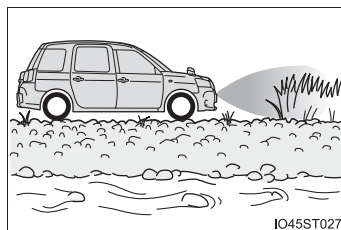


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング） 走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき

- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■ ブザー音のミュート（消音）について

- ミュート（消音）させるとき：

マルチインフォメーションディスプレイに検知した画面が表示されているときにメーター操作スイッチの“OK”を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

- ミュート（消音）が解除されるとき：

次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。

- ・ シフトポジションを切りかえたとき
- ・ 車速が約 10km/h をこえたとき
- ・ クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
- ・ パワースイッチを“LOCK”にし、再度“ON”にしたとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

ブザーの音量などを変更できます。

（カスタマイズ一覧：→ P. 415）

 警告**■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

 警告**■ クリアランスソナーを OFF にするとき**

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■ クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- ・ センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- ・ バンパーをぶつけたとき
- ・ ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき（ミュート選択時は除く）

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

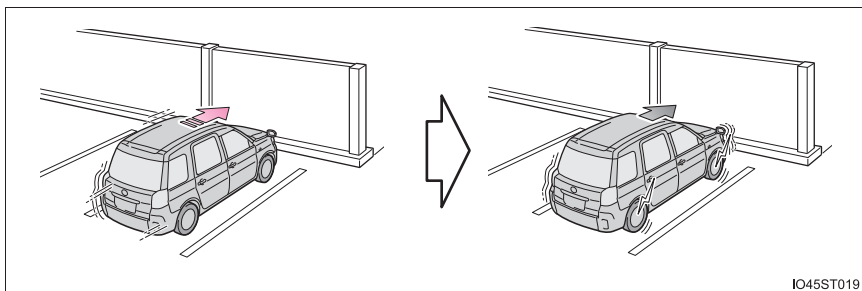
パーキングサポートブレーキ（静止物）★

駐車時や低速走行時における静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、壁などの静止物への衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

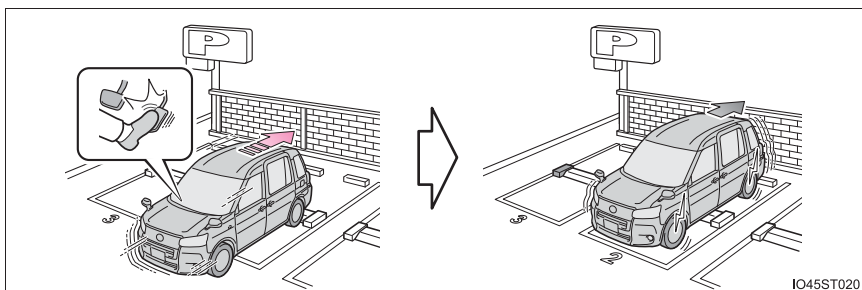
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

- ◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

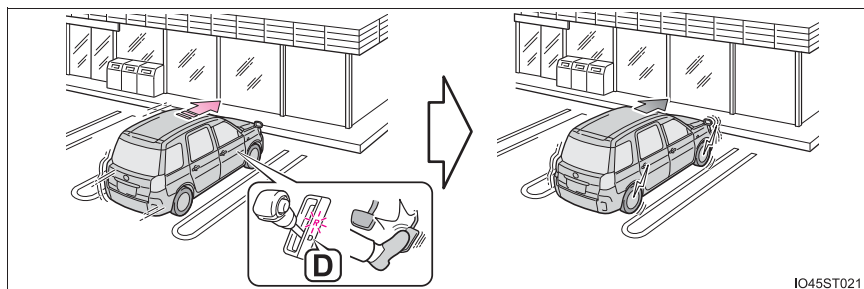


- ◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



IO45ST021

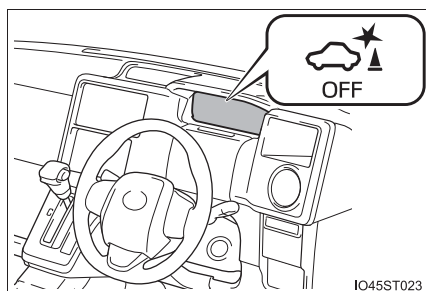
センサーの種類

→ P. 229

パーキングサポートブレーキ（静止物）の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面（→ P. 86）から、パーキングサポートブレーキの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パーキングサポートブレーキ（静止物）が OFF（非作動）になっているときは、パーキングサポートブレーキ OFF 表示灯が点灯します。



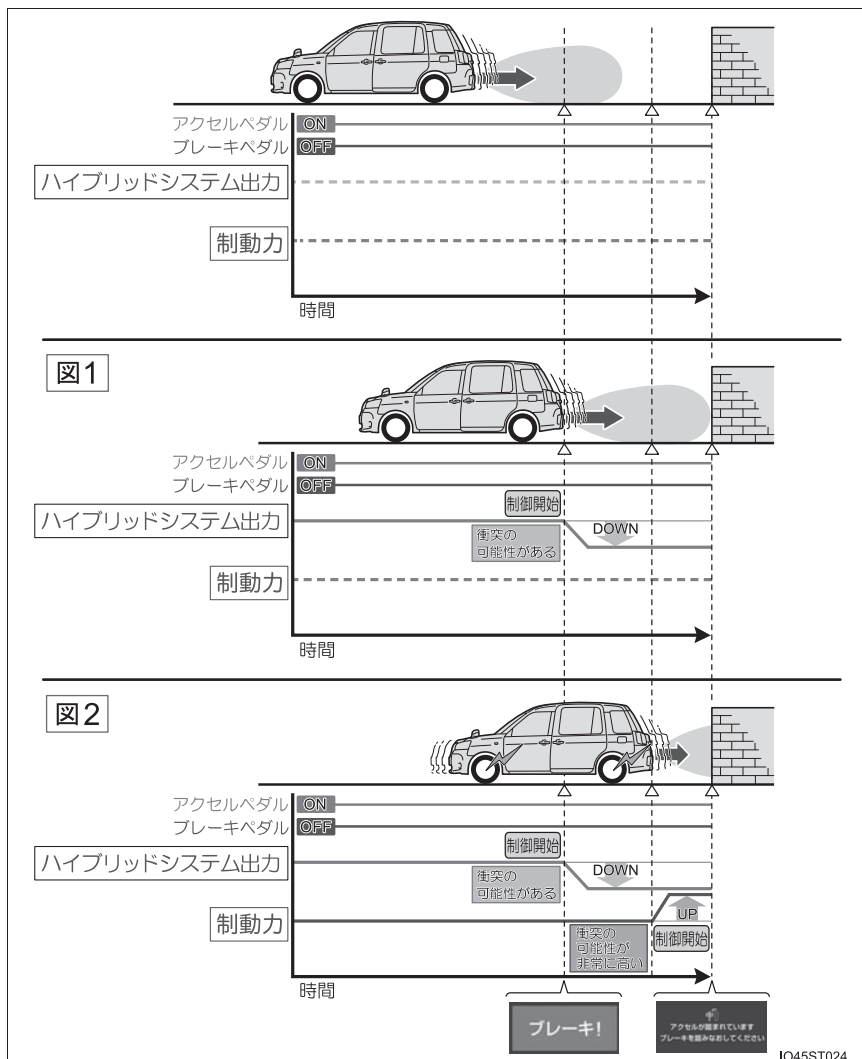
IO45ST023

OFF（非作動）に切りかえて、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させた場合、再度マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキ（静止物）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物）を検知したとき、LPG ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御：下記図 1）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

パーキングサポートブレーキ OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 360）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ▶ LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に静止物がある（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ▶ LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（非作動）にした
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
 - ・ 車両進行方向の静止物がなくなった（約 2 ～ 4m 先まで）
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（非作動）にした
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
 - ・ 車両進行方向の静止物がなくなった（約 2 ～ 4m 先まで）

LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチ インフォメーション ディスプレイ表示	パーキング サポート ブレーキ OFF 表示灯	ブザー
LPG ハイブリッド システム出力 抑制制御作動中 (加速制限 制御)	一定以上の加速 ができない状況		消灯の まま	なし
LPG ハイブリッド システム出力 抑制制御作動中 (出力最大抑制 制御)	通常よりやや強 めのブレーキ操 作が必要な状況		消灯の まま	“ポーン” (単発音)
ブレーキ制御 作動中	急ブレーキが 必要な状況			
システム作動 により車両停止	ブレーキ制御作 動で車両停止後 にアクセルが踏 まれている状況		点灯	

 知識**■ システムが作動したときは**

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（静止物）が停止して、パーキングサポートブレーキ OFF 表示灯が点灯します。

作動した場合でも、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでもブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで発進できます。

■ センサーが検知しない作動対象について

次のようなものは、センサーが検知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
（特に人は衣類の種類によっても検知できない場合があります）
- 鋭角的な形のもの
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 234

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 235

■ 補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。

約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示されパーキングサポートブレーキ OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、作動対象があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示されパーキングサポートブレーキ OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったときは

システムが正常に作動なくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検してください。

警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（静止物）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- パーキングサポートブレーキ（静止物）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ロードサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

 警告**■ システムを正しく作動させるために**

→ P. 237

■ 万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→ P. 244

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

■ 洗車時の注意

→ P. 238

 注意**■ センサーの故障を防ぐために**

センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。
すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

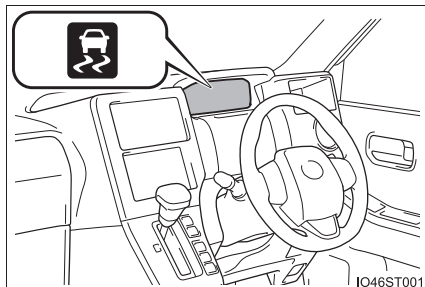
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

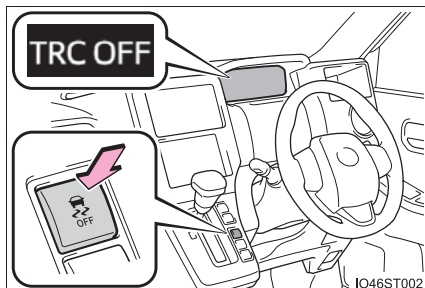
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもLPGハイブリッドシステムの出力が上が

らず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



 知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRCとVSCを停止するには、停車時に  を押し3秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS 警告灯が点灯し、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。(→ P. 220)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- LPG ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- LPGハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときは作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを“LOCK”にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、LPG ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

 警告**■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 413）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ ハイブリッドシステムインジケータの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケータの表示をエコエリアの範囲に保つことで環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 83)

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときはシフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、LPGエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分な燃料消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：LPG エンジン・車室内が暖まるまで、LPG エンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

LPG エンジンが冷えているときは、LPG エンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のための LPG エンジン始動がひんぱんに行われることとなりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

（タイヤについて：→ P. 313）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ ドアやワイパーが凍結したとき

ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。

熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 260

シートヒーター 269

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 271

・日報灯 272

・ルームランプ 272

・リヤ読書灯 272

5-3. 収納装備

収納装備一覧 274

・車検証固定バンド 275

・小物入れ 276

・ボトルホルダー 276

ラゲージルーム内装備 277

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 281

・サンバイザー 281

・バニティミラー 281

・アクセサリーソケット 282

・アクセサリー
コンセント 283

・充電用 USB 端子 290

・アシストグリップ／
シートバックアシスト
ボード 292

・時計 293

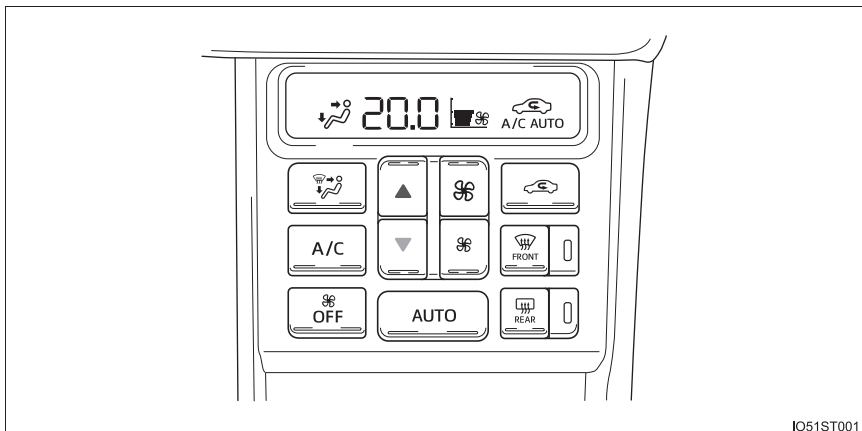
・料金トレイ 293

サービスコネクター 294

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



IO51ST001

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を、下げるときは  を押す

 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を、減らすときは  を押す

 を押すと、送風が止まります。

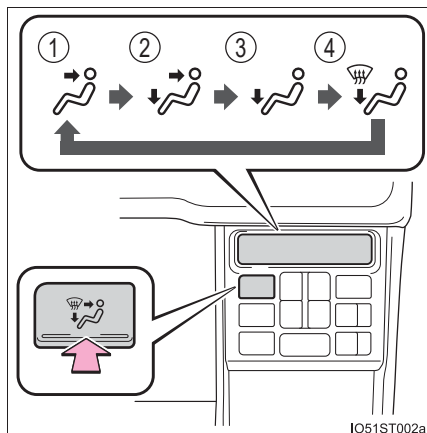
■ 吹き出し口を切りかえる



を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



IO51ST002a

オート設定で使用する

1



を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

2

温度を設定する

送風を止めたいときは、 を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには



を押す

ボタンを押すたびに内気循環・外気導入が切りかわり、内気循環の場合はパネル内の表示灯が点灯し、外気導入の場合は消灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには



を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。



を押す

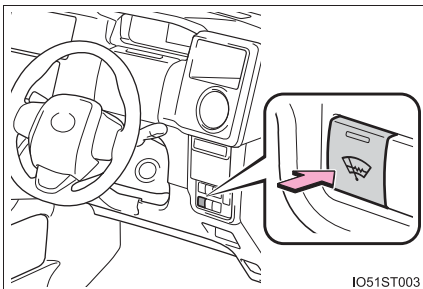
リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

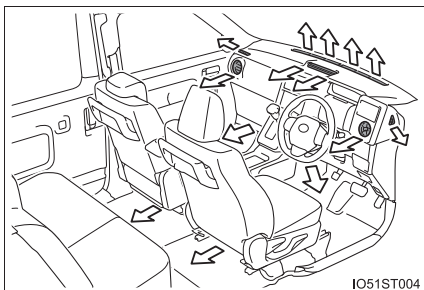


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

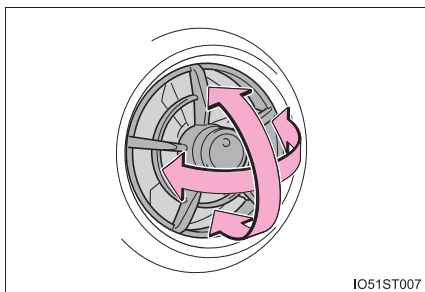
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



IO51ST004

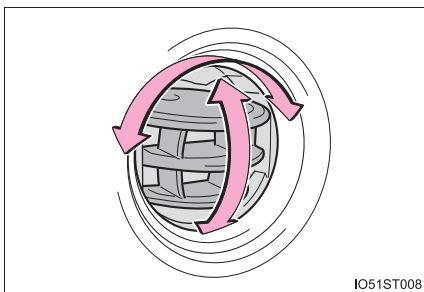
■ 風向きの調整

▶ 運転席側吹き出し口



IO51ST007

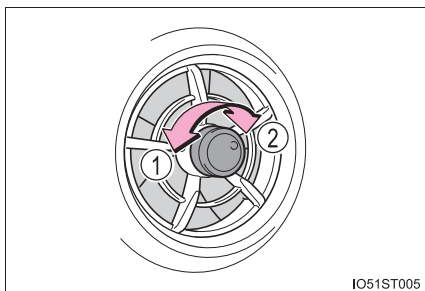
▶ 助手席側吹き出し口



IO51ST008

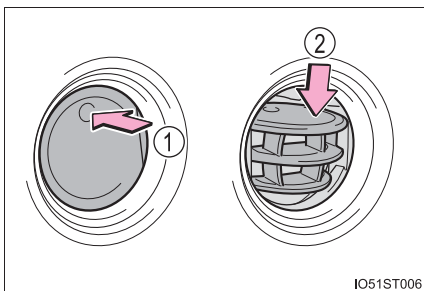
■ 吹き出し口の開閉

▶ 運転席側吹き出し口



IO51ST005

▶ 助手席側吹き出し口



IO51ST006

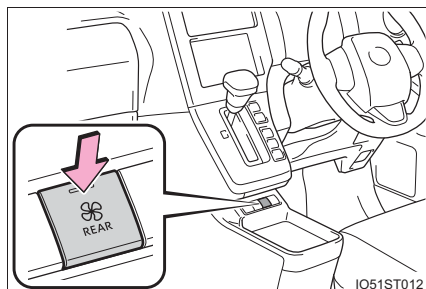
① 開ける

② 閉じる

天井サーキュレーター★**メインスイッチを押す**

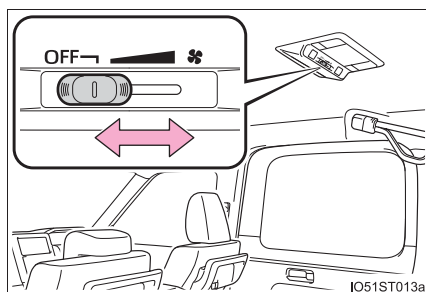
メインスイッチが ON になっているときは、スイッチ上のインジケーターが点灯します。

もう一度スイッチを押すと OFF になります。

**■ 風量の切りかえ**

風量を増やすときは風量調節レバーを右に、減らすときは左に操作する

送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

● 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

● トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

● 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

 を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー X」※^{1, 2}について

エアコンには「ナノイー X」発生装置が搭載されています。この装置は吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※³。

- ファンが作動すると自動的に「ナノイー X」が作動します。
- 「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または  のとき

・吹き出し口が開いているとき

- 「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 「ナノイー X」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
 - ・「ナノイー X」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
 - ・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※¹ 「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

※² 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※³ 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 319

■LPG 燃料冷却システムについて

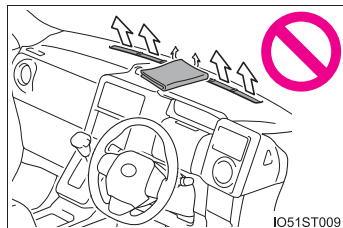
- 走行中、LPG 表示灯が点滅したときは、自動的に LPG 燃料冷却システムが作動します。燃料冷却システムが作動すると、 を押していても自動的にエアコンが作動し、送風されます。その間は、 や  を押しても操作が無効になります。温度の設定は可能で、 を押して温度を一番低くすると冷却機能を最大にすることができます。車室温度が低下した場合は、 を押して調整してください。(→ P. 260)
- パワースイッチを“LOCK”にしたときや、エアコンを停止したときにインストルメントパネル内やフロア下から“シュー”という音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。“シュー”という音はしばらく聞こえることもあります。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー X」について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

LPG ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に動かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

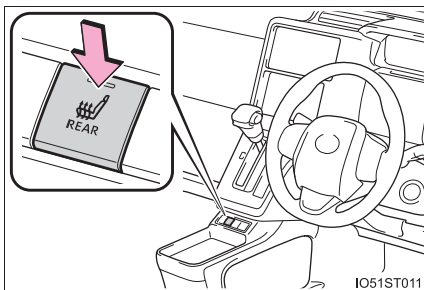
シートヒーター★

リヤシートを暖めることができます。

操作のしかた

1 メインスイッチを押す

メインスイッチが ON になっているときは、スイッチ上のインジケーターが点灯します。

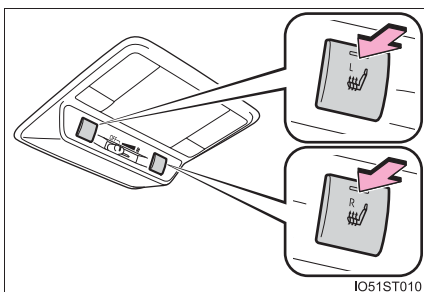


2 スイッチを押す

R：運転席側

L：助手席側

シートヒーターが作動しているときは、スイッチ上のインジケーターが点灯します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが “ON” のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

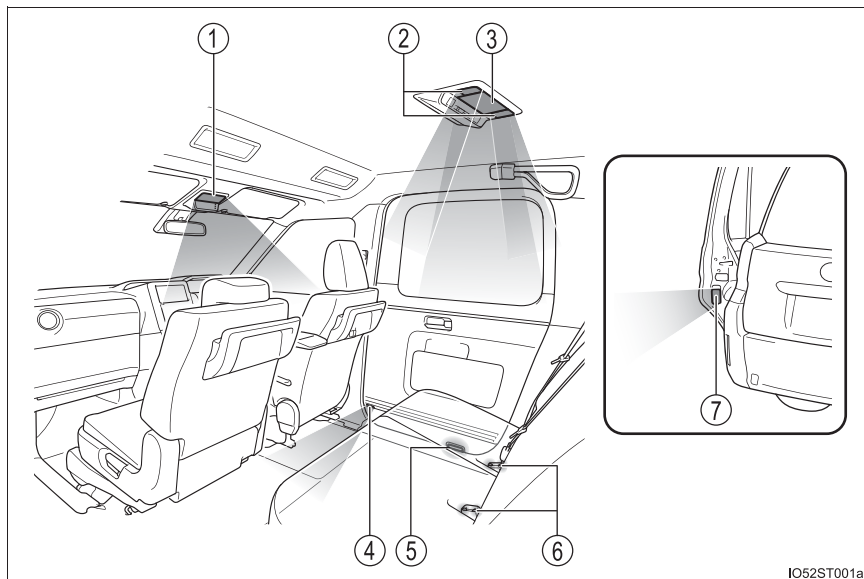
 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがシートヒーターにふれないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

 注意

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、LPG ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

室内灯一覧

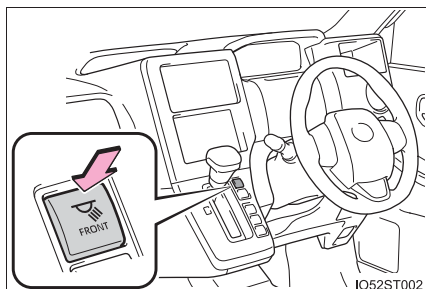


- ① 日報灯 (→ P. 272)
- ② リヤ読書灯 (→ P. 272)
- ③ ルームランプ (→ P. 272)
- ④ リヤ足元イルミネーション
- ⑤ ドアカーテシランプ (右側のみ)
- ⑥ シートベルトバックル照明★
- ⑦ ドアオープンランプ

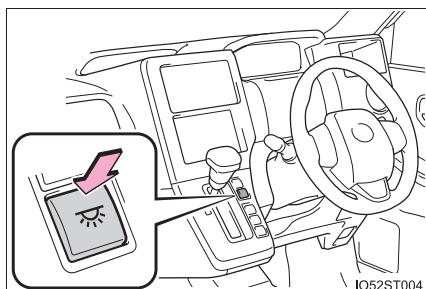
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

日報灯

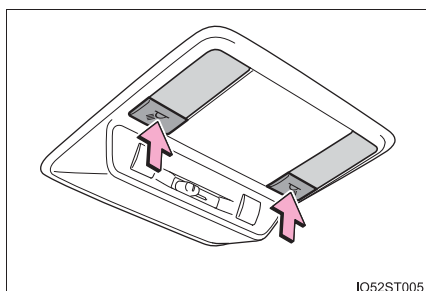
ランプを点灯・消灯する

**ルームランプ**

ランプを点灯・消灯する

**リヤ読書灯**

ランプを点灯・消灯する



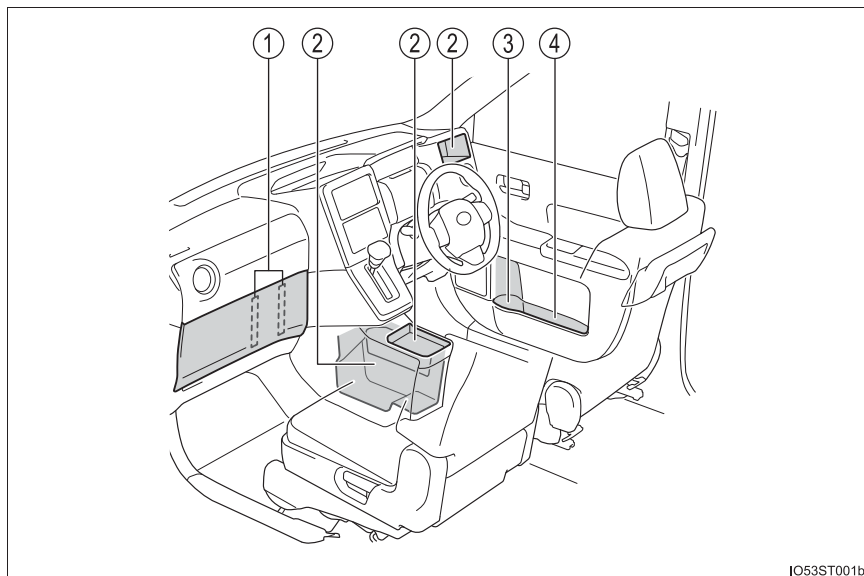
 知識

- ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチの位置により各部の照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエントリーシステム)
- パワースイッチが“LOCK”で次の室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。
 - ・ 日報灯 (スイッチが OFF のときのみ)
 - ・ ルームランプ (スイッチが OFF のときのみ)
 - ・ リヤ足元イルミネーション
- 車幅灯点灯時のメーターの明るさを一番暗く設定している場合 (→ P. 86) は、足元照明は点灯しません。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧: → P. 415)

 注意

補機バッテリーあがりを防止するために、LPG ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



- ① 車検証固定バンド (→ P. 275) ③ ボトルホルダー (→ P. 276)
② 小物入れ (→ P. 276) ④ ドアポケット

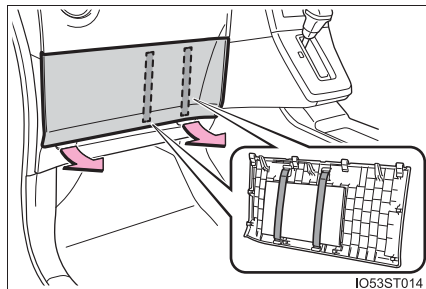
⚠ 警告

メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

車検証固定バンド



知識

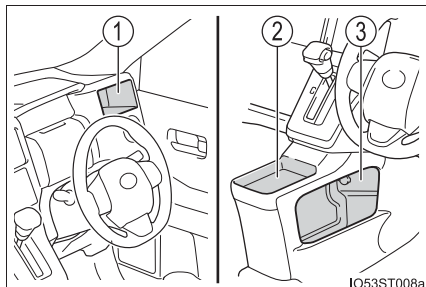
車検証固定バンドを使用するときは、しっかりと固定してください。バンドでしっかり固定されていないと、エアコンの吸入口をふさぎ、空調機能が低下するおそれがあります。

注意

車検証固定バンドの破損を防ぐために、200g 以上のものを固定しないでください。

小物入れ

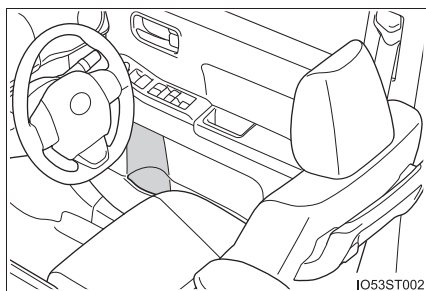
- ① インストルメントパネル
- ② コンソール上部
- ③ コンソール（運転席側）



知識

- インストルメントパネルおよびコンソール上部の小物入れを使用するときは、マットを敷いてください。マットはコンソール（運転席側）の小物入れ内にあります。
- 転がりやすいものを置かないでください。上り坂を走行するときや急発進時に転がり出てくるおそれがあります。

ボトルホルダー



知識

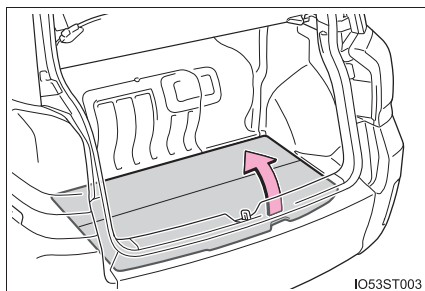
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

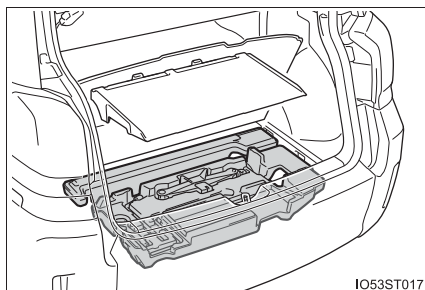
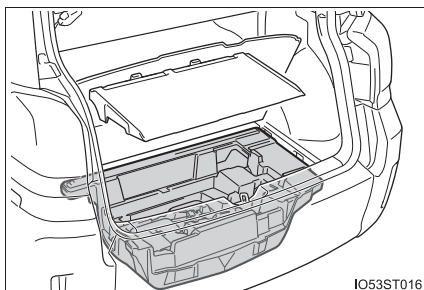
ラゲージルーム内装備

デッキボード



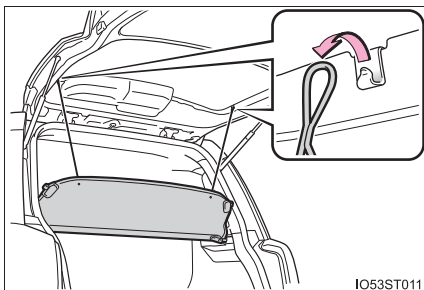
デッキアンダートレイ

- ▶ タイヤパンク応急修理キット装着車
- ▶ 応急用タイヤ装着車

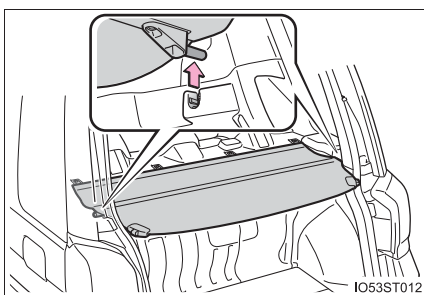


トノカバー★**■ トノカバーの取りはずし**

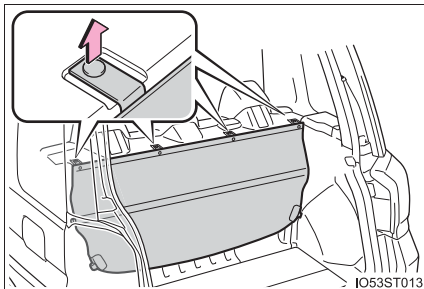
- 1 留めひもを左右のフックからはずす



- 2 トノカバーを持ち上げて、ホルダーから取りはずす



- 3 クリップをはずす
クリップをはずさずにトノカバーを垂らして使用することもできます。



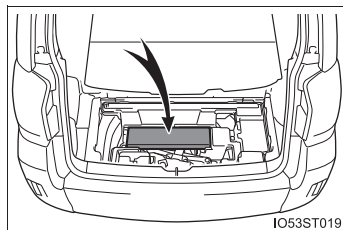
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 三角表示板収納について

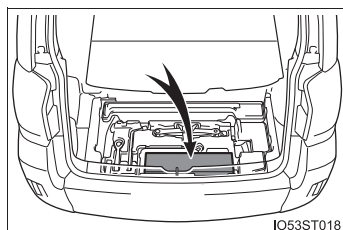
デッキアンダートレイに、三角表示板を収納することができます。
ただし、三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



IO53ST018

▶ 応急用タイヤ装着車



IO53ST018

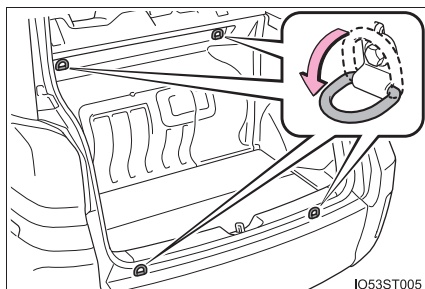
警告

- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

デッキフック

フックを起こして使用する

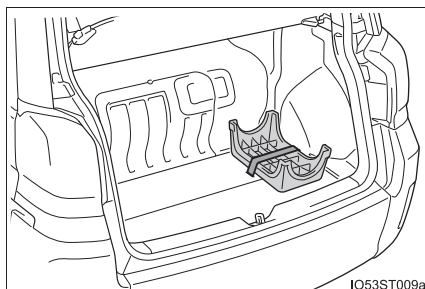
フックを使って荷物を固定することができます。



⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ステップ等固定バンド★

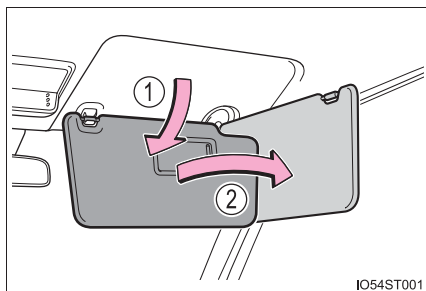


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の室内装備

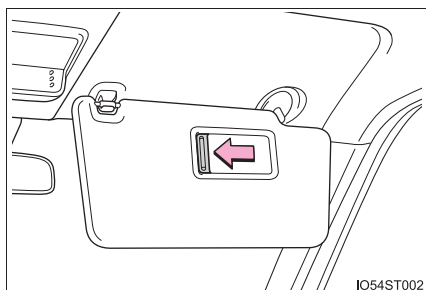
サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー（運転席側）

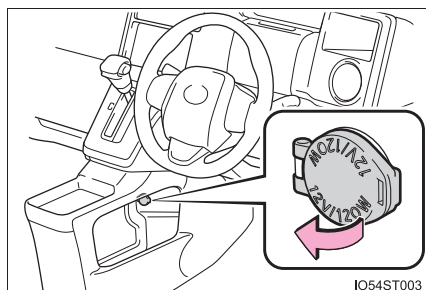
カバーをスライドして開ける



アクセサリースOCKET

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ LPG ハイブリッドシステムを停止するとき

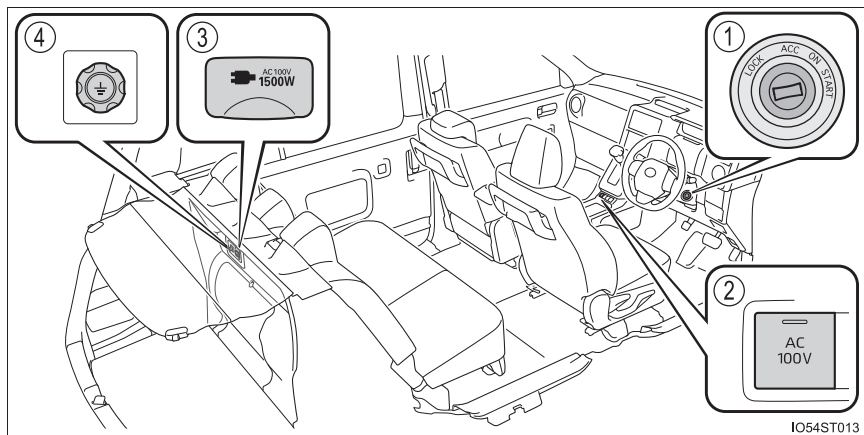
モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、LPG ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

⚠ 注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、LPG ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

アクセサリコンセント (AC 100V・1500W) ★

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

■ 各部の名称

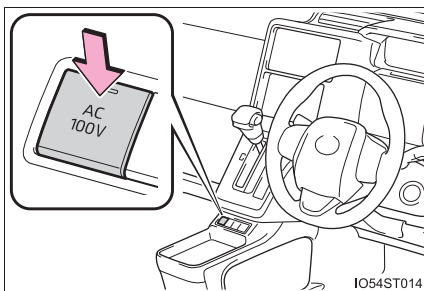
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを “START” の位置にまわす (→ P. 170)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

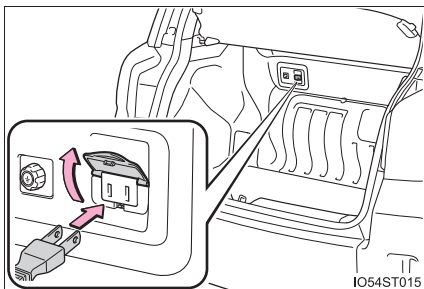
AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON / OFF が切りかわります。



■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。



■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

 知識

■ 使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力の合計がAC100Vで最大 1500W 以下となるよう、電気製品を使用してください。使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が規定容量をこえる場合があります。規定容量をこえる電気製品を使用するとコンセントの保護機能が働き使用できなくなりますが、故障ではありません。ただし、次の点について注意が必要です。

- 定格消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。
- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。
- 一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・ 走行中の振動による電気製品の故障
 - ・ 車室内の温度変化※による電気製品の故障または作動不良
 - ・ 車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

※ 天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■ アクセサリーコンセントについて

- コンセントは電気製品を使用するための装備です。
- コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- 極めて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 82）。残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度 AC100V スイッチを押してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 50Hz に設定されています。

コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差ししたりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- お子さまにコンセントをさわらせないでください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■ 駐車中または停車中に使用するとき**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをPにしていることを確認してください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満・滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 39）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

 注意

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ **ショートや故障を防ぐために**

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたら、ただちに使用を中止してください。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続するなど、タコ足配線はしないでください。

■ **特に外気温が高いとき**

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度 AC100V スイッチを押してください。

■ **特に外気温が低いとき**

駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

充電用 USB 端子

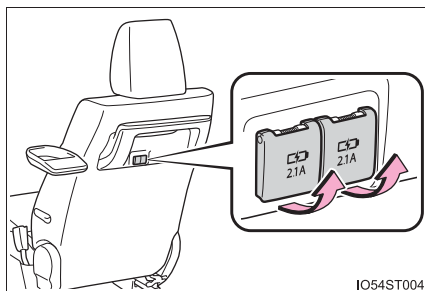
DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

フタを開けて使用する



知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

 注意**■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために**

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

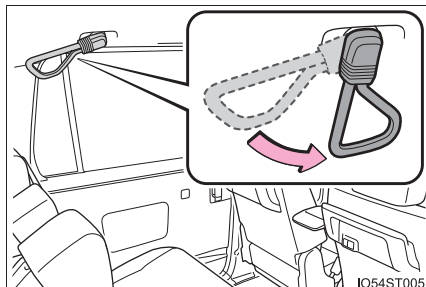
- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

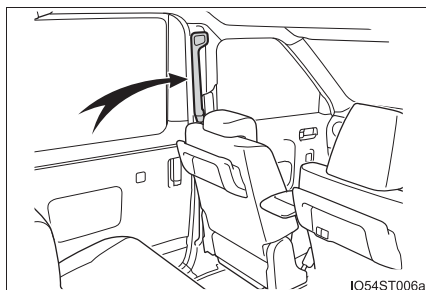
LPG ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

アシストグリップ／シートバックアシストボード

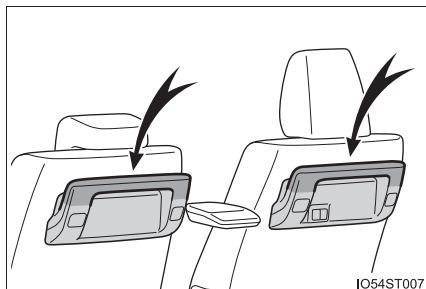
天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）★は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）は、乗降時などにお使いください。



フロントシートの背もたれに取り付けられているシートバックアシストボードは、乗降時などにお使いください。



⚠ 警告

アシストグリップ（回転式）★は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップ／シートバックアシストボードに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

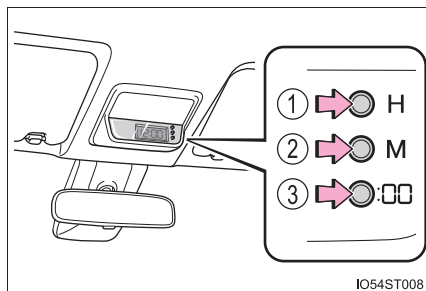
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

時計

ノブを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する (H)
- ② “分” を調整する (M)
- ③ “分” を 00 にする ※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00

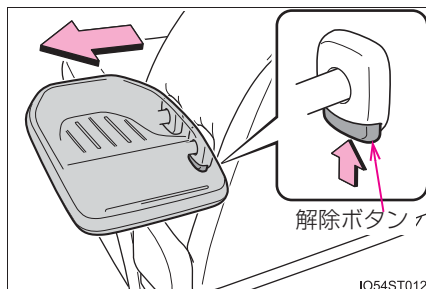


知識

- パワースイッチが “ON” のとき、時刻が表示されます。
- 補機バッテリー端子の脱着を行うと、時刻は自動的に 1:00 にセットされます。

料金トレイ★

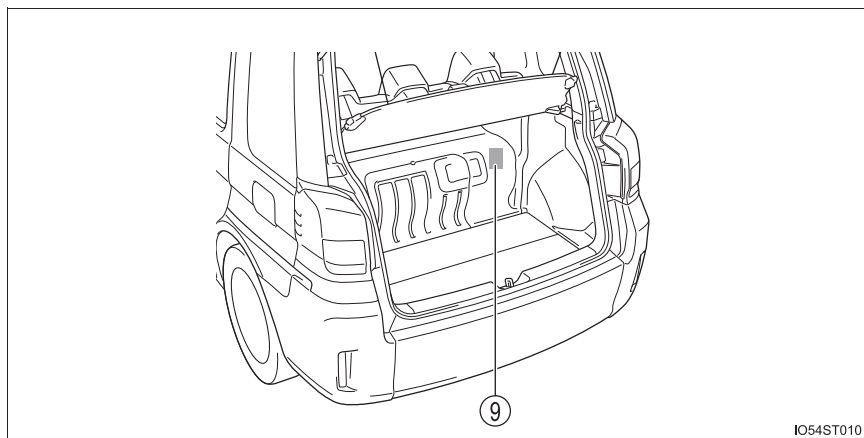
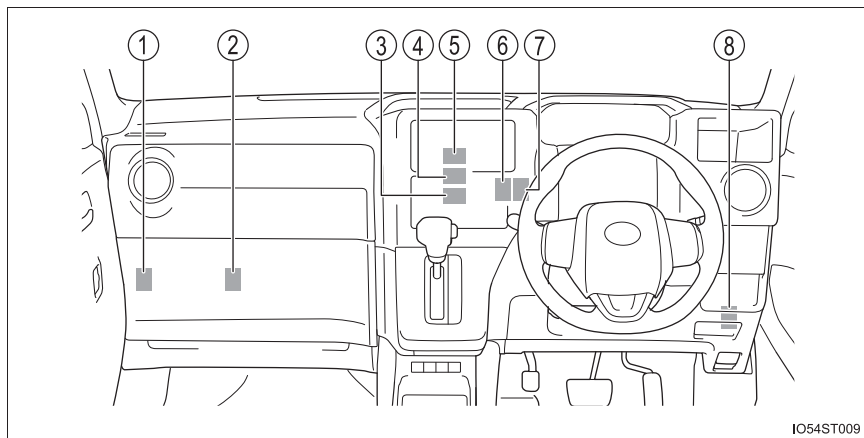
料金トレイを取りはずすときは、解除ボタンを押しながら料金トレイを引き抜きます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サービスコネクター

タクシー機器を取り付けるときは、サービスコネクターを利用してください。その場合には、配線図に従い、正しく結線してください。



- ① ルーフターンライト（左側）用（青色）
- ② 社名灯、防犯灯用（青色）
- ③ ナビゲーションシステム用（青色）
- ④ タコグラフ用（青色）
- ⑤ 無線機用（青色）
- ⑥ ドライブレコーダー用（白色）
- ⑦ 料金メーター用（青色）
- ⑧ ルーフターンライト（右側）用（青色）
- ⑨ 配車ナビゲーションシステム用（青色）

専用ヒューズが設定してあります。

またワイヤーハーネスの取りまわしには十分注意してください。

ルーフターンライトを付ける場合はリレーを取り付けてください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	298
内装の手入れ.....	302

6-2. 点検・整備項目

定期点検整備 （スロープユニット 装着車）.....	306
----------------------------------	-----

6-3. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	308
ガレージジャッキ	311
ウォッシャー液の補充	312
タイヤについて	313
タイヤ空気圧について	317
エアコンフィルターの清掃 ...	319
駆動用電池冷却用吸入口／ フィルターの清掃	321
キーの電池交換	325
ヒューズの点検・交換	328
電球（バルブ）の交換	332

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- 車両前側から洗車してください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約 5% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

▲ 警告

■ 洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは

フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について：→ P. 204

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

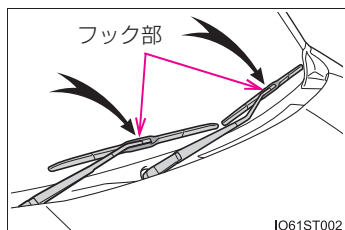
■ 高圧洗浄機を使用するときは

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
 - ・ 車両下部のゴム部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

 注意**■ワイパーアームを立てるときは**

ワイパーアームのフック部を持って引き上げてください。

ワイパーブレードのみを持って引き上げるとブレードが変形するおそれがあります。



内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラス★について

- フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■ スロープユニット★

→ P. 119

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■車両への水の浸入**

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 31)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

■リヤ席下側のカーペット★の手入れをするときは

ものを落とさないように注意してください。ものを落としてしまったときは、無理に取り出さずに、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意**■清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品・駆動用電池に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■ リヤ席下側のカーペット★について

- カーペットのマジックテープがはずれたときは、確実に貼り付けてください。駆動用電池に水がかかると、故障の原因となるおそれがあります。
- カーペットを取りはずすときは、カーペット上に水や異物などがいないことを確認してください。

■ シートベルトリーチャー★の破損を防ぐために

→ P. 30

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

定期点検整備（スロープユニット装着車）

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、P. 443 の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

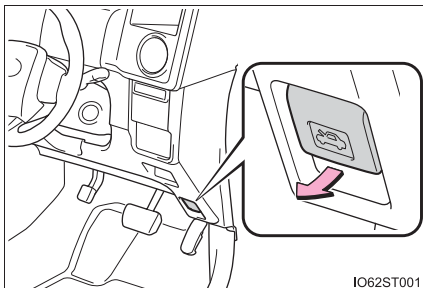
点検整備項目		点検時期				交換時期(年)	備考
		日常点検	3か月ごと	12か月ごと	使用前点検		
スロープ	スロープ No.1						
	スロープ本体の変形・傷			○			著しい変形・傷がないか点検する
	各締結リベットのゆるみ・ガタ			○			抜け・著しいガタ・ゆるみがないか点検する
	ヒンジのゆるみ・ガタ			○			ヒンジおよびヒンジピンの変形によるガタ・ゆるみがないか点検する
	ヒンジの操作荷重			○			操作荷重の著しい変化がないか点検する
	スロープ No.2 の変形・傷・割れ			○			著しい変形・傷がないか点検する
	車両への固定ベルトの損傷・ほつれ			○	○		ほつれが始まったら交換

点検整備項目		点検時期				交換時期(年)	備考
		日常点検	3か月ごと	12か月ごと	使用前点検		
車 い す 固 定 ベ ル ト	ベルトの損傷・ほつれ			○			ほつれが始まったら交換
	アジャスター部						
	変形			○	○		変形がないか点検する
	作動状態			○	○		ロック・アンロック状態を点検する
	アンカー部						
	変形			○	○		変形がないか点検する
	作動状態			○	○		ロック・アンロック状態を点検する
シ ー ト 乗 員 用	ベルトの損傷・ほつれ			○			ほつれが始まったら交換

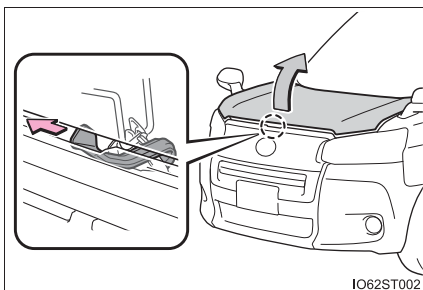
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

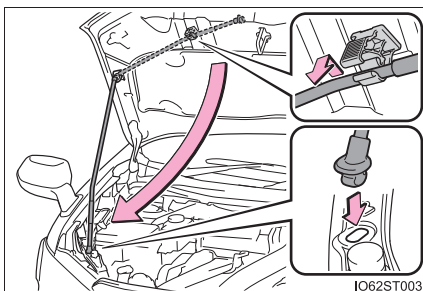
- 1** ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2** レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



- 3** ボンネットステーをステー穴に挿し込む

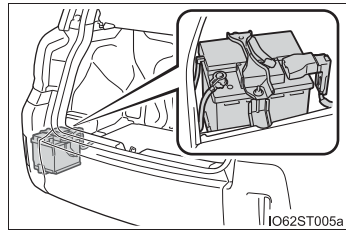


 知識

■ 補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（左側）にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 394）

 警告

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 走行前の確認

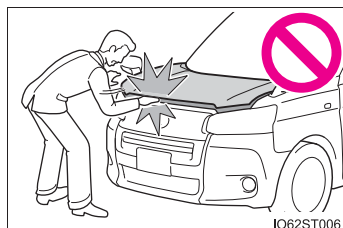
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

警告**■ ボンネットを閉めるとき**

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■ 補機バッテリーの取り扱いについて**

→ P. 398

■ 補機バッテリーを交換するときは

→ P. 399

注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

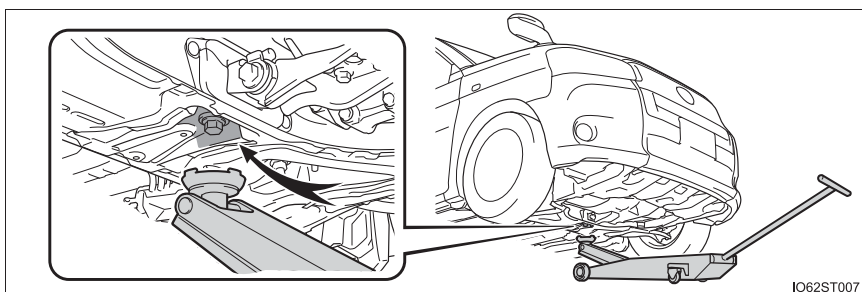
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

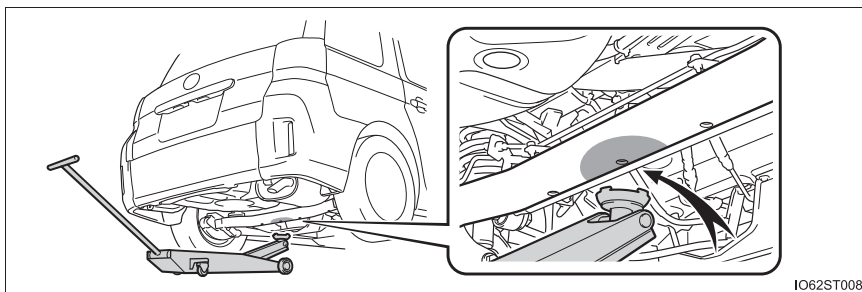
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



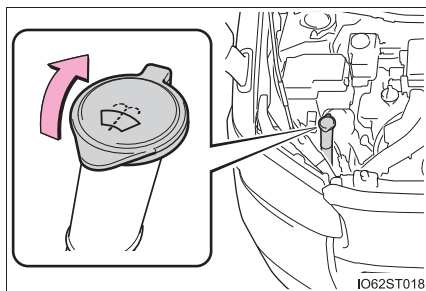
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

LPGハイブリッドシステムが熱いときやLPGハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、LPG ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を 10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

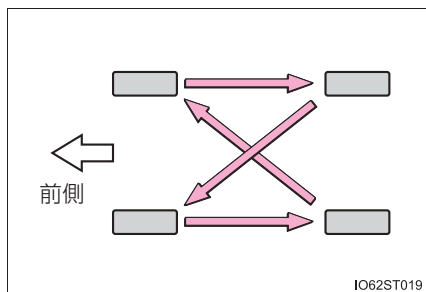
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



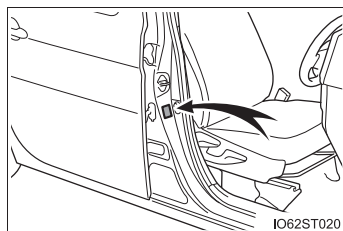
 知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
185/65R15 88S	200 (2.0)	
185/60R15 84H	240 (2.4)	
T125/70D16 96M (応急用タイヤ★)	420 (4.2)	

※ タイヤが冷えているときの空気圧

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

 警告**■ タイヤ交換時の注意**

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。(→ P. 389) テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 413)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

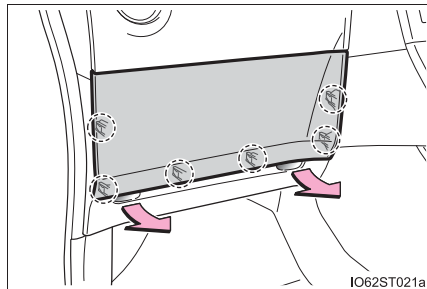
エアコンフィルターの清掃

この車両にはメッシュタイプのエアコンフィルターが装着されています。

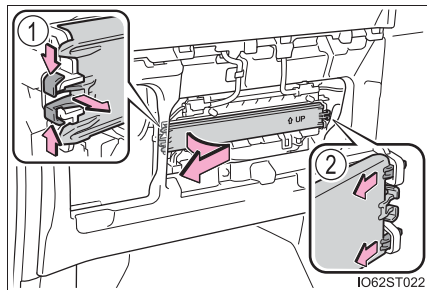
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

清掃・交換のしかた

- 1 パワースイッチを“LOCK”にする
- 2 助手席側のインストルメントパネルのカバーをはずす

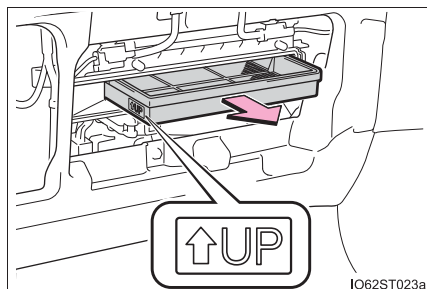


- 3 フィルターカバーを取りはずす
 - ① フィルターカバーの固定を解除する
 - ② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



- 4 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

 知識

■ エアコンフィルターの清掃について

エアコンフィルターは次の時期を目安に清掃してください。

3ヶ月ごと

■ エアコンの風量が減少したときは

- フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃または交換してください。
- お湯による洗浄は行わないでください。フィルターは中性洗剤で洗浄したあと、水洗いするか、エアブローでゴミを吹き飛ばして洗浄してください。

■ エアコンフィルターの交換について

適切な交換時期は、ご使用条件により異なります。

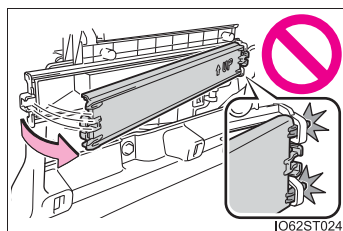
 注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するとき、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



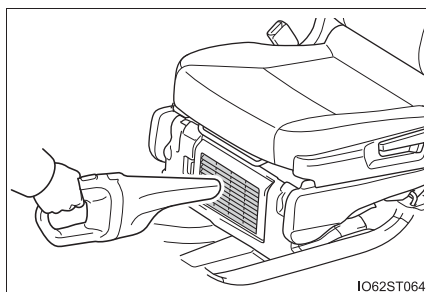
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。
(→ P. 324)

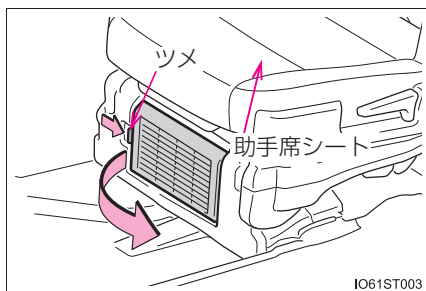


IO62ST064

ほこりを取り除ききれないときは

次の要領で吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

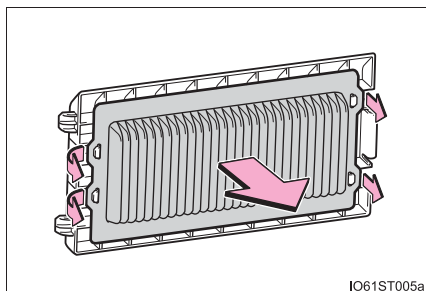
- 1 パワースイッチを“LOCK”にする
- 2 ツメを押しながらカバーを開ける



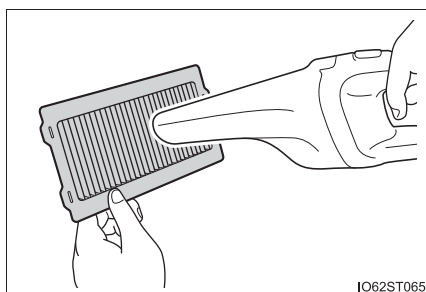
IO61ST003

3 フィルターを取りはずす

フィルターは車両外側からはずしてください。

**4** 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。

**5** 取りはずすときと逆の手順でカバーを取り付ける**6** LPG ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。

LPG ハイブリッドシステム始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。フィルターを清掃しても表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

■ 定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■ 吸入口の清掃について

- 吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃してください。
- 誤った取扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

- 吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。（→ P. 321）
- 清掃したあとは、LPG ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに20分ほど走行が必要場合があります。しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ 駆動用電池冷却用吸入口およびフィルターの手入れをするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを“LOCK”にしてLPGハイブリッドシステムを停止してください。

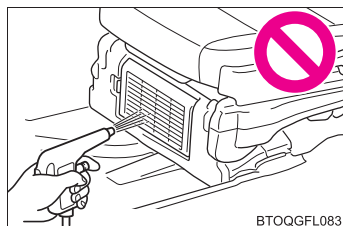
■ 吸入口カバーを取りはずすときは

吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。（→ P. 64）

 注意**■ 吸入口の清掃をするときは**

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。

エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因となったりするおそれがあります。

**■ 車両の故障を防ぐために**

- 吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

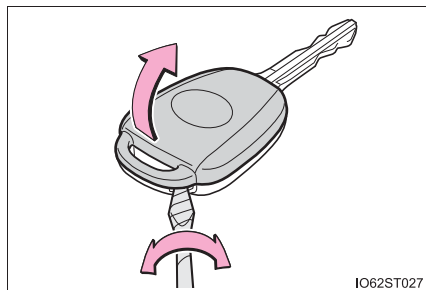
- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2016

電池交換のしかた

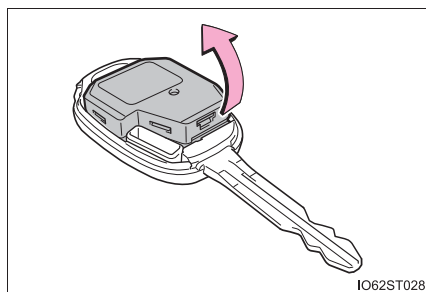
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

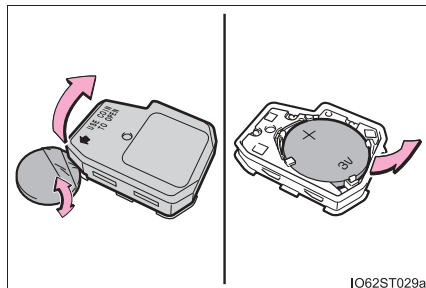


2 モジュールを取りはずす



3 コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2016 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 注意**■交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

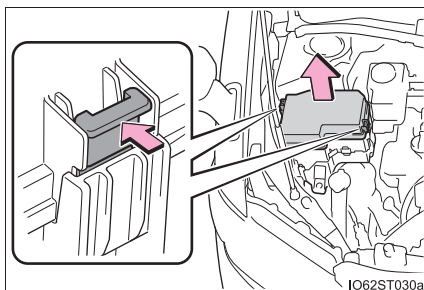
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを“LOCK”にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム (1)

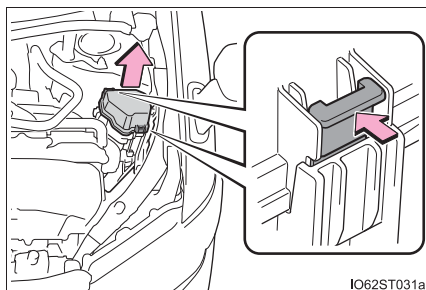


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

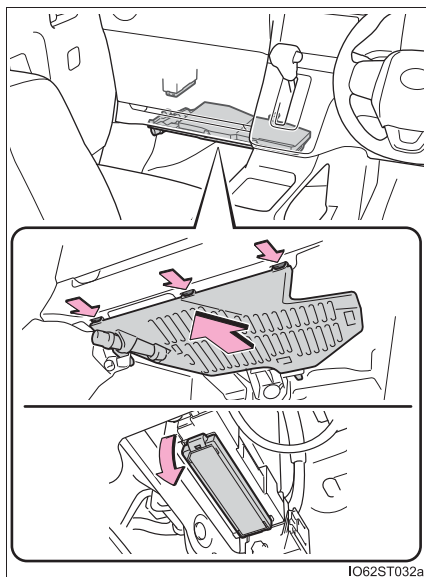
▶ 助手席足元

インストルメントパネルアンダーカバーを取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす

▶ エンジンルーム (2)

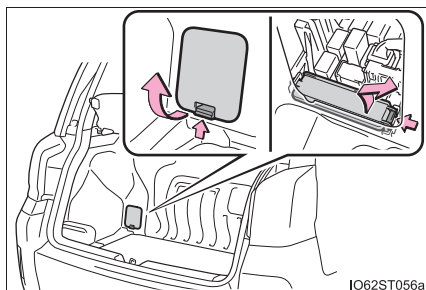


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



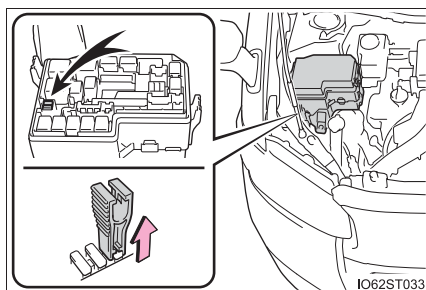
▶ ラゲージルーム

カバーをはずし、ヒューズボックス
のカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引
き抜くことができます。

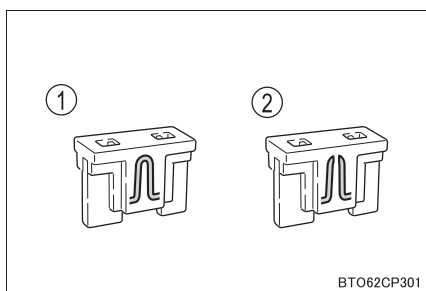


4 ヒューズが切れていないか点検
する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規
定容量のヒューズに交換します。



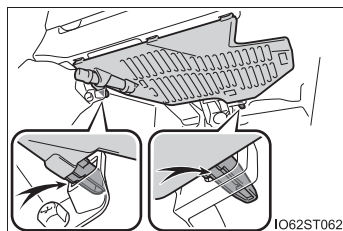
 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 332)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 助手席足元のインストルメントアンダーカバーを取り付けるとき

ツメ (2ヶ所) を挿し込んでからカバーをはめ込んでください。



■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球 (バルブ) を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

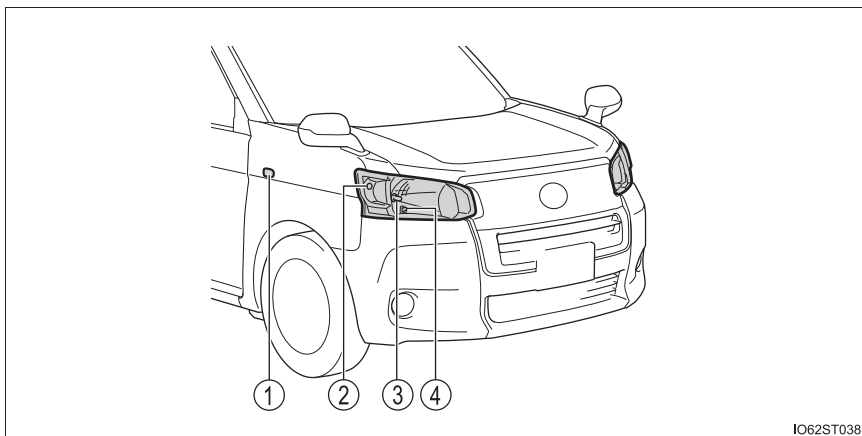
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 413）

バルブ位置

■ フロント

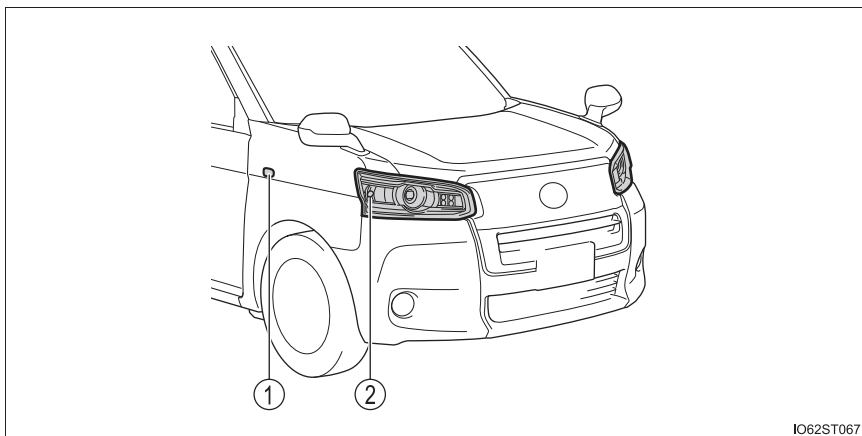
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



IO62ST038

- ① サイド方向指示灯
- ② フロント方向指示灯／非常点滅灯
- ③ ヘッドランプ
- ④ 車幅灯

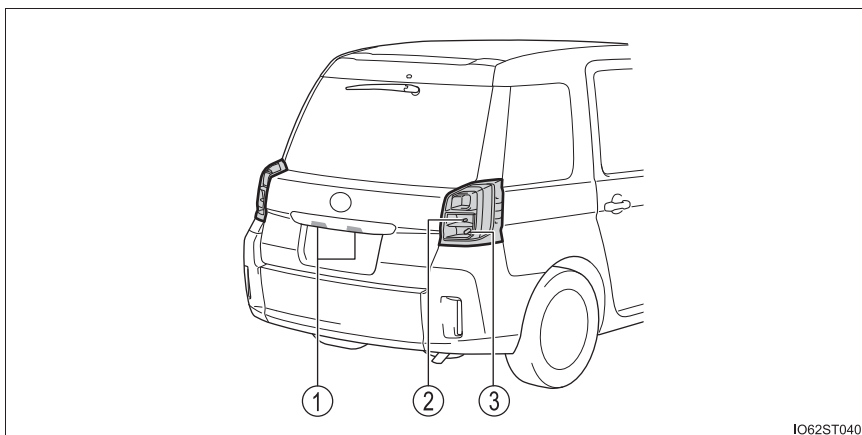
▶ LED ヘッドランプ装着車



IO62ST067

- ① サイド方向指示灯
- ② フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ

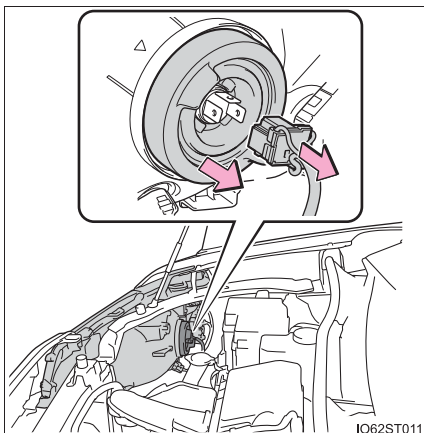


IO62ST040

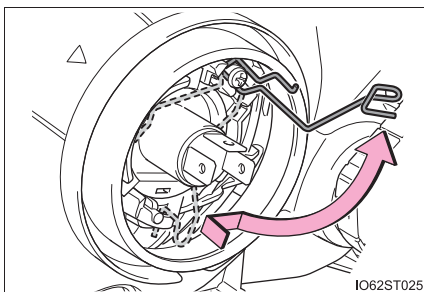
- ① 番号灯
- ② 後退灯
- ③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

電球交換のしかた**■ ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）**

- 1** ボンネットを開けて、コネクターとゴムカバーを取りはずす

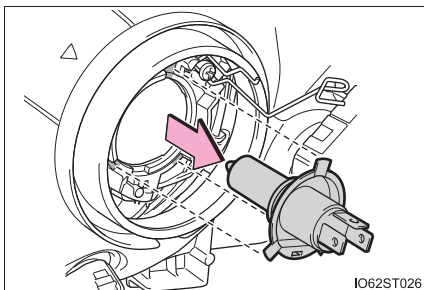


- 2** 止め金を取りはずす



- 3** 電球を取りはずす

新しい電球を取り付けるときは、電球と取り付け穴の切り欠きを合わせてください。

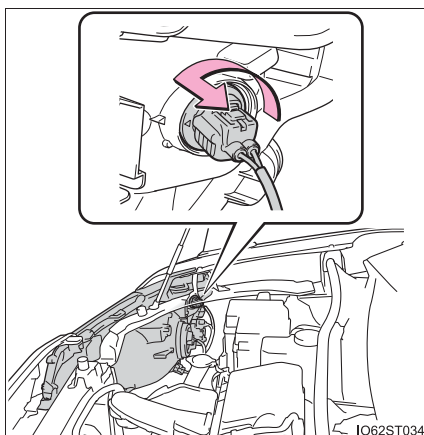


- 4** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

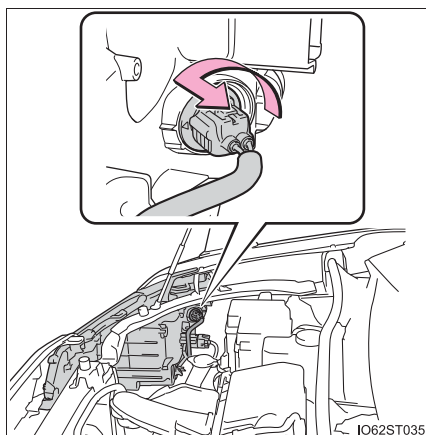
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

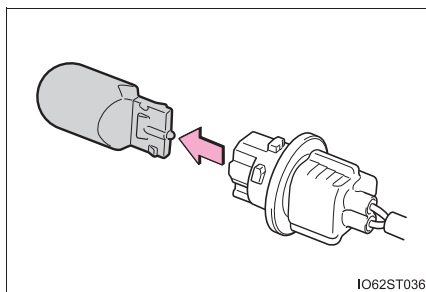
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車

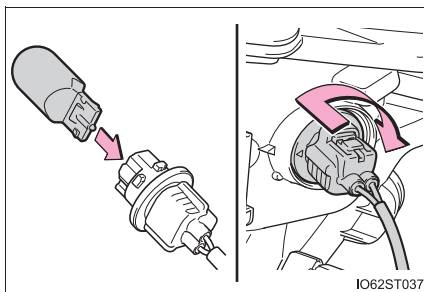


2 電球を取りはずす

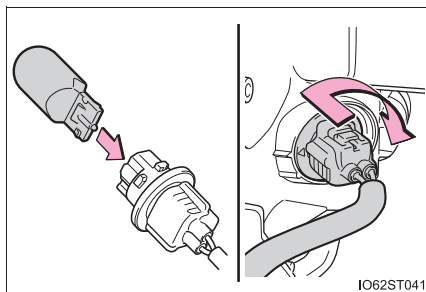


3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

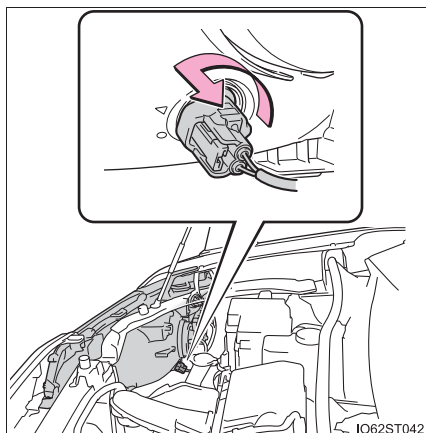


▶ LED ヘッドランプ装着車

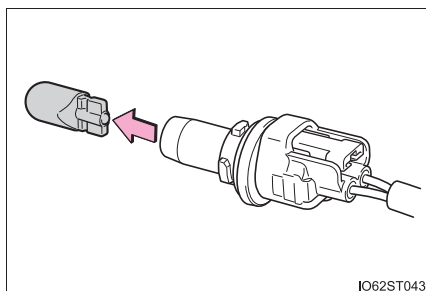


■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

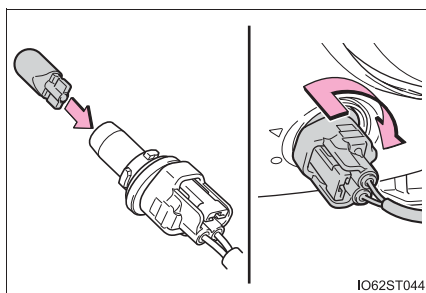
- 1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす

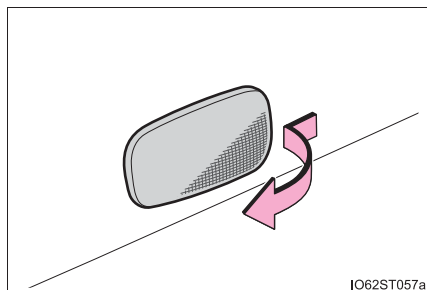


- 3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

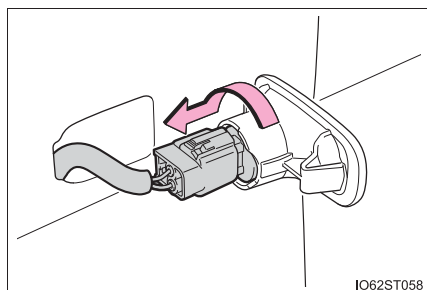


■ サイド方向指示灯

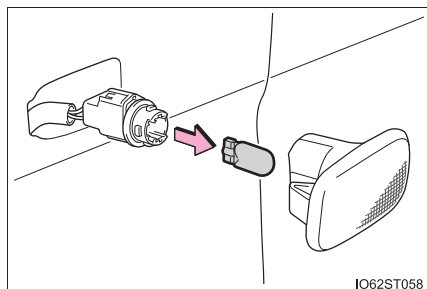
1 ランプを取りはずす



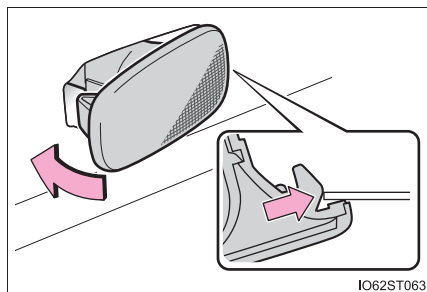
2 ソケットをまわして取りはずす



3 電球を取りはずす

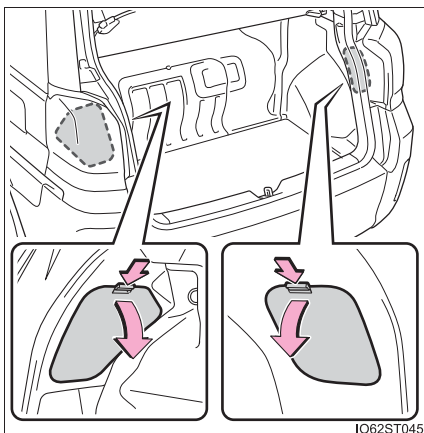


4 ランプを車両後方側からはめ込んで取り付ける



■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯／後退灯

- 1 バックドアを開けて、カバーを取りはずす

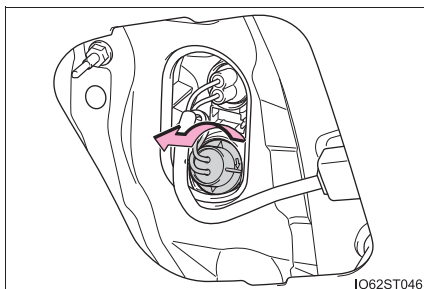


IO62ST045

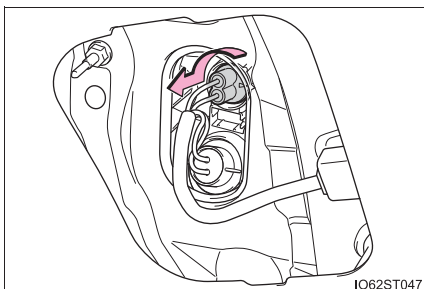
- 2 ソケットをまわして取りはずす

▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

▶ 後退灯



IO62ST046

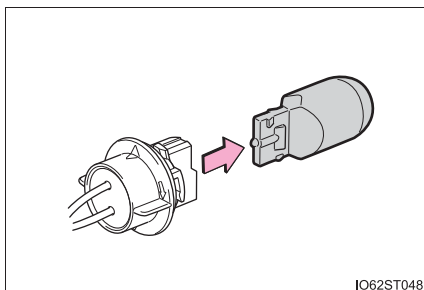


IO62ST047

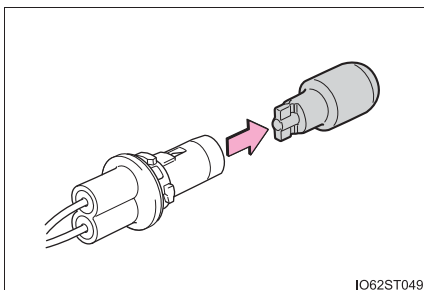
- 3 電球を取りはずす

▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

▶ 後退灯



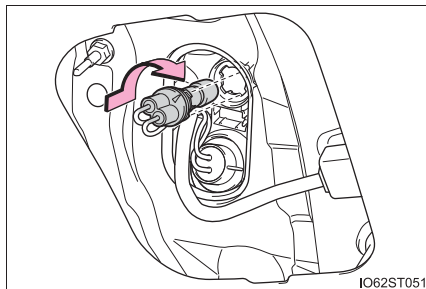
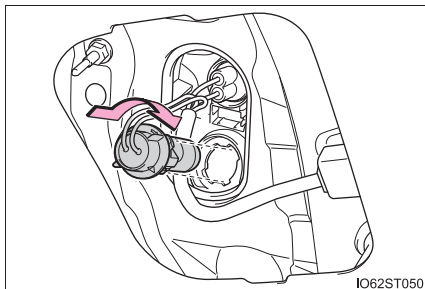
IO62ST048



IO62ST049

4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

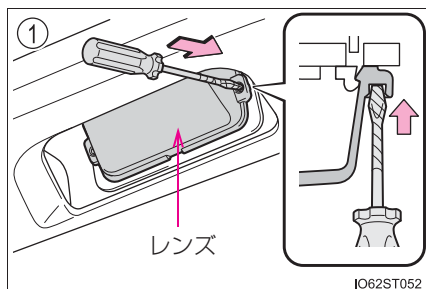
- ▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯 ▶ 後退灯

**5** カバーを取り付ける

■ 番号灯

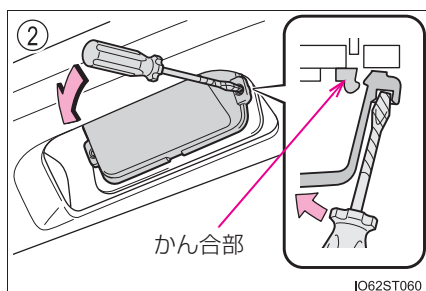
1 レンズを取りはずす

- ① 小さいマイナスドライバーなどを左右どちらかのレンズの穴に挿し込む

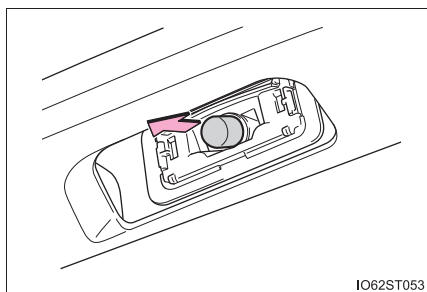


- ② 小さいマイナスドライバーなどを図の矢印の方向に傾け、レンズのかん合をはずしてレンズを取りはずす

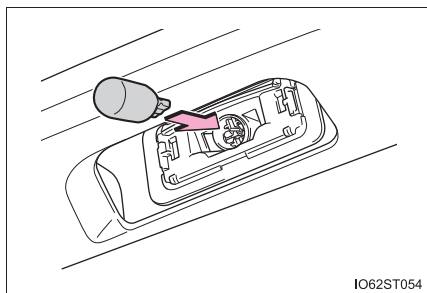
傷が付くのを防ぐために、小さいマイナスドライバーなどの先端に、テープなどを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



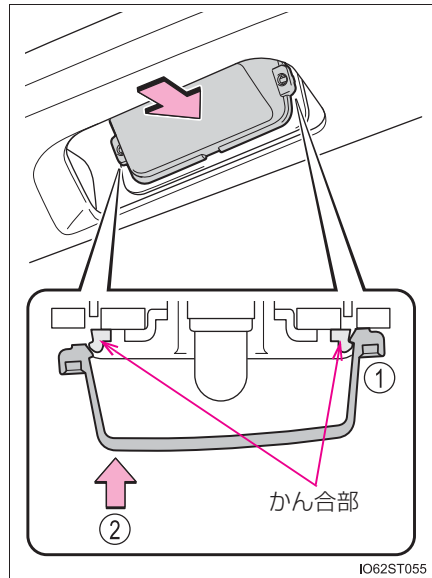
3 新しい電球を取り付ける



4 レンズを取り付ける

- ① レンズを左右どちらかのかん合に引っかける
- ② レンズを押し込む

レンズを取り付けたあとは、レンズ本体を軽く引っ張って、正しく取り付けられていることを確認してください。



IO62ST055

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- LED ヘッドランプ (LED ヘッドランプ装着車)
- 車幅灯／LED デイライト (LED ヘッドランプ装着車)
- 制動灯／尾灯
- 尾灯 (LED ヘッドランプ装着車)
- ハイマウントストップランプ

 知識

■ LED ランプについて

LED ヘッドランプ★・車幅灯★・制動灯／尾灯・尾灯・ハイマウントストップランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 330

 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	344
非常点滅灯 (ハザードランプ)	345
発炎筒	346
車両を緊急停止するには	348
水没・冠水したときは	349

7-2. 緊急時の対処法

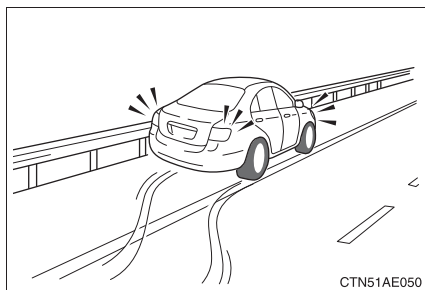
けん引について	351
警告灯がついたときは	357
警告メッセージが 表示されたときは	363
パンクしたときは (タイヤパンク応急 修理キット装着車)	369
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	381
LPG ハイブリッドシステムが 始動できないときは	393
補機バッテリーが あがったときは	394
オーバーヒートしたときは ...	401
スタックしたときは	406

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

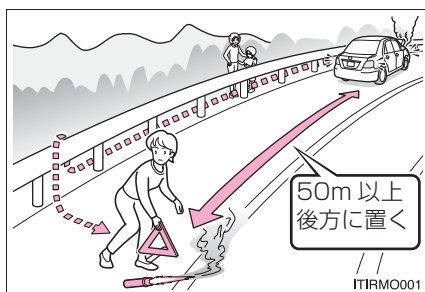
非常点滅灯（→ P. 345）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

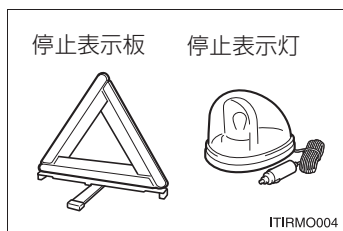
- 同乗者を避難させる
- 車両の50m 以上後方に発炎筒（→ P. 346）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

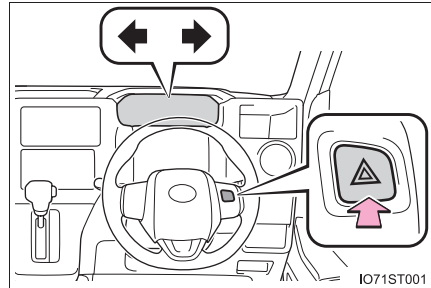


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

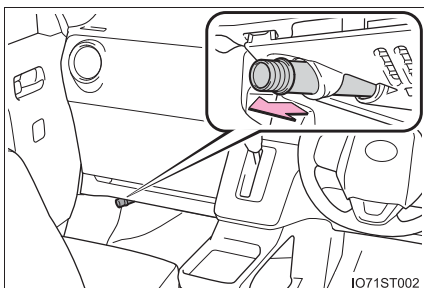
■ 非常点滅灯について

LPG ハイブリッドシステムが停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

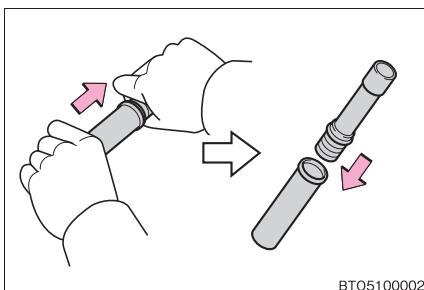
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

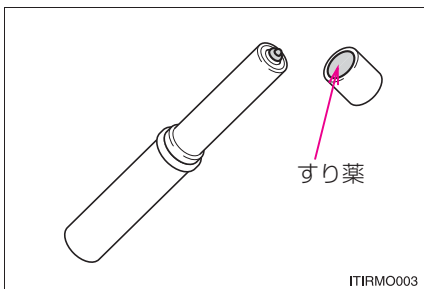


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

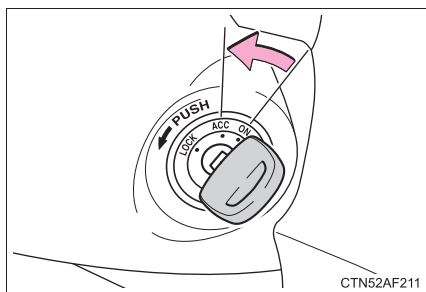
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 LPG ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを“ACC”にして、LPG ハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ず LPG ハイブリッドシステムを停止するとき

- ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。LPG ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウィンドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されています。

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

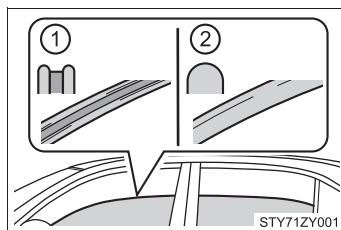
※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。

- ① 合わせガラス
- ② 強化ガラス



⚠ 警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

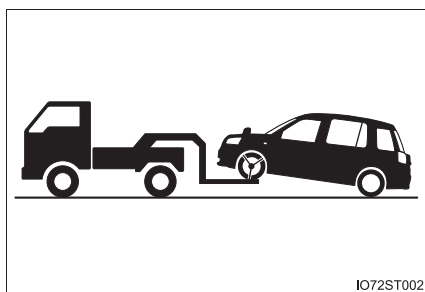
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- LPG ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

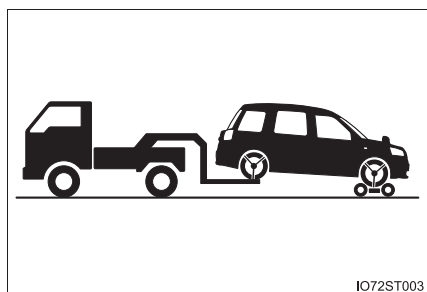
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

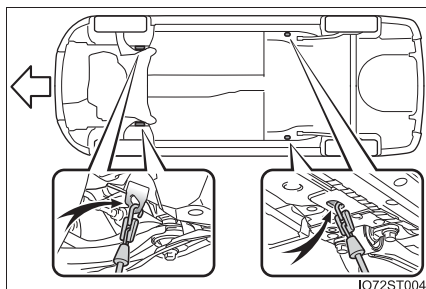
▶ うしろ向きにけん引するときは



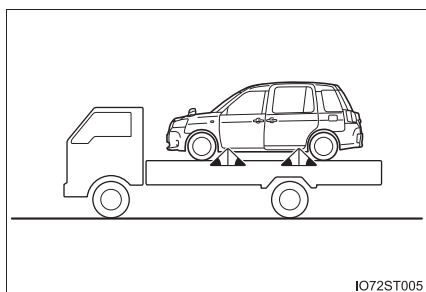
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する



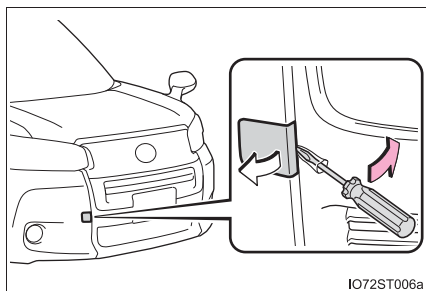
他車にけん引してもらおうとき

他車にけん引してもらおうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

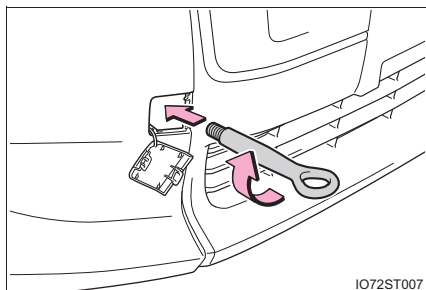
- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す
(→ P. 370, 382)

- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

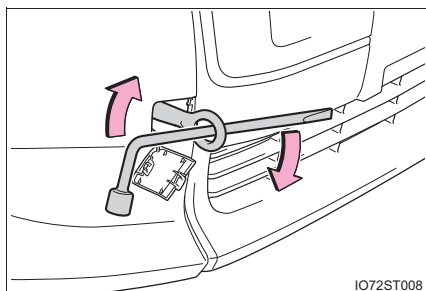
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



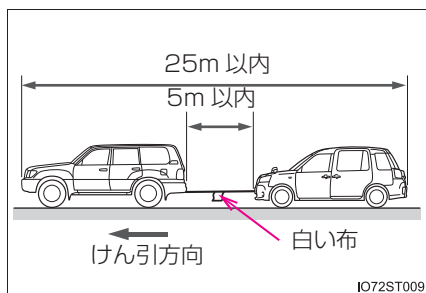
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm×30 cm) 以上

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、LPG ハイブリッドシステムを始動する

LPG ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを“ON”にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 179

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

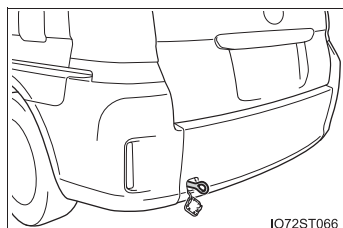
LPG ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。(→ P. 370, 382)

■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



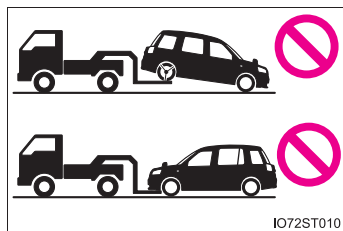
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

**■他車にけん引してもらうときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを“LOCK” にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

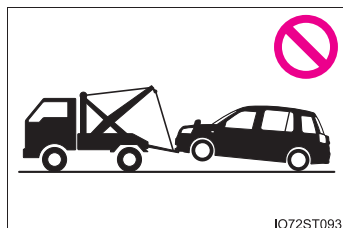
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯 (警告ブザー ※1, 2) ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 ※3 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。
	油圧警告灯 ※3, 4 エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯 ・ LPG ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	電子制御ブレーキ警告灯 (警告ブザー) ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC・ABS システムの作動時は点滅します。 （→ P. 248） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※5） 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	リヤ席シートベルト非着用警告灯★ ※6（警告ブザー ※7） リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	燃料残量警告灯 燃料の残量が 16% 以下になった → 燃料を補給する
	LPG 表示灯 LPG ハイブリッドシステム始動時にパワースイッチを“ON”にして点滅した場合： ・ 気温が高い ・ 登坂走行などの高負荷走行後 → 始動性を確保する制御が作動中のため、消灯するまで待つ ※8 走行中に点滅した場合 ※9： LPG タンク内の温度が高くなっている → 自動的に LPG 燃料冷却システム（→ P. 267）が作動するため、対処は不要です。 ※10
	ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー） ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色 / 黄色)	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	高水温警告灯 (警告ブザー) ※3 エンジン冷却水温の高温異常 → ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危険です。対処方法 (→ P. 401)
	マスターウォーニング システムの異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 363
	ペダル誤操作警告灯 (警告ブザー) ※3 ブザーが鳴った場合 : ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ ドライブスタートコントロールの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ・ アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 → ただちにアクセルペダルを離してください。 ・ パーキングサポートブレーキ★作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合 : アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	PCS（プリクラッシュセーフティ）警告灯 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → 要因と対処方法（→ P. 208, 363） プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P. 220
 (点滅)	パーキングサポートブレーキ OFF 表示灯★（警告ブザー） パーキングサポートブレーキの異常 → トヨタ販売店で点検を受けてください。 システムの異常時以外にも、表示灯が次のように作動します。 ・パーキングサポートブレーキを OFF にすると点灯します。（→ P. 239） ・システムの作動中に点灯します。（→ P. 243） ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。（→ P. 244）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※¹ ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。
- ※² パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」と表示されます。
- ※³ マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。
- ※⁴ 油圧警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※⁵ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。
- ※⁶ オーバーヘッドコンソールに表示されます。
- ※⁷ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー★：
リヤ席★シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯★が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。
- ※⁸ プロパン率の高い燃料を使った場合は、LPG 表示灯の点滅の頻度が高くなる場合がありますが、異常ではありません。
- ※⁹ 通常は表示灯が点滅することはありませんが、万一点滅した場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ※¹⁰ LPG 燃料冷却システムの作動と同時にエアコンが作動します。車室温度が低下した場合は、温度を調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。

ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

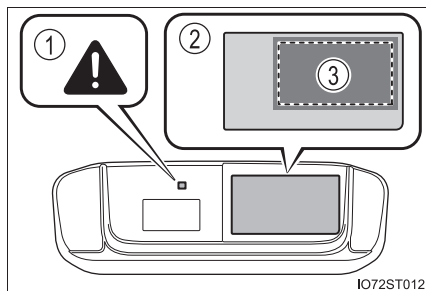
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、警告ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対処してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- 「ABS 故障 販売店で点検してください」が表示されている：
ABS& ブレーキアシスト警告灯が点灯します。(→ P. 358)
- 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されている：
充電警告灯が点灯します。(→ P. 357)
- 「EV モードが解除されました」が表示されている：
EV ドライブモード表示灯が点灯します。(→ P. 74)
- 「燃料が少なくなりました」が表示されている：
燃料残量警告灯が点灯します。(→ P. 358)

■ 「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 401

■ 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されたときは

- 数秒後※に表示が消えたときは
約 15 分以上、LPG ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
- 表示が消えないときは
「補機バッテリーがあがったときは」(→ P. 394) の手順で LPG ハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

- 「**駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください**」が表示されたとき
シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。
シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。
- 「**駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください**」が表示されたとき
一定期間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。
車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、LPG ハイブリッドシステムを再起動してください。
- 「**始動時は P レンジに入れてください**」が表示されたとき
シフトレバーが P 以外の状態で LPG ハイブリッドシステムを始動しようとしたときにメッセージが表示されます。
シフトレバーを P にしてから LPG ハイブリッドシステムを始動してください。
- 「**駐車時は P レンジに入れてください**」が表示されたとき
シフトレバーが P 以外でパワースイッチを“LOCK”にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。
駐車時は P にしてください。
- 「**N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください**」が表示されたとき
シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。
アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D・B または R にしてください。
- 「**停車時はブレーキを踏んでください**」が表示されたとき
上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示されることがあります。
そのままの状態を続けると LPG ハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。
アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
- 「**充電システム故障**」が表示されたとき
充電システムが故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」(→ P. 401)
 - ・「補機バッテリー(始動用)充電不足 取扱書を確認してください」(→ P. 394)
 - ・「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」(→ P. 321)
- 「ハイブリッドシステム故障 安全な場所に停車して取扱書を確認」が表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 - ・「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」
 - ・「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」

■「バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました」が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回 LPG ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電してください。

■LDA の車線逸脱警報について

次のような場合は、車線を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 作動条件以外の車速で走行しているとき
- 走行中の白(黄)線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。(→ P. 225)

■「前方カメラシステム一時使用不可 少々お待ちください」または「前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法→ P. 208, 357)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート)
- オートマチックハイビーム
- 先行車発進告知機能

- 「ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります」が表示されたとき
ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。
- 「LPG 充填口開検知 安全な場所に停車して閉じてください」が表示されたとき
READY インジケーターが点灯しているときに燃料補給口のフタが開いているとメッセージが表示されます。走行中の場合は安全な場所に停車して、燃料補給口のフタを閉めてください。また、LPG ハイブリッドシステムを始動する場合は燃料補給口のフタを閉めてください。
- シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは
誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。
- 「販売店で点検してください」が表示されたときは
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。
すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 警告ブザーについて
→ P. 362

注意

- 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認してください」がひんばんに表示されるときは
補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておく、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

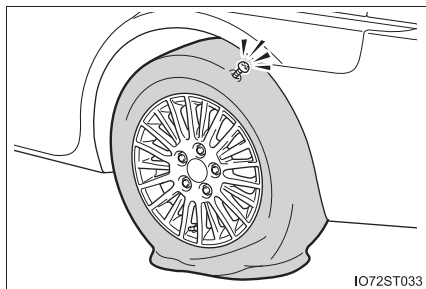
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。



- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所がなるべく上になるように車両を移動してください。

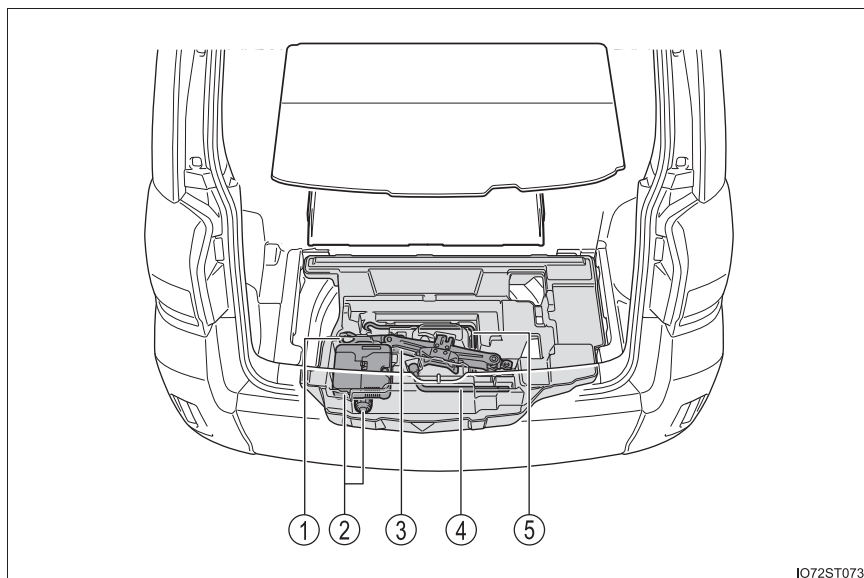
 知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

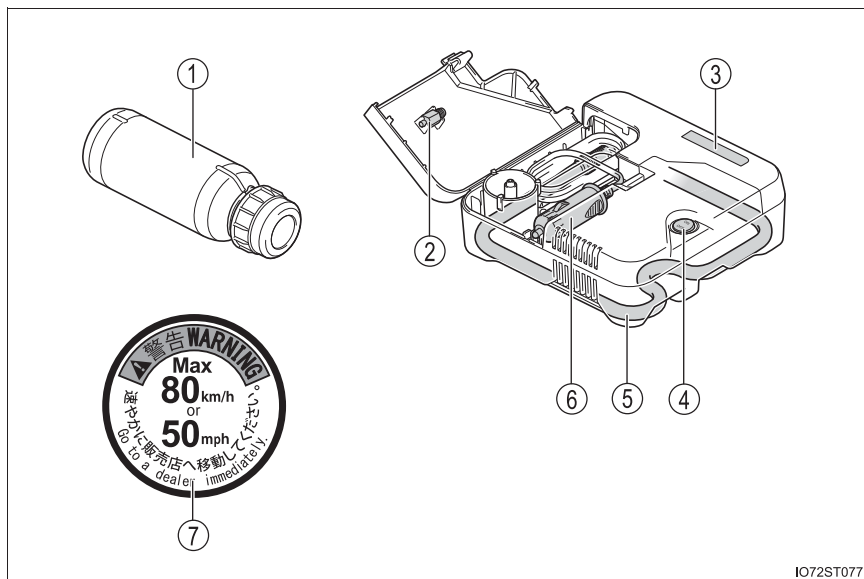
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



- | | |
|-----------------|--------------|
| ① けん引フック | ④ ホイールナットレンチ |
| ② タイヤパンク応急修理キット | ⑤ ジャッキハンドル |
| ③ ジャッキ | |

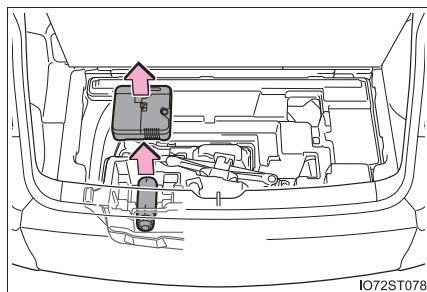
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



- | | |
|--------------|-----------|
| ① ボトル | ⑤ ホース |
| ② 空気圧逃がしキャップ | ⑥ 電源プラグ |
| ③ 空気圧計 | ⑦ 速度制限ラベル |
| ④ スイッチ | |

応急修理キットの取り出し方

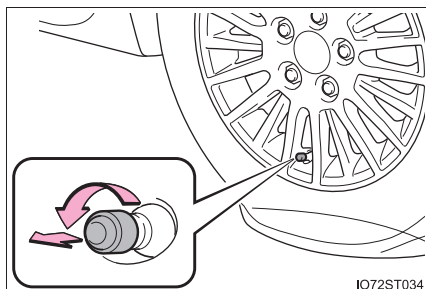
- 1 デッキボードとスロープ No.2 ★を取りはずす (→ P. 123, 277)
- 2 応急修理キットを取り出す



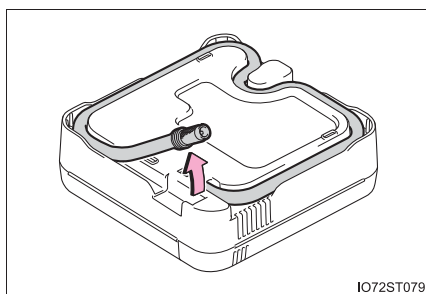
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

応急修理するとき

- 1** パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

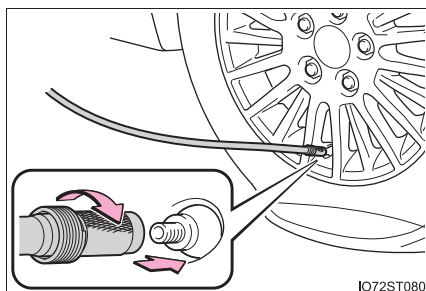


- 2** コンプレッサーの下面よりホースを取り出す

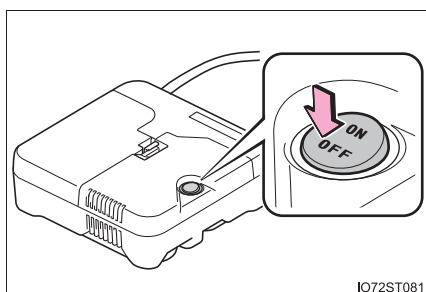


- 3** ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

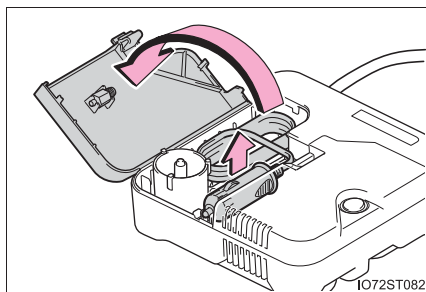
ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。



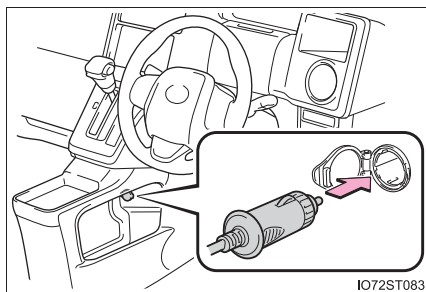
- 4** コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



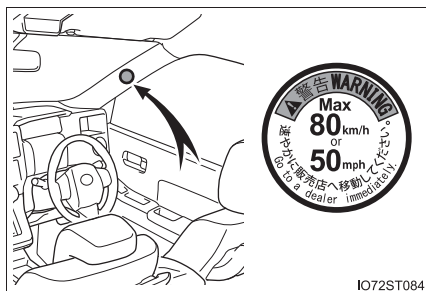
- 5 フタを開けてコンプレッサの電源プラグを取り出す



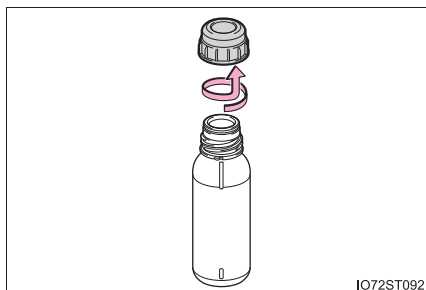
- 6 コンプレッサの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む (→ P. 282)



- 7 付属のラベルを図のように貼り付ける

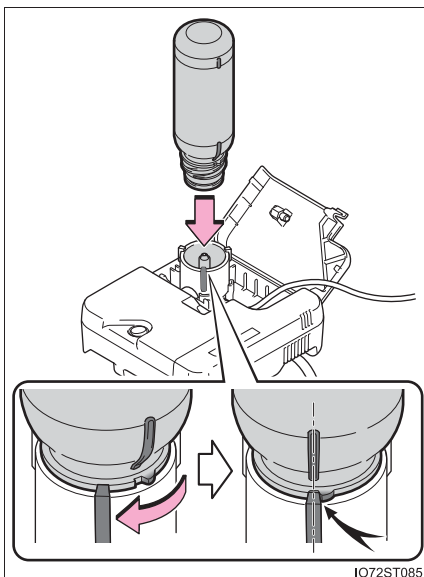


- 8 ボトルのキャップを外す

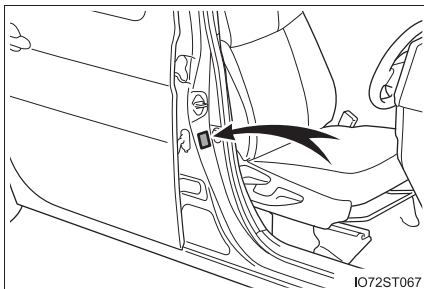


- 9** ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入し、ボトルを時計まわりに回してストッパーに止まるまでねじ込んでください。

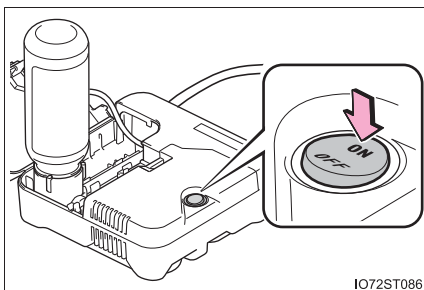


- 10** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 314)



- 11** LPG ハイブリッドシステムを始動する

- 12** コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



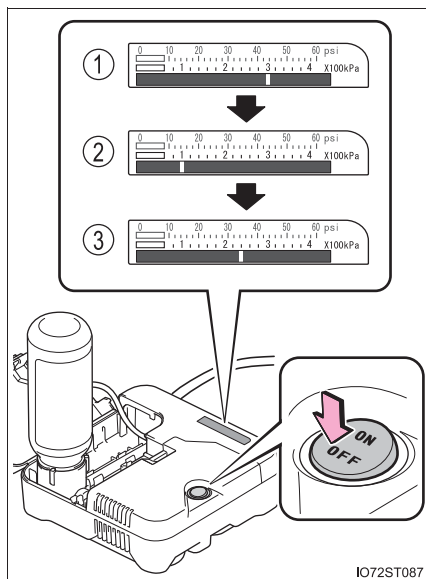
13 空気が指定空気圧になるまで充填する

- ① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する
- ② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→ P. 377)



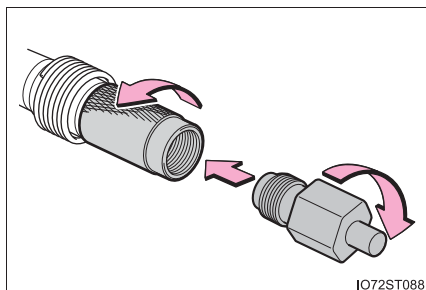
IO72ST087

14 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜き、バルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける**16** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

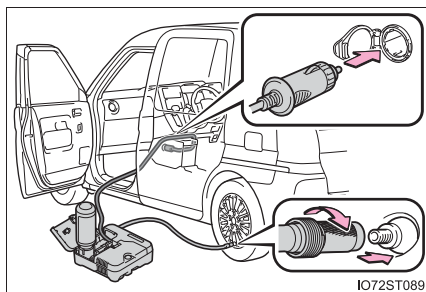
空気逃がしキャップを取り付けしないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



IO72ST088

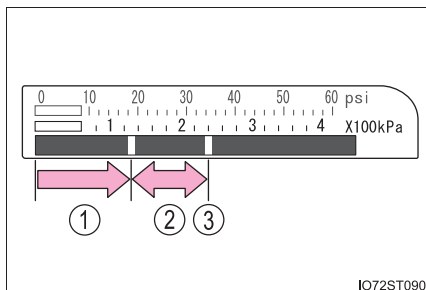
17 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する**18** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

- 19** 走行後、ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



- 20** コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にして空気圧を確認する

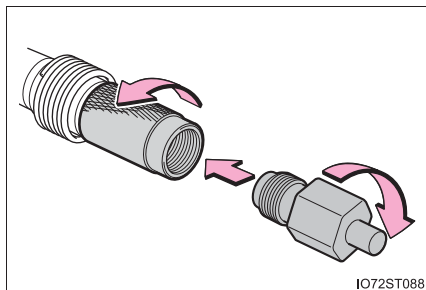
- ① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。
トヨタ販売店にご連絡ください。
- ② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：手順**21**へ
- ③ 空気圧が指定空気圧(→P. 413)の場合：手順**22**へ



- 21** コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順**19**から実施する

- 22** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



- 23** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

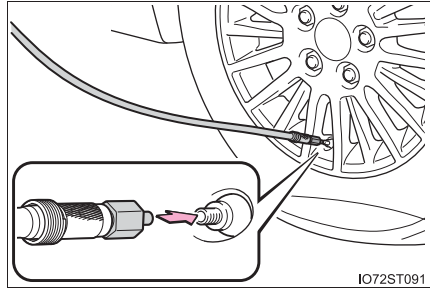
- 24** 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行く

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

 知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。
有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

 警告**■パンクしたタイヤを応急修理するとき**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、コンプレッサーの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。
- コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- コンプレッサーの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットを上下逆さまにして使用しないでください。故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 313 を参照してください）

警告

■ タイヤがパンクしたときは

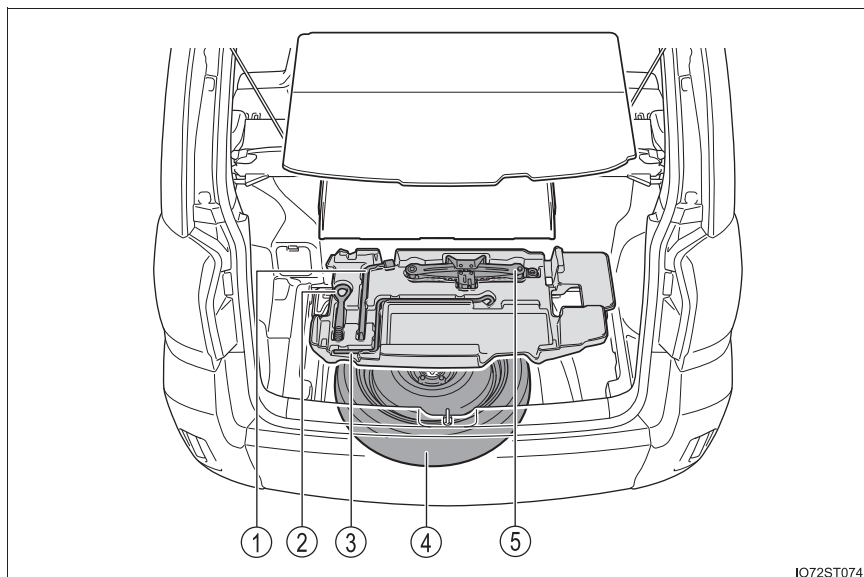
パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 345）

工具の位置



IO72ST074

① ホイールナットレンチ

④ 応急用タイヤ

② けん引フック

⑤ ジャッキ

③ ジャッキハンドル

 警告**■ ジャッキの使用について**

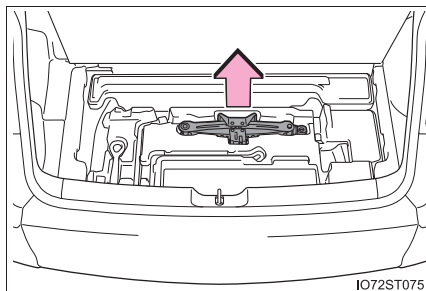
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、LPG ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

- 1 デッキボードとスロープ No.2 ★を取りはずす (→ P. 123, 277)
- 2 ジャッキを取り出す

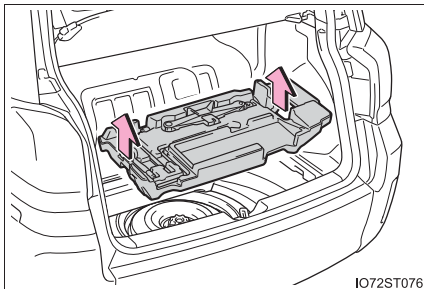


IO72ST075

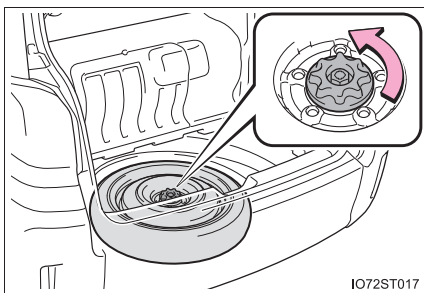
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

応急用タイヤの取り出し方

- 1 デッキボードとスロープ No.2 ★を取りはずす (→ P. 123, 277)
- 2 デッキアンダートレイを取りはずす



- 3 留め具を取りはずし、応急用タイヤを取り出す



警告

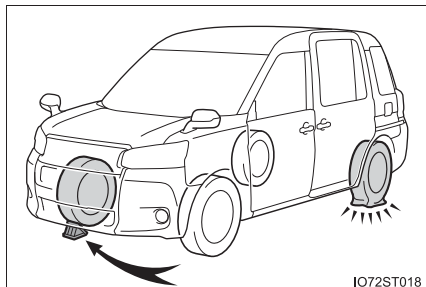
■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

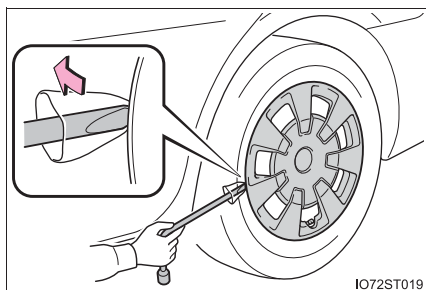


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

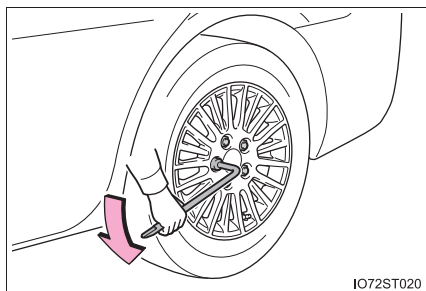
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 スチールホイール装着車：ホイールキャップを取りはずす

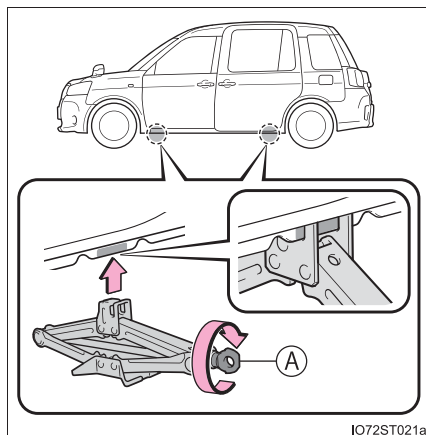
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いて保護してください。



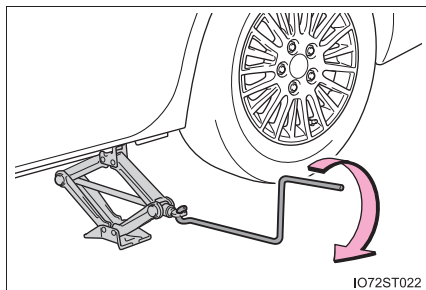
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



- 4 ジャッキの(A)部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

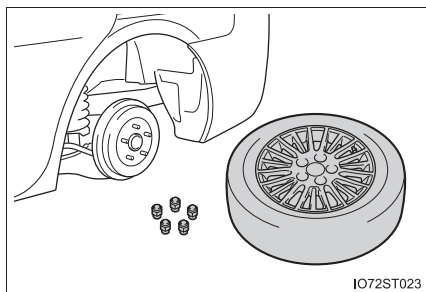


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



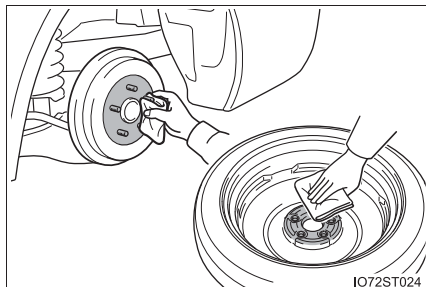
 警告**■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

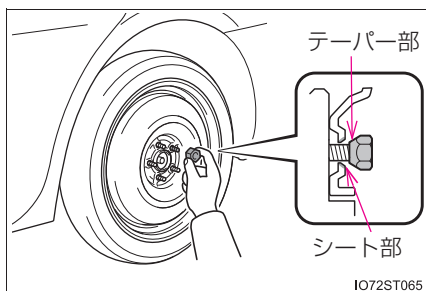
- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

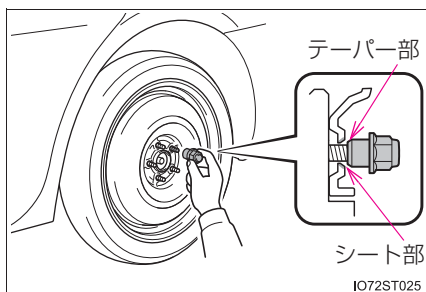


- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

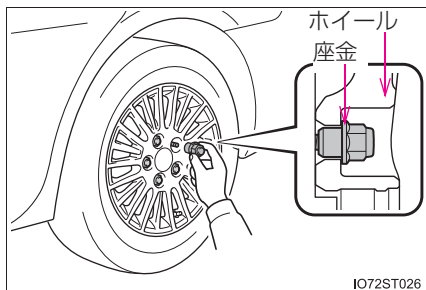
スチールホイールからスチールホイールまたは応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

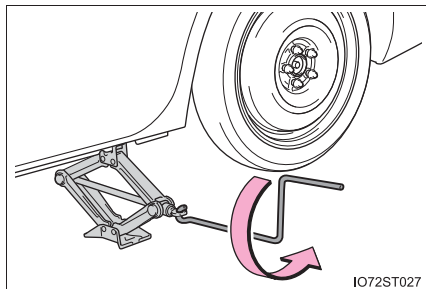


アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



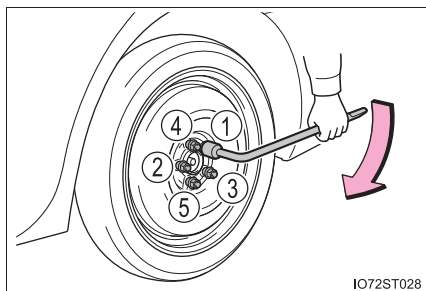
アルミホイールからアルミホイールにかえるときは、ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。



3 車体を下げる**4** 図の番号順でナットを 2、3 度
しっかり締め付ける

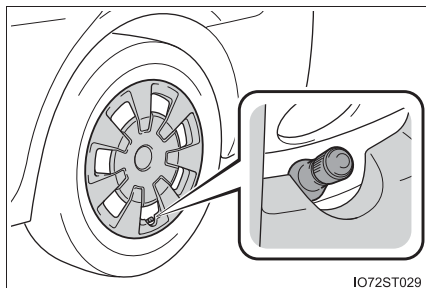
締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)

**5** スチールホイール装着車：車両に
装着されていたホイールにもど
したときは、ホイールキャップを
取り付ける※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを
合わせてホイールキャップを確実に
取り付けます。

※ 応急用タイヤに取り付けることは
できません。

**6** すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 413)

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

- 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

 警告

■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度(トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン)をこえて使用しないでください。

 警告**■ 応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| ・ ABS | ・ PCS（プリクラッシュセーフティ） |
| ・ ブレーキアシスト | ・ LDA（レーンディパーチャーアラート） |
| ・ VSC | ・ クリアランスソナー★ |
| ・ TRC | ・ パーキングサポートブレーキ★ |
| ・ EPS | |
| ・ オートマチックハイビーム | |

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあります。

 注意**■ 応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LPG ハイブリッドシステムが始動できないときは

LPG ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことを確認いただき、適切に対処してください。

正しいLPG ハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 170）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
燃料補給してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 69）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 394）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 309）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーン鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 394）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 309）

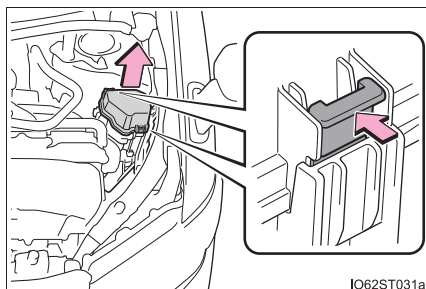
対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもLPG ハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

補機バッテリーがあがったときは

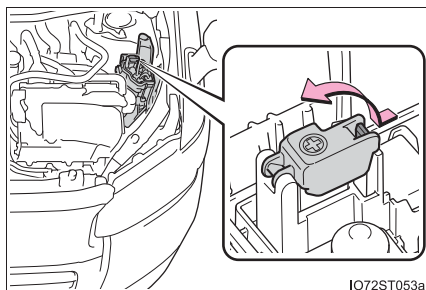
補機バッテリーがあがった場合、次の手順で LPG ハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、LPG ハイブリッドシステムを始動させることができます。

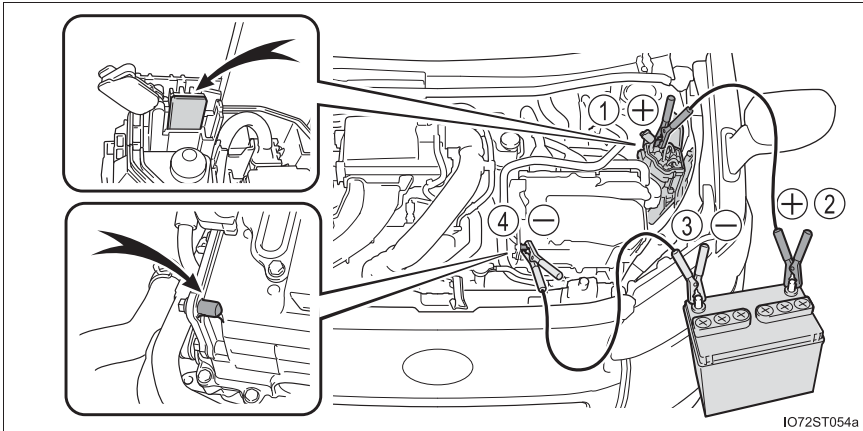
- 1 ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす
→ P. 328



- 2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける



3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



- ① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、救援用端子から離れた、未塗装の金属部につなぐ
- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん“ON”にしてから LPG ハイブリッドシステムを始動する
- 6 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
- 7 LPG ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 8 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスカバーをもとどおりに取り付ける

LPG ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■補機バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- LPG ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコン等の電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→ P. 420)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→ P. 309

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがって LPG ハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーは LPG ハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

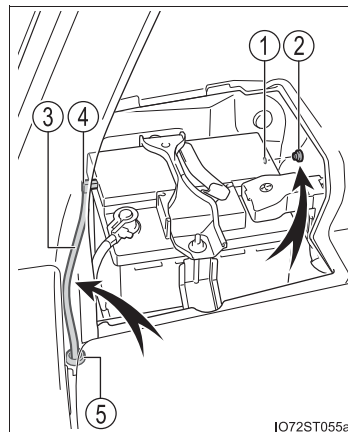
■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
 - 交換前と同一のケースサイズ (LN1)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (45Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (285A) 以上の補機バッテリーを使用してください。ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、LPG ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
 - 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
 - ハンドル（取っ手）の付いているバッテリーを使用してください。
ハンドル（取っ手）が付いていないバッテリーを使用すると、バッテリーを取り出しにくくなります。
 - 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください
 - ・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ エルボが排気ホースと補機バッテリー排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ 排気穴栓がエルボが接続しない側の排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ エルボ / 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ① 排気穴
- ② 排気穴栓
- ③ 排気ホース
- ④ 排気穴
- ⑤ 車両穴部



1072ST055a

 警告**■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、補機バッテリー液（硫酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤って補機バッテリー液（硫酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤って補機バッテリー液（硫酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

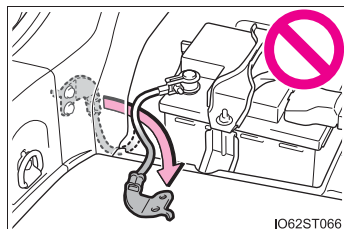
■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

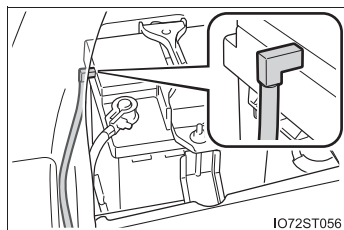
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

⚠ 警告**■ 補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 補機バッテリーの交換について**

- 液栓やインジケーターがスターに近いと、補機バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 補機バッテリー交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースとつながったエルボと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

**■ 補機バッテリーの－端子について**

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 補機バッテリーを交換するときは**

液栓やインジケーターがステアと近いと、バッテリー液がもれだすおそれがあります。

■ ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■ 救援用端子について

救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたり、LPG ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム 高温 出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたとき

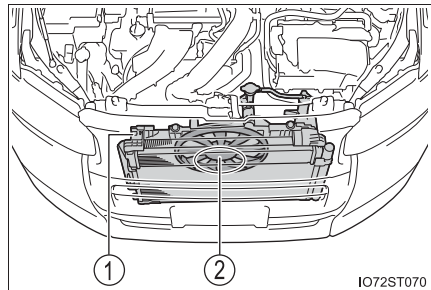
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 LPG ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

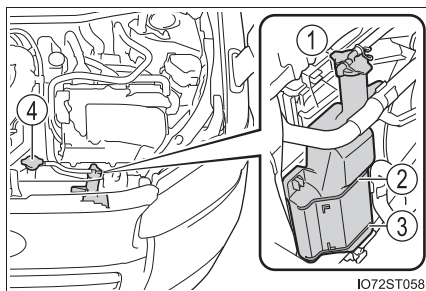
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



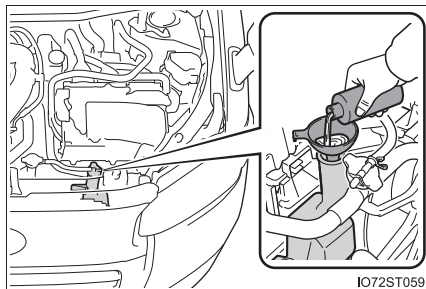
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



- 6 LPG ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

LPG ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐに LPG ハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

- 8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」表示を確認する

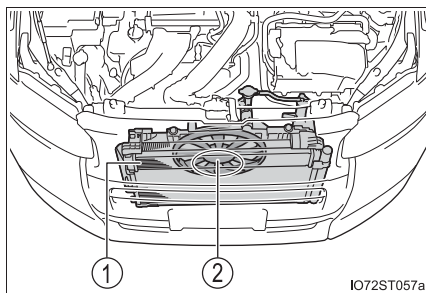
表示が消えていない場合：
LPG ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 LPG ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

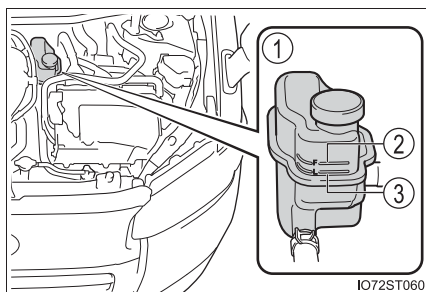
- 3 LPG ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する



- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

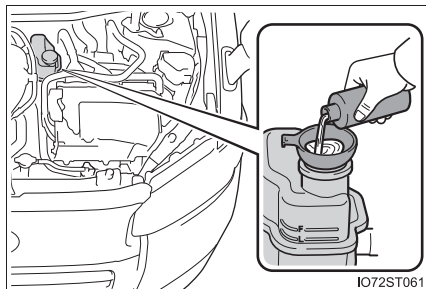
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する



- ① リザーバータンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 412）

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



- 6 LPG ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、LPG ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

LPG ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：

LPG ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- LPGハイブリッドシステムの停止後は、READYインジケーターが消灯していることを確認してください。LPG ハイブリッドシステムが作動していると、LPG エンジンが自動的に動き出したり、LPG エンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- LPG ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 注意**■ 冷却水を入れるときの注意**

LPG ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
LPG ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、LPG ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

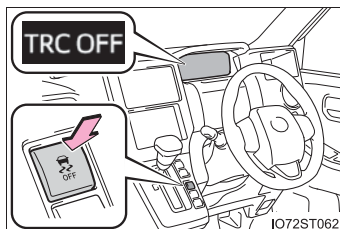
- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてLPG ハイブリッドシステムを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 LPG ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■ 脱出しにくいとき



を押してTRCをOFFにしてください



警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・オイル量
など)410

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....415

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目420

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
LP オートガス ※ ¹	52※ ²

※¹ プロパン率（燃料のプロパン割合）100%のオートガスも使用できます。

※² 保安基準により、タンク容量の80%が最大補給（充てん）量となります。

エンジンオイル

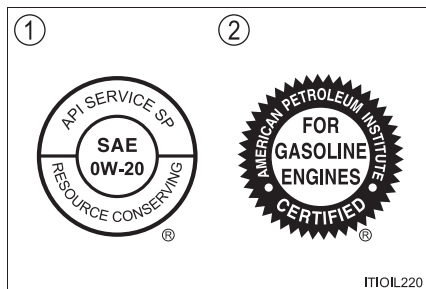
指定銘柄	容量 [L] （参考値 ※）	
	オイル のみ交換	オイルと オイル フィルター 交換
推奨： トヨタ純正 モーターオイルSP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正 モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30 トヨタ純正 モーターオイル SP 10W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 10W-30	3.4	3.7

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、LPG エンジンの暖機後に LPG ハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

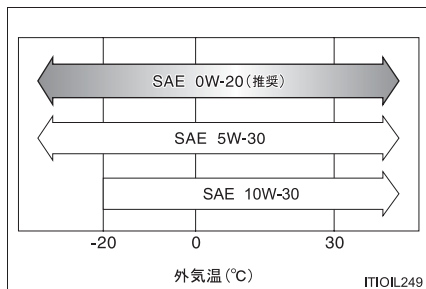
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30、10W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフ クーラント 凍結保証温度 濃度 50% - 35°C	LPG エンジン	5.7
	インバーター	1.5

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード WS	3.4

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード BF-5

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	104 以上

※ LPG ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N (30.6kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（30.6kgf）のときのノッチ※数	6～9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”）という音のことです

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.3

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準 タイヤ	185/65R15 88S	15 × 5 1/2J	200 (2.0)	
	185/60R15 84H		240 (2.4)	
応急用 タイヤ★	T125/70D16 96M	16 × 4T	420 (4.2)	

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車） （バルブタイプ：H4）	60 / 55
	車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5

※ 表に記載の無いランプはLEDを採用しています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
JPN TAXI	NTP10	1NZ-FXP (1.5L LPG)	2LM	FF (前輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更できる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの〈または〉を押して  を選択する
- 2  または  を押して変更する項目を選択し、 スイッチを押す
- 3  または  を押して設定したい項目を選択し、 スイッチを押す
設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
 ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 76, 79)

機能の内容		初期設定	変更後	①	②
夜間調光		レベル 4	レベル 1 ~ 6	○	—
EV インジケーター		ON	OFF	○	—
ドライブインフォメーション		平均燃費	走行時間	○	—
		平均車速			
エコウォレット	燃料価格	70	※	○	—
	比較燃費	6	※	○	—
日時	日付	2000.01.01	※	○	—
	時計	AM 1 : 00	※	○	—
	メンテナンス	—	※	○	—
操作ガイド表示		ON	OFF	○	—
走行結果表示		ON	OFF	○	—
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節		0	- 2 ~ + 2	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節		0	- 2 ~ + 2	—	○

※ メーター操作スイッチで日付・時間の変更とメンテナンス日の設定ができます

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 92)

機能の内容		初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能		あり	なし	—	○
作動の合図 (非常点滅灯)		あり	なし	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間		30 秒	60 秒	—	○
			120 秒		

■ パワースライドドア (→ P. 98)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動を開始するときのパワースライドドアスイッチ操作	短押し	長押し	—	○
作動開始後のパワースライドドアスイッチ操作	スイッチを操作しているあいだ開閉する	スイッチを操作すると自動で開閉する	—	○
閉作動中のブザー	あり	なし	—	○

■ ランプ (→ P. 183)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LED デイライト	あり	なし	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム★ (→ P. 183)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度	0	レベル -2 ~ +2	—	○
消し忘れ防止機能	フロントドア、スライドドアまたはリヤドアを開けたとき消灯	エンジンスイッチをOFFにしたとき消灯	—	○

■ イルミネーション (→ P. 271)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	—	○
		30 秒	—	○
解錠後の作動	あり	なし	—	○
パワースイッチ “LOCK” 後の作動	あり	なし	—	○
足元照明の点灯	あり	なし	—	○
足元照明の調光制御	あり	なし	—	○
室内照明の点灯制御	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→ P. 221）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
警報感度	高い	普通	○	—

■ 先行車発進告知機能（→ P. 227）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
告知設定	ON	OFF	○	—
告知タイミング	普通	早い	○	—
		遅い		

■ クリアランスソナー（→ P. 229）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	○	—
		レベル 3		
フロントセンサーの感知可能距離	遠い	近い	—	○
バックセンサーの感知可能距離	遠い	近い	—	○

■ パーキングサポートブレーキ（→ P. 239）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
パーキングサポートブレーキ機能	ON	OFF	○	—

■ オートエアコン（→ P. 260）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○

 知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」の設定に依存します。

 警告

■ カスタマイズを行うとき

LPG ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に LPG ハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時	P. 102

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）.....	422
車から音が鳴ったときは （音さくいん）	425
アルファベット順さくいん.....	426
五十音順さくいん	427

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーを作ることができます。（→ P. 92）
- キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。



解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 325）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 96）



右側リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください（→ P. 95）



スライドドアが全開にならない

- ストッパーがかかっていますか？
燃料補給口のフタが開いていると、スライドドアはわずかにしか開きません（ストッパー位置で停止します）。燃料補給口のフタを閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 100）

故障かな？と思ったら**LPG ハイブリッドシステムが始動しない**

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 178）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 174）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 394）

**ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない**

- パワースイッチの位置が “ON” になっていますか？
パワースイッチの位置が “ON” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 179）

**LPG ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、キーをパワースイッチから抜くとロックされます（→ P. 171）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 154）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 425）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 357, 363 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車：車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 369）
- 応急用タイヤ装着車：車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 381）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 406）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	パワースイッチにキーが挿してある	P. 174
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 186

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 96
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 361
	運転席・助手席・リヤ席★のシートベルトを着用していない※	P. 361
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 163
前方の車両と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 209
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 221
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 227

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C	
(エアコン)	260
ABS	
(アンチロックブレーキシステム)	247
ACC	
(アクセサリ)	171
AHB	
(オートマチックハイビーム)	188
ECB	
(エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム)	247
EDR	
(イベントデータレコーダー)	8
EPS	
(エレクトリックパワーステアリング)	247
FF	
(フロントエンジンフロントドライブ)	414
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション)	411
ISOFIX	
(アイソフィックス／イソフィックス)	53, 56
LDA	
(レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報)	221
LED	
(ライトエミッティングダイオード)	342
PCS	
(プリクラッシュセーフティ)	209
SRS	
(サブリメンタルレストRAINTシステム)	31
S-VSC	
(ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール)	247
TRC	
(トラクションコントロール)	247
VSC	
(ビークルスタビリティコントロール)	247

五十音順さくいん

あ

アースポイント（補機バッテリー あがりの処置）.....	394
アウターミラー.....	152
操作	152
ミラーヒーター	262
アクセサリーコンセント	283
アクセサリーソケット.....	282
アクセサリーモード.....	171
アシストグリップ.....	292
アンチロックブレーキシステム （ABS）.....	247

い

イージークローザー	
スライドドア	100
EV ドライブモード.....	175
イグニッションスイッチ （パワースイッチ）.....	170
位置交換 （タイヤローテーション）.....	313
イベントデータレコーダー （EDR）.....	8
イモビライザーシステム	69
イルミネーテッドエントリー システム	273
インジケーター（表示灯）	
ハイブリッドシステム	
インジケーター	83
表示灯.....	74
READY.....	170
インテリアランプ（室内灯）.....	271
操作	272
ワット数.....	413
インナーミラー.....	151

う

ウインカー（方向指示灯）.....	181
電球（バルブ）	
の交換	335, 337, 338
方向指示レバー.....	181
ワット数.....	413
ウインドウ.....	154
ウォッシャー	193, 195
パワーウインドウ.....	154
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	262
ウインドウロックスイッチ.....	154
ウインドシールド	
デアイサー	262
ウォーニングランプ （警告灯）.....	72, 357
ウォッシャー.....	193, 195
液の補充	312
スイッチ	193, 195
タンク容量	413
冬の前の準備・点検.....	255
動けなくなったときは （スタック）.....	406
うしろ側固定ベルト	137
運転	158
運転を補助する装置.....	247
寒冷時の運転	255
正しい運転姿勢.....	24
手順.....	158
ハイブリッド車運転の アドバイス.....	253

え

エアコン	260
オートエアコン	260
フィルターの清掃・交換	319
「ナノイーX」	266
エアバッグ	31
SRS エアバッグ警告灯	357
作動条件	35
配置	31
エネルギーモニター	82
LDA (レーンディパーチャー アラート)	221
LPG エンジン	
イモバイザーシステム	69
LPG ハイブリッドシステムの 始動方法	170
エンジン警告灯	357
オーバーヒート	401
パワースイッチ	170
ボンネット	308
LPG ハイブリッドシステム	
EV ドライブモード	175
運転のアドバイス	253
オーバーヒート	401
回生ブレーキ	61
ガス欠になったとき	66
緊急時の停止方法	348
緊急停止システム	65
駆動用電池冷却用吸入口	65
警告メッセージ	65
高電圧部位	64
サービスプラグ	67
事故が発生したとき	67
始動できないときは	393
始動方法	170
車両接近通報装置	60

充電	61
注意	64
特徴	59
特有の音と振動	62
パワー (イグニッション) スイッチ	170
補機バッテリーがあがった	394
メンテナンス・ 修理・廃車するとき	62
エレクトリックパワー	
ステアリング (EPS)	247
機能	247
パワーステアリング 警告灯	359
パワーステアリング警告 ブザー	359
エンジン	
イモバイザーシステム	69
LPG ハイブリッドシステムの 始動方法	170
エンジン警告灯	357
オーバーヒート	401
パワースイッチ	170
ボンネット	308
エンジンオイル	410
冬の前の準備・点検	255
メンテナンスデータ	410
油圧警告灯	357
油圧警告ブザー	357
エンジンフード (ボンネット)	308
開け方	308
エンジンルーム	
エンジンルームから 蒸気が出ている	401

お

オイル（エンジンオイル）.....	410
オートエアコン.....	260
オートマチックハイビーム.....	188
オートレベリングシステム （ヘッドランプ）.....	186
オーバーヒート.....	401
オープナー	
燃料補給.....	198
ボンネット.....	308
お子さまを乗せるとき.....	40
ウインドウロックスイッチ....	154
お子さまの安全のために.....	40
子供専用シート.....	41
シートベルトの着用.....	27
チャイルドシートの取り付け... 53	
チャイルドプロテクター.....	95
オドメーター.....	76
機能.....	76
表示切りかえボタン.....	77

か

カーテンシールドエアバッグ.....	31
カーベット	
洗浄.....	303
フロアマットの取り付け方.....	22
外気温度表示.....	76
回生ブレーキ.....	61
外装の電球（バルブ）.....	332
交換要領.....	332
ワット数.....	413
カスタマイズ機能.....	415
型式.....	414
カメラ	
前方カメラ.....	204
単眼カメラ.....	204

ガラスの曇り止め

（リヤウインドウ デフォグガー）.....	262
ガレージジャッキ.....	311
冠水路走行.....	167
寒冷時の運転.....	255

き

キー.....	92
LPG ハイブリッドシステムが 始動できない.....	393
キーナンバープレート.....	92
キーの構成.....	92
キーレスエントリー.....	94
キーをなくした.....	92
電池が切れた.....	325
ワイヤレスリモコン.....	94
キーレスエントリー.....	94
ワイヤレスドアロック.....	94
緊急時シートベルト固定機構.....	27
緊急時の対処	
LPG ハイブリッドシステムが 始動できない.....	393
オーバーヒートした.....	401
キーの電池が切れた.....	325
警告灯がついた.....	357
警告メッセージが 表示された.....	363
けん引.....	351
故障したときは.....	344
車両を緊急停止する.....	348
水没・冠水したときは.....	349
スタックした.....	406
発炎筒.....	346
パンクした.....	369, 381
補機バッテリーがあがった....	394

く

空気圧 (タイヤ)	413
メンテナンスデータ	413
区間距離計	
(トリップメーター)	76
機能	76
表示切りかえボタン	77
曇り取り	
フロントウインドウ	
ガラス	262
ミラーヒーター	262
リヤウインドウ	
デフォグガー	262
クラクション (ホーン)	149
クリアランスソナー	229
警告メッセージ	236
操作	229
クリアランスランプ (車幅灯) ...	183
スイッチ	183
電球 (バルブ) の交換	336
ワット数	413
クリップ	
フロアマット	22
車いす	
車いすのタイヤ空気圧	121
重量	121
乗車可能な車いす	121
車いす用シートベルト	
清掃	303
着用	142
リルーター	146

車いす用ベルト類	137
うしろ側固定ベルト	137
シートベルト延長用ベルト ...	125
清掃	146
前側固定ベルト	137
リルーター	146

け

警音器 (ホーン)	149
計器類 (メーター)	76
警告灯	72
照度調整	77
表示灯	74
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	79
メーター	76
警告灯	72
ABS & ブレーキアシスト	358
SRS エアバッグ /	
プリテンショナー	357
LPG 表示灯	358
エンジン	357
エンジンオイル圧力	357
高水温	359
シートベルト非着用	358
充電	357
スリップ表示灯	358

電子制御ブレーキ	357
燃料残量	358
パーキングサポート	
ブレーキ	360
パワーステアリング	359
PCS	360
プリテンショナー	357
ブレーキ	357
ペダル誤操作	359
マスターウォーニング	359
油圧	357
警告ブザー	
高水温	359
シートベルト非着用	358
パーキングブレーキ	
未解除走行時	361
パワーステアリング	359
半ドア走行時	96
ブレーキ	357
ランプ消し忘れ	186
リバース	179
レーンディパーチャー	
アラート (LDA)	221
化粧ミラー (バニティミラー) ...	281
けん引	351
けん引のしかた	351
フック	353

こ

交換

エアコンフィルター	319
キーの電池	325
タイヤ	381
電球 (バルブ)	332
ヒューズ	328
工具 (ツール)	370, 382
光軸調整ダイヤル	185
航続可能距離	80
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	338
ワット数	413
高電圧部位	64
コーションラベル	64
子供専用シート	41
選択方法	41
取り付け方	53
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	183

さ

サイドエアバッグ	31
サイド方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	337
方向指示レバー	181
サイドミラー	152
操作	152
ミラーヒーター	262
サービスプラグ	67
サンバイザー	281

し

シート	114
子供専用シート	41
正しい運転姿勢	24
調整	114
手入れ	302
フロントシート	114
ヘッドレスト	116
シートバックアシストボード	292
シートヒーター	269
シートベルト	26
お子さまの着用	27
緊急時シートベルト固定機構	27
シートベルト非着用警告灯	358
シートベルトリーチャー	27
正しく着用するには	26
着け方・はずし方	26
手入れ	303
妊娠中の方の着用	29
シートベルト延長用ベルト	125
シートベルトプリテンショナー	27
機能	27
プリテンショナー警告灯	357
事故が発生したとき	
(LPG ハイブリッドシステムの	
注意)	67
室内灯	271
操作	272
ワット数	413

始動のしかた	170
シフトポジション	178
シフトレバー	178
シフトレンジの切りかえ	178
シフトロックシステム	
(解除ボタン)	179
操作	178
リバース警告ブザー	179
シフトレバーがシフト	
できないときは	179
シフトロックシステム	179
締め付けトルク (ホイール)	390
ジャッキ	
ガレージジャッキ	311
車載ジャッキ	382
ジャッキハンドル	370, 382
車幅灯	
スイッチ	183
電球 (バルブ) の交換	336
ワット数	413
車両型式	414
車両仕様 (スペック)	410
車両接近通報装置	60
車両データの記録	7, 204
車両を緊急停止するには	348
瞬間燃費	85
仕様 (車両仕様)	410

す

スイッチ

アウターミラー 152

EV ドライブモード 175

イグニッション 170

ウインドウロック 154

ウインドシールド

 デアイサー 262

ウォッシャー 193, 195

LDA 222

オートマチックハイビーム 188

シートヒーター 269

ステアリングスイッチ 77

ドアロック 95

パワーウインドウ 154

パワースイッチ 170

PCS OFF 213

非常点滅灯

 (ハザードランプ) 345

VSC OFF 249

ランプ 183

リヤウインドウ

 デフォグガー 262

ワイパー 193, 195

スタック 406

ステアリングアシステッド

 ビークルスタビリティ

 コントロール (S-VSC) 247

ステアリングホイール

 (ハンドル) 149

 位置調整 149

 スイッチ 77

ステアリングロック 174

 解除できないとき 174

ストップランプ (制動灯)

 電球 (バルブ) の交換 341

スノータイヤ (冬用タイヤ) 255

スピードメーター 76

スペック (車両仕様) 410

スモールランプ (車幅灯) 183

 スイッチ 183

 電球 (バルブ) の交換 336

 ワット数 413

スライドドア 98

 イージークローザー 100

 ドアガラス 154

 半ドア警告メッセージ 96

 パワースライドドア 99

 ロックレバー 98

スロープユニット 119

 収納 123, 144

 使用前の準備 125

 清掃 146

 セット 130

 耐荷重 121

スロープを使用する前に 125

 車いすのタイヤ空気圧 121

 室内レイアウト 120

 重量 121

 乗車可能な車いす 121

 乗車スペースの確保 127

せ

清掃	298, 302
アルミホイール	299
エアコンフィルター	319
外装	298
車いす用ベルト類	146
シートベルト	303
スロープユニット	146
内装	302
制動灯	
電球（バルブ）の交換	341
積算距離計（オドメーター）	76
機能	76
表示切りかえボタン	77
セキュリティインジケーター	69
センサー	
前方センサー	204
ライトセンサー	186
洗車	298
前照灯（ヘッドランプ）	183
スイッチ	183
電球（バルブ）	
の交換	334, 341
ライトセンサー	186
ランプ消し忘れ警告ブザー	186
ランプ消し忘れ防止機能	186
ワット数	413
先行車発進告知機能	227

そ

速度計（スピードメーター）	76
---------------------	----

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）	181
電球（バルブ）	
の交換	335, 337, 338
方向指示レバー	181
ワット数	413
タイヤ	313
空気圧	317, 413
交換	381
締め付けトルク	390
点検	313
パンクしたときは	369, 381
ホイールサイズ	413
ローテーション	
（位置交換）	313
タイヤが空まわりする	
（スタックした）	406
タイヤチェーン	255

ち

チェーン（タイヤチェーン）	255
チャイルドシート	41
ISOFIX バーでの取り付け	56
シートベルトでの固定	54
選択方法	41
チャイルドプロテクター	95
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）	182
操作	182
パーキングブレーキ未解除	
警告灯	357
未解除走行時警告ブザー	361
メンテナンスデータ	412

つ

ツール（工具）..... 370, 382

て

定期点検整備記録簿..... 306

ディスプレイ

エネルギーモニター 82

トリップインフォメーション... 76

手入れ..... 298, 302

アルミホイール 299

外装 298

シートベルト 303

内装 302

テールランプ（尾灯）..... 183

スイッチ 183

電球（バルブ）の交換..... 341

デッキアンダートレイ 277

デッキフック 280

デッキボード 277

デフォッガー（リヤウインドウ

デフォッガー）..... 262

電気モーター 59

電球（バルブ）

交換要領（外装バルブ）..... 332

ワット数..... 413

点検基準値

（メンテナンスデータ）..... 410

天井サーキュレーター 264

電池交換（キー）..... 325

と

ドア 94

チャイルドプロテクター 95

ドアガラス 154

ドアロックスイッチ 95

半ドア警告メッセージ 96

半ドア走行時警告ブザー 96

ロックレバー 95

ワイヤレスリモコン 94

盗難防止装置

イモビライザーシステム 69

時計 293

トップテザーアンカー..... 57

トノカバー 278

Toyota Safety Sense 203

トラクションコントロール

（TRC）..... 247

トランスミッション 178

操作 178

メンテナンスデータ 412

トリップインフォメーション 76

トリップメーター 76

機能 76

表示切りかえボタン 77

な

内装

収納装備 274

手入れ 302

「ナノイー X」..... 266

に

荷物

積むときの注意 168

ぬ

ぬかるみにはまった (スタックした).....	406
----------------------------	-----

ね

燃費	
瞬間燃費.....	85
平均燃費.....	80
燃料.....	410
種類.....	410
燃料残量警告灯.....	358
燃料補給.....	197
容量.....	410
燃料計.....	76
燃料補給.....	197
燃料補給のしかた.....	197
燃料冷却システム	
LPG 表示灯.....	358
作動について.....	200, 267
燃料補給について.....	200

は

パーキングブレーキ.....	182
操作.....	182
パーキングブレーキ未解除	
警告灯.....	357
未解除走行時警告ブザー.....	361
メンテナンスデータ.....	412
パーキングサポートブレーキ	239
表示灯.....	74
警告灯.....	360
警告メッセージ.....	243
操作.....	240

パーソナルランプ.....	272
操作.....	272
ワット数.....	413
排気ガス.....	39
ハイビーム (ヘッドランプ).....	184
オートマチックハイビーム	188
スイッチ.....	184
電球 (バルブ) の交換.....	334
ワット数.....	413
ハイブリッドシステム	
EV ドライブモード.....	175
運転のアドバイス.....	253
オーバーヒート.....	401
回生ブレーキ.....	61
ガス欠になったとき.....	66
緊急時の停止方法.....	348
緊急停止システム.....	65
駆動用電池冷却用吸入口.....	65
警告メッセージ.....	65
高電圧部位.....	64
サービスプラグ.....	67
事故が発生したとき.....	67
始動できないときは.....	393
始動方法.....	170
車両接近通報装置.....	60
充電.....	61
注意.....	64
特徴.....	59
特有の音と振動.....	62
パワー (イグニッション)	
スイッチ.....	170
補機バッテリーがあがった	394
メンテナンス・	
修理・廃車するとき.....	62

ハイブリッドシステム	
インジケーター.....	83
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換.....	341
ハザードランプ（非常点滅灯）... 345	
スイッチ.....	345
電球（バルブ）	
の交換.....	335, 337
ワット数.....	413
挟み込み防止機能	
スライドドア.....	102
パワーウインドウ.....	155
発炎筒.....	346
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換.....	338
ワット数.....	413
バックドア.....	109
バッテリー（駆動用電池）..... 64	
警告メッセージ.....	363
充電について.....	61
搭載位置.....	64
冷却用吸入口.....	65
バッテリー（補機バッテリー）	
搭載位置.....	309
補機バッテリーがあがった....	394
補機バッテリーを	
交換するとき.....	397
バニティ（化粧用）ミラー..... 281	
バルブ（電球）	
交換要領（外装バルブ）.....	332
ワット数.....	413

パワーウインドウ.....	154
ウインドウロックスイッチ	154
閉めることができない	
ときは.....	155
操作.....	154
挟み込み防止機能.....	155
巻き込み防止機能.....	155
パワーコントロールユニット.....	64
パワースイッチ	
（パワースイッチ）.....	170
パワー（イグニッション）	
スイッチ.....	170
パワーステアリング.....	247
機能.....	247
警告灯.....	359
パワースライドドア.....	98
操作.....	98
挟み込み防止機能.....	102
パンクした.....	369, 381
番号灯	
（ライセンスプレートランプ）... 183	
スイッチ.....	183
電球（バルブ）の交換.....	340
ワット数.....	413
ハンドル	
（ステアリングホイール）.....	149
位置調整.....	149
スイッチ.....	77

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	247
ヒーター	
オートエアコン	260
シートヒーター	269
ミラーヒーター	262
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	345
スイッチ	345
電球 (バルブ)	
の交換	335, 337
ワット数	413
尾灯 (テールランプ)	183
スイッチ	183
電球 (バルブ) の交換	341
ヒューズ	328
表示灯	74
日よけ (サンバイザー)	281
ヒルスタートアシスト	
コントロール	247

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	394
ブザー	
高水温	359
シートベルト非着用	358
パーキングブレーキ	
未解除走行時	361
パワーステアリング	359
半ドア走行時	96
ブレーキ	357
油圧	357
ランプ消し忘れ	186
リバース	179
レーンディパーチャー	
アラート (LDA)	221
フック	
けん引フック	353
デッキフック	280
フロアマット固定フック	22
フューエルメーター (燃料計)	76
フューエルリッド	
(燃料補給口)	197

冬の前の準備（寒冷時の運転）...	255
冬用タイヤ	255
ブリクラッシュセーフティ	
(PCS)	209
機能	209
PCS OFF スイッチ	213
PCS 警告灯	360
ブレーキ	
回生ブレーキ	61
緊急ブレーキシグナル	247
警告ブザー	357
パーキングブレーキ	182
ブレーキ警告灯	357
メンテナンスデータ	412
ブレーキアシスト	247
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯	358
機能	247
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる	163
ブレーキフルード	412
フロアボード	169
フロアマット	22
フロントシート	114
正しい運転姿勢	24
調整	114
手入れ	302
ヘッドレスト	116
フロント方向指示灯	181
電球（バルブ）の交換	335
方向指示レバー	181
ワット数	413

へ

平均燃費	80
ヘッドランプ	183
スイッチ	183
電球（バルブ）	
の交換	334, 341
ライトセンサー	186
ランプ消し忘れ警告ブザー	186
ランプ消し忘れ防止機能	186
ワット数	413
ヘッドランプオートレベリング	
システム	186
ヘッドレスト	116

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	381
メンテナンスデータ	413
方向指示灯	181
電球（バルブ）	
の交換	335, 337, 338
方向指示レバー	181
ワット数	413
補機バッテリー	
補機バッテリーが	
あがったときは	394
補機バッテリーについて	309
ホーン（警音器）	149
保証	9
ボトルホルダー	276
ボンネット	308
開け方	308

ま

前側固定ベルト.....	137
マスターウォーニング.....	359
マルチインフォメーション ディスプレイ	79

み

ミラー	
アウターミラー	152
インナーミラー	151
バニティミラー	281
ミラーヒーター	262

め

メーター（計器類）.....	76
計器類.....	76
警告灯.....	72
照度調整.....	77
表示灯.....	74
マルチインフォメーション ディスプレイ	79
メンテナンスデータ	410

も

モーター（電気モーター）.....	59
モーターでの走行 （EVドライブモード）	175

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	415
雪道ですべて動けない （スタックした）.....	406
油脂類	410

ら

ライセンスプレートランプ （番号灯）.....	183
スイッチ	183
電球（バルブ）の交換	340
ワット数	413
ラゲージルーム	
デッキアンダートレイ	277
デッキフック	280
デッキボード	277
ラジエーター	
オーバーヒート.....	401
メンテナンスデータ	412
ランプ	
室内灯	271
電球（バルブ）の交換	332
パーソナルランプ.....	272
非常点滅灯 （ハザードランプ）	345
ヘッドランプ（前照灯）	183
方向指示灯（ターンシグナル ランプ／ウインカー）	181
ライトセンサー	186
ランプ消し忘れ警告ブザー	186
ランプ消し忘れ防止機能	186
ルームランプ	272
ワット数	413
ランプ消し忘れ警告ブザー	186
ランプ消し忘れ防止機能.....	186

り

リヤウインドウデフォッガー	
スイッチ	262
リヤ方向指示灯	181
電球（バルブ）の交換	338
方向指示レバー	181
ワット数	413
リヤワイパー	195
リルーター	146

る

ルームミラー	
（インナーミラー）	151
ルームランプ（室内灯）	271
操作	272
ワット数	413

れ

レーンディパーチャーアラート	
（LDA）	221
冷却水	412
高水温警告灯	359
冬の前の準備	255
メンテナンスデータ	412
冷却装置（ラジエーター）	
オーバーヒート	401
メンテナンスデータ	412
レバー	
シフト	178
燃料補給口	198
ハンドルの位置調整レバー	149
方向指示	181
ボンネット解除	308
ロック（レバー）	95

ろ

ロック	
ウインドウロック	154
シフトロック	179
チャイルドプロテクター	95
ドア	94
ワイヤレスリモコン	94

わ

ワイパー &	
ウォッシャー	193, 195
ワイパーブレード（寒冷地用）	256
ワイヤレスリモコン	92
作動の合図	94
操作	94
電池の交換	325
ワックス	298
ワット数	413

オートガススタンドでの情報

燃料補給や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 308

燃料補給口

P. 198

ボンネット解除レバー

P. 308

燃料補給口オープナー

P. 198

タイヤ空気圧

P. 413

IOPST012a

燃料の容量（参考値）	52L※ ¹
燃料の種類	LP オートガス ※ ² ※ ³
タイヤが冷えている ときの空気圧	P. 413
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時 3.4L オイルとフィルター交換時 3.7L
エンジンオイルの種類	P. 410

※¹ 保安基準により、タンク容量の 80%が最大補給（充てん）量となります。

※² プロパン率（燃料のプロパン割合）冬季：70%以下、夏季：30%以下の
オートガスを補給してください。

※³ プロパン率（燃料のプロパン割合）100% のオートガスも使用できます。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

